

# 埼玉県立近代美術館年報

平成 27 年度



ANNUAL REPORT 2015——THE MUSEUM OF MODERN ART, SAITAMA

# 埼玉県立近代美術館年報

平成27年度



ANNUAL REPORT 2015—THE MUSEUM OF MODERNART, SAITAMA

## ■目次

埼玉県立近代美術館 ミッション・ステートメント 及び戦略目標 .....	3
施設 .....	4
美術館誌 .....	5
企画展	
private,private わたしをひらくコレクション .....	6
動く、光る、目が回る！キネティック・アート .....	13
すごいぞ、これは！ .....	19
旅と芸術 発見・驚異・夢想 .....	25
原田直次郎展 .....	34
MOMAS コレクション .....	41
MOMAS コレクション [ I ] .....	41
MOMAS コレクション [ II ] .....	45
MOMAS コレクション [ III ] .....	48
MOMAS コレクション [ IV ] .....	50
サンデートーク .....	52
収集事業 .....	53
新収蔵作品一覧 .....	54
美術資料貸出等一覧 .....	65
特別利用 .....	65
教育・普及事業 .....	67
美術館講座	
近・現代建築探検ツアー .....	67
子どものためのプログラム	
MOMAS の扉 .....	69
夏休みの特別プログラム .....	70
ミュージアム・コラボレーション .....	71
企画展ワークシートの作成 .....	72
学校との連携 .....	73
博物館実習 .....	77
美術館ボランティア	
美術館サポーター .....	78
教育普及サポート・スタッフ .....	79
MOMAS 彫刻ボランティア .....	79
広聴・広報・刊行物 .....	81
図書資料の収集と公開 .....	85
椅子の美術館 .....	85
ハイビジョン・コーナー .....	85
トピックス	
[1] 第3回座れる段ボールの椅子グランプリ .....	86
[2] あなたとどこでもアート／着がわりプロジェクト .....	88
埼玉県立近代美術館フレンド .....	92
貸館事業 .....	93

入館者数一覧 .....	95
名簿	
埼玉県立近代美術館協議会委員 .....	96
埼玉県立近代美術館資料選考評価委員会委員 .....	96
埼玉県立近代美術館利用審査会委員 .....	96
埼玉県立近代美術館職員 .....	96

---

## ■埼玉県立近代美術館 ミッション・ステートメント及び戦略目標

埼玉県立近代美術館は世界の今を生きる全ての人のために存在します。

- 1 美術と出会い、新たな考え方や価値を発見するための体験を提供します。
  - ①身近な視点から世界の今をみつめ、国境や言語を超えて共有される美術の素晴らしさを紹介します。
  - ②出会い・発見・感動をキーワードに、新たな視点に基づく展示や美術の楽しさを体感できるプログラムを提供します。
  - ③継続的な収集活動を通して特色あるコレクションを形成し後世に伝えます。また館内外での効果的な活用を通じてその魅力を紹介し付加価値を高めていきます。
  - ④すべての美術館活動の基盤となる調査研究活動を重視します。
  
- 2 人々が集い、参加し、交流するための基地となります。
  - ①魅力あるレストランやショップなど上質な空間とゆとりの時間を提供し、高齢者・障害者を含め誰もが利用しやすい環境を持った、居心地のよい美術館を目指します。
  - ②美術に関する情報センターの役割を果たします。
  - ③美術を愛する人々の交流や自主的活動を支援します。
  
- 3 未来を創る子どもたちの感性と創造力を育みます。
  - ①子どもたちとともに生き生きとした感性と創造力の素晴らしさを再発見していきます。
  - ②学校現場との連携を深め、学校による利用の促進を図ります。
  
- 4 地域や県民とともに進化する美術館を目指します。
  - ①県民のニーズや時代の変化に対応して進化する美術館を目指します。美術館の情報を公開し改善に努めます。職員の意識改革を継続して行います。
  - ②美術館の持つあらゆる資源（人・作品・施設等）を有機的・効果的に活用し、新たな顧客層を開拓するとともに、美術館を支援してくださる方々の輪を広げます。
  - ③北浦和公園の活用も含め、美術館がまちのにぎわいの創出や地域の活性化に寄与するように努めます。

---

## ■施設

敷地面積 35,177 m<sup>2</sup>

建築面積 2,238 m<sup>2</sup>

延床面積 8,577 m<sup>2</sup>

展示壁長 1,440 m

建築高さ 17.8 m

構造 地上3階、地下1階、鉄筋コンクリート造、  
一部鉄骨鉄筋コンクリート造

工期 昭和55年3月28日～昭和57年2月27日

設計 株式会社黒川紀章建築都市設計事務所

開館 昭和57年11月3日

黒川紀章設計の初の美術館である当館の建築上の特色を挙げると、建物全体がグリッド（格子）の立方体により構成されており、入口へのアプローチとして正面のエントランス・ポーチにグレーゾーン（内部と外部との中間領域）と呼ばれる鳥籠状の構造体が鳥のくちばしのように突き出ている。その四角い形の固さを破るように、ファサード（建物正面）には波状の曲面ガラスがはめこまれている。

各階に分かれた展示室の一体感を確保するため、建物中央に4層を貫く吹き抜けのセンター・ホールが設けられた。ここは天井から自然光を採り入れるとともに、中空にさまざまな展示物を吊り下げることが可能で、極めて特異な空間としてコンサートなどのイベントにも使われる。

2階の企画展示室は、前述の波状ガラスによるファサードの一部から、ギャラリーの中に直接外光が入ってくる。これは、密閉して一定不変の人工光線による状態にするという美術館構造の常識を打破する試みである。ここからは北浦和公園の美しい緑を目にすることができ、密閉されることで失われがちな美術館の中の人間性を回復するという意味でも注目される。

開館後の1985-86年には、田中米吉の作品《ドッキング》が外壁など建築と共生するように設置された。

## ■美術館誌

### 平成 27(2015)年

- 4月11日 リニューアルオープン記念「MOMASコレクション [ I ]」を開催（～7月12日）。  
リニューアルオープン記念展「private, private – わたしをひらくコレクション」を開催（～5月24日）。レセプションに出品者などが出席。
- 4月12日 「見沼100年構想の会」による緑のボランティアが北浦和公園を整備（以降毎月第2日曜日）。
- 5月13日 「ファミリー鑑賞会」を常設展示室で開催。
- 5月22日 「第1回あなたとどこでもアート／着がわりプロジェクト実行委員会」を開催。文化庁平成27年度地域の核になる美術館・歴史博物館支援事業助成により事業を実施（～3月31日）。
- 6月1日 収蔵品検索「MOMAS Collection Search」を公開。
- 6月2日 「第65回県展 埼玉県美術展覧会」を開催（～6月24日）。
- 6月7日 ポリスコンサートを北浦和公園で開催。
- 6月19日 「第1回埼玉県立近代美術館フレンド理事会」を開催。
- 7月4日 企画展「動く、光る、目がまわる！キネティック・アート」を開催（～9月6日）。
- 7月10日 「ミュージアム・キャラバン」を熊谷市立星宮小学校で開催。講師として収蔵作家高田洋一氏を派遣。
- 7月17日 「第1回埼玉県立近代美術館利用審査会」を開催。「第1回心揺さぶるアート事業実行委員会」を開催。文化庁平成27年度戦略的芸術文化創造推進事業委託により障害者による優れたアートについての事業を実施（～3月31日）。
- 7月18日 「MOMASコレクション [ II ]」を開催（～10月4日）。
- 8月21日 「第1回埼玉県立近代美術館協議会」を開催。
- 8月22日 「座れる段ボールの椅子グランプリ」表彰式を開催。
- 9月19日 企画展「すごいぞ、これは！」を開催（～11月3日）。オープニング・セレモニーに作家等が出席。
- 9月27日 北浦和公園にて「仮面ライダーゴースト」ロケ。
- 10月4日 ポリスコンサートを北浦和公園で開催。
- 10月10日 「MOMASコレクション [ III ]」を開催（～1月17日）。
- 11月14日 企画展「〈旅〉と芸術—発見・驚異・夢想」を開催（～1月31日）。

11月26日 「ファミリー鑑賞会」を常設展示室で開催。

### 平成 28(2016)年

- 1月12日 北浦和公園にて「ヒガンバナ～警視庁捜査七課～」ロケ。
- 1月21日 Google カルチュラルインスティテュートに参加。
- 1月23日 「MOMASコレクション [ IV ]」を開催（～4月10日）。  
「埼玉県立近代美術館資料選考評価委員会」による審査（～2月5日）。
- 2月9日 「第2回埼玉県立近代美術館利用審査会」を開催。
- 2月11日 企画展「原田直次郎展」を開催（～3月27日）。レセプションに原田直次郎ゆかりの方などが出席。
- 2月17日 「第2回埼玉県立近代美術館協議会」を開催。
- 3月15日 「第2回埼玉県立近代美術館フレンド理事会」を開催。
- 3月18日 「第2回あなたとどこでもアート／着がわりプロジェクト実行委員会」を開催。  
「第2回心揺さぶるアート事業実行委員会」を開催。

## ■企画展

### ■リニューアルオープン記念展 private, private –わたしをひらくコレクション

private, private : From the Collection of  
the Museum of Modern Art, Saitama

- 会期：2015年4月11日（土）～5月24日（日）
- 主催：埼玉県立近代美術館
- 協力：JR 東日本大宮支社、FM NACK 5
- 観覧料：一般 800 円（640 円）、大高生 640 円（520 円）
- 入場者数：5,893 人
- 広報印刷物：ポスター B2、ちらし A4 / デザイン：加藤賢策（LABORATORIES）
- 担当学芸員：吉岡知子、五味良子、大浦周、梅津元



B2 ポスター

### ■開催趣旨

当館は2か年にわたる大規模改修工事を終えて、2015年4月にリニューアルオープンを迎えた。その幕開けとなる本展では、「私的な／個人的な」という意味を持つ言葉「private」を手がかりとして、委嘱作品および借用作品を一部交えながら、当館のコレクションを紹介した。

美術館は公に開かれた場所でありながら、同時にとても「private」な側面を持っている。たとえば、作品と向き合ったときに感じた思いは「わたし」ひとりのものであり、作品も多く場合は美術家という個人が制作したものである。それはかつて個人コレクターが慈しみ、蒐集した美術品か

もしれない。

このように美術館が時代や場所を超えて「個」と「個」が出会う場所であることをふまえて、本展ではコレクション展示によって、当館がこれまでに積み重ねてきた「個」と「個」の出会いを振り返ることを意図した。加えて、リニューアルオープンした美術館で、来館者がさまざまな「private」と新たに出会い、「わたし」の感覚をしなやかに「ひらく」契機となれば—展覧会タイトルおよびサブタイトルには、そのような願いを込めた。

本展は核となる3つのセクションと、インターセクション（幕間）、中川陽介の映像作品によるプロローグとエピローグから構成されている。

### ■展覧会構成 \*（ ）内は担当者名

プロローグ ここはとじていた

セクション01 private passion: 越境者の軌跡—瑛九と須田 剋太（吉岡知子）

セクション02 private collection: 蒐集家の眼差—大熊家コレクション（五味良子）

インターセクション private to private—あなたのこだま（梅津元）

セクション03 private vision: 美術家の作法—アナザー・ヴィジョン・サイタマ（大浦周）

エピローグ わたしをひらく場所

### ■関連事業

- ・館長・建畠哲のリニューアルオープン記念漫談 / 4月11日（土） / 地階センター・ホール / 参加者：50名
- ・リキシャカメラ登場 / 4月11日（土）、12日（日）、5月5日（火・祝）、6日（水・振休） / 北浦和公園 / 参加者：計1,146名
- ・ミュージアム・コンサート「もますまつりおんがくをたのしむ」 / 4月12日（日） / 出演：川嶋哲郎（サクソフォン） / 1階エントランス・ホール / 参加者：60名
- ・トークセッション「MOMAT × MOT × MOMAS —コレクション展示の可能性」 / 鈴木勝雄（東京国立近代美術館主任研究員） × 藤井亜紀（東京都現代美術館学芸員） × 梅津元 / 5月10日（日） / 2階講堂 / 参加者：39名
- ・中川陽介ビデオトークラウンジ / 出演：中川陽介（本展出品作家）、聞き手：大浦周 / 5月24日（日） / 2階講堂 / 参加者：32名
- ・担当学芸員によるリレートーク / 4月11日（土）、12日（日）、5月5日（火・祝）、6日（水・振休） / 吉岡知子、五味良子、大浦周 / 参加者：計82名

## ■広報記録

### <新聞>

- ・「装い新たに開館 来月 24 日まで記念の企画展」『東京新聞』2015 年 4 月 19 日
- ・小寺美保子「美博ピックアップ」『朝日新聞』2015 年 4 月 22 日

### <雑誌、ミニコミ誌等>

- ・吉岡知子「『個』と『個』が出会うきっかけに リニューアルオープン記念展：private, private—わたしをひらくコレクション」『ソカロ』2015 年 4-5 月号
- ・落合範崇、梅津元「報告「もますまつり」& 「private, private—わたしをひらくコレクション」関連イベント」『ソカロ』2015 年 8-9 月号

### <テレビ、ラジオ>

FM 浦和「private, private—わたしをひらくコレクション」2015 年 3 月 4 日、18 日

NHK さいたま「日刊！さいたま〜ず」2015 年 5 月 13 日

### <ウェブ>

松崎未来「大観からタレルまで！新しくなった MOMAS に行ってみよう」『bitecho』

## ■担当後記

◆リニューアルオープンの幕開けとなるコレクション展は、これまでのコレクション形成を振り返りつつ、新しい一歩を踏み出すことを意識した展覧会にしたいと考えた。そして、ひとりひとりが静かに深く作品と向き合うという、美術館の基本に立ち返った展覧会にしたいという思いがあった。

◆展示構成として、「private」をキーワードに、①「private passion: 越境者の軌跡—瑛九と須田剋太」、②「private collection: 蒐集家の眼差—大熊家コレクション」、③「private vision: 美術家の作法—アナザー・ヴィジョン・サイタマ」の3つの核となるセクションを設定した。①では、当館のコレクションにとって重要な県ゆかりの美術家で、戦前から戦後にかけて活躍した須田剋太と瑛九の二人を組み合わせた展示を行った。②では、平成 19 年度と 25 年度に寄贈を受けた「大熊家コレクション」の日本画を MOMAS コレクションの展示とあわせて、初めて一挙に全点公開した。③では、当館が継続して開催してきた展覧会シリーズで、活躍中の埼玉ゆかりのアーティストに焦点を当てる「ニュー・ヴィジョン・サイタマ」のこれまでの歩みを振り返り、過去 4 回の出品作家を中心に紹介した。

◆セクション 2 と 3 をつなぐ「幕間」として設けられた「インターセクション private to private—あなたのこだま」

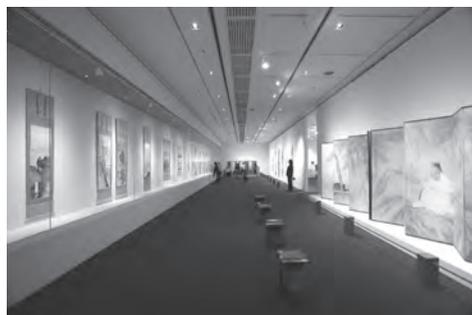
では、「private」という言葉に内包される充足感と閉塞感、外への憧れと諦念を基調に作品が選定され、本展のテーマが凝縮された展示空間が実現した。

◆本展のプロローグとして、映像作家／アーティストの中川陽介氏（1982 -）に、工事休館中の美術館を撮影した映像作品の制作を依頼した。本作は改修工事のドキュメンテーションかつ映像作品という性質をもつ貴重な映像となった。さらにエピローグ「わたしをひらく場所」でも、中川氏が撮影した黒川紀章の中銀カプセルの映像を上映した。中川氏の作品は「とじていた」場所が「ひらく」という展覧会コンセプトを体現しつつ、性質の異なる各セクションが展開される展覧会の通奏低音として機能した。

◆会期中、トークセッション「MOMAT × MOT × MOMAS—コレクション展示の可能性」を開催した。3名のパネラーに、本展の各セクションの担当学芸員 3 名が加わり、活発な討議がなされた。鈴木氏による美術館と博物館の境界という問題提起、藤井氏によるテーマ展示の成果と問題点・通史の見直しという指摘、梅津による審美的価値と展示的価値の違いなど、コレクションの展示に関わる多様な論点が浮き彫りになった。また、会期最終日には、中川陽介氏をお招きしてビデオトークラウンジが開催された。中川氏の映像を見ながら、作品とドキュメンタリーの境界、作ることの領域、アーティストの役割など、極めて今日的な問題が話し合われた。



プロローグ：中川陽介氏の映像作品 展示風景



セクション 02：大熊家コレクション展示風景

---

---

## ■出品リスト

- ・作品データは原則として以下の通り：作者名、作品名、制作年、技法・素材等、所蔵
- ・所蔵表記のない作品は、すべて当館蔵である

### プロフィール | ここはとじていた

---

中川陽介 《ここはとじていた》 2015年 映像、約10分 特別出品 作家蔵

駒井哲郎 《夢の始まり》 1949年 アクアチント、ドライポイント、紙

駒井哲郎 《夢の推移》 1950年 メゾチント、紙

駒井哲郎 《夢の終わり》 1951年 メゾチント、エングレーヴィング、ルーレット、紙

### 01 | private passion 越境者の軌跡—瑛九と須田剋太

---

大久保喜一 《熊中正門風景》 1935年 油彩、カンヴァス

須田剋太 《道》 1925年頃 油彩、カンヴァス 鴻巣市蔵

須田剋太 《築地本願寺》 1937年 油彩、カンヴァス うらわ美術館蔵

須田剋太 《読書する男》 1939年 油彩、カンヴァス 個人蔵

須田剋太 《老人像》 1941年 油彩、カンヴァス

須田剋太 《三月堂》 1949年 油彩、紙 うらわ美術館蔵

須田剋太 《作品 G-165》 1950年 グアッシュ、紙

須田剋太 《作品 G-120》 1951年 グアッシュ、紙

須田剋太 《上岡良宛葉書（1952年4月9日付消印）》 1952年 葉書 上岡常浩氏蔵

須田剋太 《作品 G-138》 1954年 グアッシュ、紙

須田剋太 《『紫北』第4号表紙のためのコラージュ》 1954年頃 コラージュ、紙 上岡常浩氏蔵

須田剋太 《『紫北』第7号表紙のためのコラージュ》 1955年頃 コラージュ、紙 上岡常浩氏蔵

須田剋太 《不協雑音》 1955年 油彩、ドンゴロス

表紙原画：須田剋太 『紫北』第7号 1955年 雑誌 上岡常浩氏蔵

須田剋太 「吹上町の幻想」『紫北』第17号 1956年 雑誌 上岡常浩氏蔵

須田剋太 「吹上町の幻想(2)」『紫北』第18号 1957年 雑誌 上岡常浩氏蔵

須田剋太 《上岡良宛書簡（1957年2月3日付消印）》 1957年 書簡 上岡常浩氏蔵

須田剋太 《作品 G-114》 1959年 グアッシュ、紙

須田剋太 《作品 G-147》 1959年 グアッシュ、紙

須田剋太 《作品 G-198》 1959年 グアッシュ、紙

須田剋太 《作品 G-170》 1959年 グアッシュ、紙

須田剋太 《否定的絶対無》 1959年 油彩、石、カンヴァス

須田剋太 《不在の現実》 1962年 油彩、ジュラルミンの粉、ドンゴロス

須田剋太 《私の曼陀羅 a》 1964年 油彩、カンヴァス

長谷川三郎 「瑛九の絵」内田耕平編『芸術家瑛九』 1950年 書籍

長谷川三郎 「須田剋太への手紙」『アトリエ』 1951年8月号 1951年 雑誌

杉田秀夫 「逝ける萬鐵五郎氏の藝術を論ず」『みづゑ』 1927年6月号 1927年 雑誌（瑛九旧蔵）

瑛九 《十三子姉》 1929年 油彩、板にカンヴァス

杉田秀夫 「フォトグラムの自由な制作のために」『フォトタイムス』 1930年8月号 1930年 雑誌（瑛九旧蔵）

杉田秀夫 「アマチュア・ポートレート」『フォトタイムス』 1931年10月号 1931年 雑誌（瑛九旧蔵）

瑛九 《作品(71)》 1932年 ゼラチン・シルバー・プリント

瑛九 《女B》 1935年 水彩、紙

---

瑛 九 《(Drawing-Block 1935-12月)》 1935年 インク、紙 うらわ美術館蔵  
瑛 九 《(CARNET CROQUIS 1936, 2, 13)》 1936年 インク、紙 うらわ美術館蔵  
瑛 九 《北尾淳一郎宛書簡 (1936年3月14日消印)》 1936年 書簡 うらわ美術館蔵  
瑛 九 《作品 (40)》 1936年 ゼラチン・シルバー・プリント  
瑛 九 《作品 (6)》 1937年 ゼラチン・シルバー・プリント  
瑛 九 《作品 I》 1937年 コラージュ、紙  
瑛 九 《兄妹》 1944年 油彩、紙 (板に貼りこみ)  
瑛 九 《ともだち》 1944年 油彩、紙 (板に貼りこみ)  
瑛 九 《出発》 1949年 油彩、カンヴァス  
瑛 九 《北尾淳一郎宛書簡 (1949年2月7日消印)》 1949年 書簡 うらわ美術館蔵  
瑛 九 《眼》 1951年 エッチング、紙  
瑛 九 《リズム》 1951年 ゼラチン・シルバー・プリント  
瑛 九 《希望》 1951年 ゼラチン・シルバー・プリント  
瑛 九 《花》 1956年 油彩、板  
瑛 九 《森の中》 1957年 リトグラフ、紙  
瑛 九 《雲》 1957年 リトグラフ、紙  
瑛 九 《子供のプロフィール》 1957年 油彩、カンヴァス  
瑛 九 《青の中の黄色い丸》 1957-58年 油彩、カンヴァス  
瑛 九 《雲》 1959年 油彩、カンヴァス

---

## 02 | private collection 蒐集家の眼差一大熊家コレクション

---

野口小蘋 《茂林佳趣図》 1913年 彩色、絹  
野口小蘋 《僊人観瀑図》 1913年 彩色、絹  
鈴木華邨 《秋景山水》 彩色、絹  
福井江亭 《山水》 1917年以前 墨、絹  
寺崎廣業 《李太白観瀑之図》 彩色、絹  
中村不折 《小亭聴泉図》 1912-30年 彩色、絹  
田中頼璋 《山水》 1921年頃 彩色、絹  
田中頼璋 《松下高士図》 1922年頃 彩色、絹  
横山大観 《春雨 秋雨》 1923年頃 彩色、絹  
横山大観 《籠夜》 1924年頃 彩色、絹  
横山大観 《神州第一峰》 1924年頃 墨、金泥、絹  
横山大観 《萬歳松碧》 1925年頃 彩色、絹  
横山大観 《武蔵野の秋》 1926年頃 彩色、絹  
横山大観 《白梅》 1927年頃 彩色、絹  
横山大観 《海辺巖》 1930年 彩色、絹  
横山大観 《仙果》 1934年頃 彩色、絹  
横山大観 《漁村曙》 1940年 彩色、絹  
横山大観 《日本心神》 1944年頃 墨、金泥、絹  
横山大観 《霊峰不二》 1947年頃 墨、金泥、絹  
下村観山 《牧童》 1911年頃 彩色、絹  
川合玉堂 《晴江釣舟》 彩色、紙

---

---

小室翠雲 《楼閣山水ノ図》 1921-36年 彩色、絹

池上秀畝 《鷺》 彩色、絹

橋本閑雪 《峡雲夜雨》 彩色、絹

橋本閑雪 《訪隠図》 彩色、絹

橋本閑雪 《春秋山水》 彩色、絹

大林千萬樹 《編笠茶屋》 彩色、絹

堅山南風 《鷺》 彩色、絹

平井樺仙 《雲間の富士》 彩色、絹

奥村土牛 《鴛鴦》 1935年 彩色、絹

堂本印象 《春酒沽》 1921-23年頃 彩色、絹

堂本印象 《鳥言長者草》 1922年 彩色、絹

富取風堂 《野の花》 彩色、紙

佐藤太清 《宿雪》 1958年 彩色、紙

堀越陽子 《とりとめなく、あてどないオルフェウスの散歩》 1979年 鏡、木

李禹煥 《線より》 1980年 顔料、カンヴァス

---

## インターセクション | private to private あなたのこだま

---

### 室内一卓上／回転

瑛 九 《かぎ》 1956年 ドライポイント、紙

駒井哲郎 《ラジオ アクティヴィティ イン マイ ルーム》 1950年 エッチング、メゾチント、エングレーヴィング、紙

駒井哲郎 《室内》 1970年 エッチング、紙

池田満寿夫 《目のある部屋》 1956年 エッチング、アクアチント、紙

山本容子 《His Book (After Eyes)》 1983年 ソフトグラウンド・エッチング、紙

金子徳衛 《卓上B》 1982年 油彩、カンヴァス

池田満寿夫 《ぼくのもの・おまえのもの1》 1963年 ドライポイント、ルーレット、紙

ヘルベルト・バイヤー 《色層の円盤》 1970年 セリグラフ、紙

ラスロ・モホリ＝ナジ 《フォトグラム》 1922年 (プリントは1929年) ゼラチン・シルバー・プリント

マン・レイ 《レイヨグラフ》 1921-22年頃 (プリントは1963年) ゼラチン・シルバー・プリント

瑛 九 《作品 (32)》 1952-53年 ゼラチン・シルバー・プリント

マルセル・デュシャン 《ロト・レリーフ》 1935年 (1965年のエディション) 紙製ディスク 6枚

堀越陽子 《罍》 1985年 ステンレス、鏡

柄澤齊 《肖像VII シャルル・ボードレー》 1983年 木口木版、紙

駒井哲郎 《記号の静物》 1951年 エッチング、ドライポイント、ソフトグラウンド・エッチング、紙

日和崎専夫 《蔵書票》 木版、紙

柏原えつとむ 《これは本である》 1970年 セリグラフ、紙

ジャン・アルプ 《バラを食べるもの》 1963年 ブロンズ

上田薫 《ジェリーにスプーンC》 1990年 油彩、カンヴァス

中川陽介 《cramps》 2013年 映像、約8分 特別出品 作家蔵

(参考資料) MICK NESS “de ark” 1983年 LPレコード 個人蔵

(ロバート・スミッソン関連) “Artforum” 1994 Summer 1994年

(クリスチャン・マークレー関連) 『美術手帖』 1996年12月号 1996年 個人蔵

---

## 庭—愛でるもの／慈しむもの

- 木村直道 《カップヘッド》 1965-67年 鉄、銅、木
- 木村直道 《龍》 1965-71年 金属
- 木村直道 《ズイズズッコロバシ》 1965-67年 金属
- 増田三男 《金彩双虫文箱》 1980年頃 銀、金のアマルガム、蹴彫、魚々子、石
- 増田三男 《金彩梶ノ葉茶器》 1993年 銀、金のアマルガム、岩絵具、石
- 増田三男 《金彩蝶文小箱》 1994年 銀、金のアマルガム、蹴彫、魚々子、岩絵具、石
- 増田三男 《金彩浜辺ノ詩箱》 銀、金のアマルガム、蹴彫
- 山本容子 《静物画：鈴、おじゃみ、三味線の糸、レコード針》 2001-04年 ソフトグランド・エッチング、紙
- 山本容子 《静物画：クマバチ、笹の葉、ススキ、ハモニカ》 2001-04年 ソフトグランド・エッチング、紙
- 山本容子 《静物画：セミ、ホイッスル、おかき、カ》 2001-04年 ソフトグランド・エッチング、紙
- 駒井哲郎 《庭の一隅》 1958年 エッチング、ドライポイント、エンブレヴィング、紙
- 駒井哲郎 《ある空虚》 1957年 エッチング、紙
- 中林忠良 《転位 '82-地-VI (夏)》 1982年 エッチング、メゾチント、紙
- 中林忠良 《転位 '83-地-VIII》 1983年 エッチング、紙
- 草間彌生 《生きものの巣》 1975年 コラージュ、パステル、インク、紙
- 草間彌生 《魂たちが安息する穴》 1975年 コラージュ、パステル、インク、紙
- 熊谷守一 《ケン》 1956年 油彩、カンヴァス
- 熊谷守一 《百日草》 1960年 油彩、板
- 蜷 嘸 《雲と太陽》 1956年 リトグラフ、紙
- 泉 茂 《ひるね》 1957年 リトグラフ、紙
- 岸田劉生 《路傍初夏》 1920年 油彩、カンヴァス

## 外へ—天を見上げて／記憶の彼方

- 立石大河亞 (タイガー立石) 《Time elevator》 1979年 セリグラフ、紙
- 池田満寿夫 《原始の太陽》 1956年 エッチング、アクアチント、紙
- 熊谷守一 《夏の月》 1961年 油彩、板
- 立石大河亞 (タイガー立石) 《Cabbage moon》 1979年 セリグラフ、紙
- 駒井哲郎 《月のたまもの》 1952年 アクアチント (サンドペーパー使用)、紙
- 駒井哲郎 《星座》 1969年 アクアチント (カラー)、紙
- 日和崎尊夫 《異星》 1983年 木口木版、紙
- 野田哲也 《日記：1980年7月11日、成田へ》 1980年 セリグラフ、紙
- 立石大河亞 (タイガー立石) 《Milano-Torino Superway》 1974年 セリグラフ、紙
- 野村仁 《Dec. 1973-Oct. 1974 又は視覚のブラウン運動》 1973-74年 16mmフィルム (DVDで上映) / 111分 (1秒8コマ相当で上映)
- 野田哲也 《日記：1982年1月3日、出水へ》 1982年 セリグラフ、紙
- 正木隆 《入間川2月》 1999年 油彩、綿布
- 駒井哲郎 《入口》 モノタイプ (カラー)
- ジェームズ・タレル 《テレフォン・ブース (コール・ウェイトイング)》 1997年 木、FRP、ネオン管、ストロボライト、他
- 堀越陽子 《銜》 1985年 ステンレス、鏡

---

## 03 | private vision 美術家の作法—アナザー・ヴィジョン・サイタマ

---

黒田克正 《黒いリズム》 2002-03年 鉛筆、アクリル絵具、砂、エナメル、カンヴァス

黒田克正 《交錯する時》 1998年 アクリル絵具、鉛筆、紙

野村仁 《太陽7月》 1985-92年 タイプCプリント (2枚組)

橋本真之 《作品211 発生期の頃》 1991-92年 銅、鍛金

橋本真之 《果実の中の木もれ陽 ドローイングII》 2003年 パステル、油彩、紙

橋本真之 《果実の中の木もれ陽 制作スケッチ》 1985-2003年 鉛筆、色鉛筆、インク、紙

根岸芳郎 《88-1-20》 1988年 アクリル絵具、綿布、パネル 寄託作品 榎本光治氏蔵

古川勝紀 《国道16号—見つめ返す風景—》 1999年 アクリル絵具、カンヴァス

古川勝紀 《AM 8:20 海へ》 2003年 アクリル絵具、カンヴァス

塩崎由美子 《シリーズ〈恢復〉より》 2011年 半光沢の銀塩印画紙にレーザープリント

塩崎由美子 《シリーズ〈恢復〉より》 2011年 半光沢の銀塩印画紙にレーザープリント

塩崎由美子 《シリーズ〈恢復〉より》 2011年 半光沢の銀塩印画紙にレーザープリント

塩崎由美子 《シリーズ〈恢復〉より》 2011年 半光沢の銀塩印画紙にレーザープリント

佐藤時啓 《Breath-graph I》 1990年 ゼラチン・シルバー・プリント、アクリルメディウム、ステンレス、パネ

佐藤時啓 《Photo-Respiration シリーズより “#366 Saitamakinbi”》 1999年 ゼラチン・シルバー・プリント、ステンレス、パネ 寄託作品 作家蔵

佐藤時啓 《Photo-Respiration シリーズより “#368 Saitamakinbi”》 1999年 ゼラチン・シルバー・プリント、ステンレス、パネ 寄託作品 作家蔵

佐藤時啓 《Photo-Respiration シリーズより “#369 Saitamakinbi”》 1999年 ゼラチン・シルバー・プリント、ステンレス、パネ 寄託作品 作家蔵

佐藤時啓 《Photo-Respiration シリーズより “#370 Saitamakinbi”》 1999年 ゼラチン・シルバー・プリント、ステンレス、パネ 寄託作品 作家蔵

丸山直文 《garden 3》 2003年 アクリル絵具、綿布 寄託作品 牧野光氏蔵

丸山直文 《puddle in the woods 6》 2010年 アクリル絵具、綿布 寄託作品 牧野光氏蔵

志水児王 《緯度 35 度 48 分 14.648 秒／経度 139 度 29 分 32.32 秒 TYPE-HC5T 02:34-02:40》 2007年 ラムダプリント

志水児王 《緯度 35 度 48 分 14.648 秒／経度 139 度 29 分 32.32 秒 TYPE-I 23:34-23:38》 2007年 ラムダプリント

志水児王 《緯度 35 度 48 分 14.648 秒／経度 139 度 29 分 32.32 秒 TYPE-YY 21:54-22:07》 2007年 ラムダプリント

志水児王 《緯度 35 度 48 分 14.648 秒／経度 139 度 29 分 32.32 秒 TYPE-Y 00:00-00:09》 2007年 ラムダプリント

---

## エピソード | わたしをひらく場所

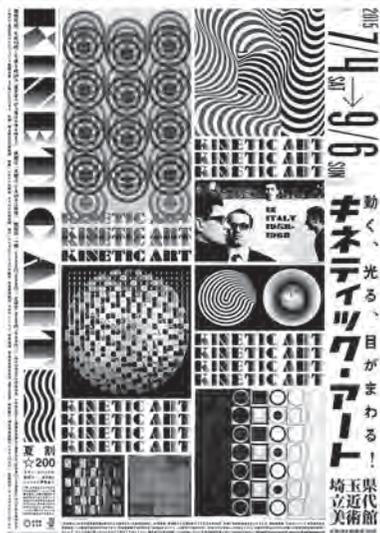
---

中川陽介 《黒川紀章「中銀カプセルタワービル・住宅カプセル」》 2014年 映像、約4分 特別出品 作家蔵

## ■動く、光る、目がまわる！キネティック・アート

Arte cinetica e programmata in Italia  
1958-1968

- 会期：2015年7月4日（土）～9月6日（日）
- 主催：埼玉県立近代美術館
- 後援：イタリア大使館、イタリア文化会館
- 協力：アリアリアーイタリア航空、日本貨物航空、アピチェーミラノ、日本通運、JR東日本大宮支社、FM NACK5
- 特別協力：伊日現代美術センター（パルマ）
- 企画協力：アートプランニングレイ
- 観覧料：一般1000円（800円）、大高生800円（640円）（ ）は団体20名以上の料金
- 入場者数：13,447人
- 広報印刷物：ポスターB2、ちらしA4／デザイン：大溝裕（GLANZ）
- 担当学芸員：五味良子、平野到



B2 ポスター

### ■開催趣旨

キネティック・アート＝「動く芸術」とは、その名のとおりに、機械じかけで動く作品や、光る作品、目がまわるような錯覚をもたらす作品などからなる。第二次世界大戦後、進歩する科学技術を芸術に取り入れようとする気運のなか、1950年代後半から60年代にかけて、ヨーロッパを中心に盛んに制作された。作品の角度や視点の移動によって思いがけない見え方があらわれるキネティック・アートは、誰でも楽しむことが

でき、見る人と作品のダイナミックな関わりを鮮やかに浮かび上がらせる。

この展覧会では、ジョセフ・アルバース、ヴィクトル・ヴァザリリ、ブルーノ・ムナリーなど先駆的な作家も紹介しながら、主にイタリアで活躍した作家たちの作品を通して、キネティック・アートをふりかえった。ほぼ半世紀前に未来を夢見たこれらの作品からはレトロな雰囲気を感じられる一方で、現在のメディア・アートに通じる先鋭的な感覚を見出すこともできる。私たちの感覚に直に訴えかけてくる、実験的な「視覚の魔術」の世界が繰り広げられた。

### ■カタログ

規格：20.0×20.1cm、156頁  
編集：アートプランニングレイ  
翻訳：大平美智子、クラウディア・ルスコーニ、巖谷睦月、金井直  
制作：印象社  
発行：アートプランニングレイ  
内容：【テキスト】マルコ・メネグッツォ（美術史家、美術評論家、ブレラ美術学校教授）「イタリアにおけるキネティック・アートとプログラム・アート：再発見されるべき傾向」、谷藤史彦（ふくやま美術館）「イタリアのキネティック・アートの起源とその展開：ブルーノ・ムナリーを中心として」／【図版】／【アルバム】／【作家略歴】マルコ・メネグッツォ監修、谷藤史彦編訳／【年表】谷藤史彦編／【索引】／【作品リスト】  
価格：2,000円

### ■関連事業

- ・スペシャル・トーク vol.1「視覚的イマジネーションの世界：近代科学からモダン・アートへ」／7月25日（土）／講師：井口壽乃（埼玉大学教授）／2階講堂／料金：無料／参加者：計33名
- ・スペシャル・トーク vol.2「中ザワヒデキのキネティック・アート論」／8月2日（日）／講師：中ザワヒデキ（美術家）／2階講堂／料金：無料／参加者：計52名
- ・担当学芸員によるギャラリー・トーク／7月18日（土）五味良子、8月1日（土）平野到／参加者：計27名
- ・上映会「形と動きの表現」／7月12日（日）13:00～、14:30～、16:00～の3回上映／2階講堂／料金：無料／プログラム：ハンス・リヒター《リズム21》（1921年）、ハンス・リヒター《午前の幽霊》（1927-28年）、フェルナン・レジェ《バレエ・メカニック》（1924年）、マン・レイ《エマク・バキア》（1926年）、マルセル・デュ

シャン《アネミック・シネマ》(1926年) / 16mmフィルムによる上映/フィルム提供:かもめ座FILMアーカイブ/参加者:計90名

- ・ミュージアム・コンサート「うごき、きらめき、かたち、まじわる。Kinetic art by dance and music」/9月6日(日)14:30~(演奏時間約60分)/地階センターホール/料金:無料/出演:山田武彦(ピアノ)、佐藤雅子(カタックダンス)、森山繁(タブラ)/参加者:計100名

## ■広報記録

### <新聞>

- ・「企画展『動く、光る、目がまわる!キネティック・アート』」『埼玉新聞』2015年7月15日

### <雑誌、ミニコミ誌等>

- ・「企画展『動く、光る、目がまわる!キネティック・アート』」『埼玉Walker2015夏』2015年6月10日
- ・「動く、光る、目がまわる!キネティック・アート」『J:COMチャンネル埼玉7月号』2015年6月25日
- ・「動く、光る、目がまわる!キネティック・アート」『J:COMクーポン7月号さいたま・上尾・伊奈』2015年6月25日
- ・「動く、光る、目がまわる!キネティック・アート」『たまログ7月号浦和版』2015年7月1日
- ・「動く、光る、目がまわる!キネティック・アート」『たまログ7月号大宮・上尾版』2015年7月1日
- ・「キネティックアート 動く芸術の展示会」『足利漫我人7・8月号』2015年7月1日
- ・「近代美術館でキネティック・アート展 動く芸術楽しもう」『ショッパーさいたま浦和・川口』2015年7月10日
- ・「動く、光る、目がまわる!キネティック・アート」『Acore おおみや』2015年7月21日
- ・「古今東西の『動く』アートを楽しむ。」『BRUTUS』2015年8月1日
- ・「動く、光る、目がまわる!キネティック・アート」『ブレーン9月号』2015年8月1日

### <テレビ、ラジオ>

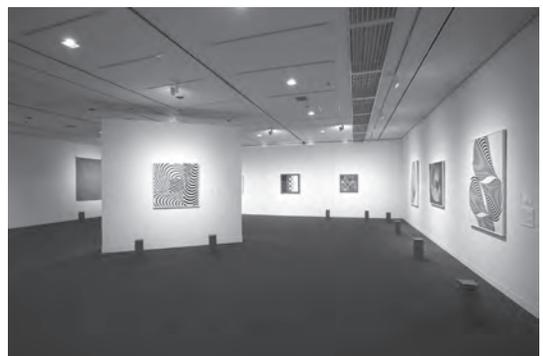
- ・テレビ埼玉「動く、光る、目がまわる!キネティック・アート」『テレ玉ニュース』2015年8月12日

### <ウェブ>

- ・「キネティック・アート展」埼玉県立近代美術館『はろるど』2015年7月11日

## ■担当後記

- ◆約半世紀前に世界的な隆盛を誇ったものの、これまで日本でまとまって紹介されることの少なかったキネティック・アートの作品88点が集結した点で、貴重な展覧会であった。各作品の特色を分かりやすく伝えるため、「視覚を刺激する(絵画的表現)」「干渉しあう線・形(さまざまな素材)」「不思議な光・動き」「知覚を刺激する(立体的な表現)」の4つの観点から紹介した。
- ◆展示室を大小に区切ってメリハリをつけ、先の展示に対する期待を高める雰囲気醸し出すよう意図した。また斜めの壁面を作り、回遊性を演出した。動き、発光する作品は、黒く塗り直した壁面に展示することで、鑑賞者にその存在を印象づける工夫を試みた。
- ◆磁石や水などを効果的に使った作品は、アナログで素朴なしかけながらも、力強い魅力を備えていた。またシンプルで幾何学的な構成は、現代の目で見ても十分に高い質を保っていた。
- ◆デザイン性の高い作品の魅力をも十分に伝えるため、デザイナーと協力し、展示作品にひけを取らない視覚的なインパクトのある印刷物を制作した。ポスターは、見る角度によって色味が変化する紙を使い、人目を引くデザインとした。ちらしも、楽しく明るい雰囲気のものからクールな印象のものまで、異なる作品を使った4種類を展開した。
- ◆視覚にダイレクトに訴えかけてくる鑑賞者参加型のキネティック・アートは、予備知識なしに大人から子供まで、誰もが楽しむことができる。夏休みにファミリーで訪れるのにふさわしい企画であり、当館の通例よりも若年層が多く来場した。一般、大高生が中学生以下の来場者と一緒に関覧の場合、観覧料を200円引きとする「夏割☆200サマー・スペシャル割引」も利用率が15.6%と好評であった。



会場風景



会場風景



会場風景

## ■出品リスト

### 1. 視覚を刺激する（絵画的表現）

作家名	作品名	制作年	技法・素材
フランコ・グリニャーニ	動力学 2T	1965	油彩、カンヴァス
フランコ・グリニャーニ	動力学 1	1965	油彩、カンヴァス
フランコ・グリニャーニ	空間のトラウマ 6	1965	油彩、カンヴァス
ヴィクトル・ヴァザルリ	多色 3 ケルビン	1964/67	アクリル、木
ヴィクトル・ヴァザルリ	HF-4 レリーフ	1968	レリーフ、着色した木
ヴィクトル・ヴァザルリ	蛇行 C	1951/60	アクリル、マゾナイト
フランシスコ・ソプリノ	無題	1959	テンペラ、紙
フランコ・グリニャーニ	波の接合 33	1965	油彩、カンヴァス
ジョセフ・アルバース	徴候	1967	油彩、カンヴァス
ジョセフ・アルバース	すべて	1971	つづれ織り（エディション 8）
ジョセフ・アルバース	正方形賛歌	1962ca.	油彩、3 彩色マゾナイト
フランシスコ・ソプリノ	動悸 S	1965	白と黒の透明アクリル樹脂
フランシスコ・ソプリノ	脈動 n. b. c.	1967	アクリル板、動く素材
マリーナ・アポローニオ	円形の動力学 6K	1969	硝石、透明アクリル樹脂
ジョエル・スタイン	青と赤の垂直の波動	1961	油彩、カンヴァス
ジョエル・スタイン	3 原色減法混色原理にて 2 色 × 2 色 = 異 3 原色	1962	テンペラ、紙
ジョエル・スタイン	青と赤の大きな円筒	1973	アクリル、カンヴァス
ジュリオ・ル・バルク	シリーズ 29 no. 5-9 9-5	1970-72	コラージュ
ジュリオ・ル・バルク	赤い横縞柄の曲技的な形	1968	金属、印刷した紙、電気モーター
ジュリオ・ル・バルク	観客の移動による仮定の形態	1969	ミクストメディア（布地、着色した薄紙、ロードイド）、板
ダダマイーノ	ダイナミックな視覚のオブジェ	1962	アクリル、アルミニウム薄板、板
オラシオ・ガルシアロッシ	無題	1959	油彩、カンヴァス
オラシオ・ガルシアロッシ	無題	1961	テンペラ、アクリル、厚紙（両面）

### 2. 干渉しあう線・形（さまざまな素材）

作家名	作品名	制作年	技法・素材
ゲトゥーリオ・アルヴィアーニ	五分五分	1967	鋼鉄、アルミニウム
ゲトゥーリオ・アルヴィアーニ	無題	1961	アルミニウム
ゲトゥーリオ・アルヴィアーニ	振動する構図の表面 71061	1971	アルミニウム、プラスチックの支持体
エドアルド・ランディ	可変的な視覚の構造	1960-62	厚紙、木
グルッポ N (トニー・コスタ、アルベルト・ピアージ)	視覚の動力学	1964	ポリ塩化ビニルのレリーフ、板
トニー・コスタ	線	1963	ポリ塩化ビニルのレリーフ、板
トニー・コスタ	交錯	1967	ポリ塩化ビニルのレリーフ、板
エンニオ・キッジョ	線の干渉 14. 6/A	1969	シルクスクリーン刷した透明アクリル樹脂
アルベルト・ピアージ	傾斜した動力学	1965	ポリ塩化ビニルのレリーフ、板
アルベルト・ピアージ	〈ジョットの「0」〉円形の視覚の動力学	1962	ポリ塩化ビニルのレリーフ、板
アルベルト・ピアージ	三角形の動力学	1965	ポリ塩化ビニルのレリーフ、板

エドアルド・ランディ	反射映像球体ヴァリエーション	1967-69	着色した木、クロムメッキした鋼鉄の半球、蛍光色にシルクスクリーン刷した四角い厚紙
エンニオ・キジヨ	線の干渉 12 遠心分離機	1966-70	吹付塗装した 2 重の透明アクリル樹脂、木製額
エンニオ・キジヨ	線の干渉 0 (正方形+円)	1966	吹付塗装した透明クリル樹脂、木製額
エンニオ・キジヨ	NT2- 円形網膜構造 / NT2 - 偏菱形網膜構造	1962	偏光ガラス、切り抜いた紙片、木箱
マンフレド・マッシローニ	透明の構造 (小さな穴)	1961	ワッシャー、糸、プラスチック、木
アルベルト・ピアージ	横糸	1959	カラージュ、厚紙、木とガラスの支持体
マンフレド・マッシローニ	無題	1959	波状の厚紙、木の支持体
エドアルド・ランディ	S. B. N61	1961	層になった透明の紙
アルベルト・ピアージ	光学的動力学	1962	ポリ塩化ビニルのレリーフ、板
エドアルド・ランディ	視覚の構造	1962-72	ゴム紐、着色した木
マンフレド・マッシローニ	糸の構造	1960	木、糸

### 3. 不思議な光・動き

作家名	作品名	制作年	技法・素材
ダヴィデ・ボリアーニ	超立方体	1961	シルクスクリーン刷した透明アクリル樹脂、4 つのモーター
ガブリエレ・デ・ヴェッキ	三角形の構造化	1963	鋼鉄、透明アクリル樹脂、電気モーター
ガブリエレ・デ・ヴェッキ	空中の線のオブジェ	1961	ミクストメディア、金属製ブラグ
ジャンニ・コロombo	インアウト	1960-62	木、金属、ゴム
ユーゴ・デマルコ	無題	1968ca.	金属、着色した透明アクリル樹脂、モーター
ジョヴァンニ・アンチェスキ	円筒の仮想構造	1963	鉄筋棒、電機仕掛の動き
ダヴィデ・ボリアーニ	磁力の表面	1959/85	電磁気術、9 つのモーター、木、ガラス、鉄の削り屑
ダヴィデ・ボリアーニ	磁力の表面	1961/64	金属、鉄粉、電気モーター
ジャンニ・コロombo	しなやかな空間 黒い絵画	1976	木、アクリル、ゴム紐
ジャンニ・コロombo	しなやかな空間 白い絵画	1976	木、アクリル、ゴム紐
グルッポ MID	円形マトリクスの発生装置 2	1966	モーター、LED 光、透明アクリル樹脂
グルッポ MID	曳光線の発生装置 1	1966	モーター、ネオン光、透明アクリル樹脂、アルミニウム
グルッポ MID	運動の発生装置	1966-2011	モーター、ネオン光、透明アクリル樹脂、アルミニウム
ナンダ・ヴィーゴ	三次元空間	1964	アルミニウム、鏡、磨りガラス、白いネオン
ジャンニ・コロombo	0-220 ボルト	1976-79	ミクストメディア、電気モーター
グラツィア・ヴァリスコ	可変的な発光の図面 ロトヴォド +Q44	1963	透明アクリル樹脂、木、電灯、電気モーター
グラツィア・ヴァリスコ	可変的な発光の図面 R. VOD	1962-63	モーターで動くオブジェ
グラツィア・ヴァリスコ	変化する運動 130 チェスボード	1962/69	金属、四角い波状ガラス、電気モーター
ジョヴァンニ・アンチェスキ	水平流体の走行	1962	木、プラスチックチューブ、ネオン、電気モーター、着色した液体
ダヴィデ・ボリアーニ	全色彩 no. 6	1967-76	ミクストメディア、電気モーター
グラツィア・ヴァリスコ	変化する HGAL (水銀) +Q151	1965	モーターで動くオブジェ
ガブリエレ・デ・ヴェッキ	軸測投影法の歪み 1	1964	エナメル塗装した金属、電気モーター
ユーゴ・デマルコ	3 色の仮想のヴォリューム	1970	アルミニウム、モーター、ブラックライト
ガブリエレ・デ・ヴェッキ	歪んだ半立方体 緑	1965-68	木、透明アクリル樹脂、電気仕掛の素材

### 4. 知覚を刺激する (立体的な表現)

作家名	作品名	制作年	技法・素材
マルチェッロ・モランディーニ	構造 221	1974	塗装した木

マルチェッロ・モランディーニ	構造 223	1974	塗装した木
フランソワ・モルレ	三重の横糸の格子 0° -2° +2° (#50mm) 白地	1975	着色した木、金属
フランソワ・モルレ	二重の横糸 -1° +1° (#12mm)	1972	着色した木、金属
マルチェッロ・モランディーニ	構造 208A	1974	塗装した木
マルチェッロ・モランディーニ	構造 210A	1974	塗装した木
ブルーノ・ムナリー	無題	1951	塗装した金属薄板
ブルーノ・ムナリー	旅行用彫刻	1958	洋梨の木、布粘着テープ
ブルーノ・ムナリー	4つの円錐	1965	エナメル塗装した金属
ルートヴィヒ・ヴィルディング	シングル	1974	三次元画像
ルートヴィヒ・ヴィルディング	PSR559	1979	三次元画像
ユーゴ・デマルコ	変化するプリズムと反射光	1964	金属、白と黒の透明アクリル樹脂
ユーゴ・デマルコ	空間的な反射	1965	プラスチック、鋼鉄、木の支持体
カルロス・クルスディエス	色彩理学療法 no. 626	1972	透明の薄板、着色した基底部
ラファエル・ソト	凡庸なエキリチュール	1968	鉄線、板に描かれた絵
エンツォ・マリ	計画 1076	1965	陽極処理した天然の色と黒のアルミニウム
エンツォ・マリ	構造 866	1967	陽極処理した黒のアルミニウム、白、黄、橙を石版刷した金属薄板
ナンダ・ヴィーゴ	三次元空間	1965	アルミニウム、磨りガラス
ブルーノ・ムナリー	ペアーノの曲線	1975	アクリル、カンヴァス

## ■企画展

### ■すごいぞ、これは！

This is Amazing!

文化庁平成 27 年度戦略的芸術文化創造推進事業

■会期：2015 年 9 月 19 日（土）～11 月 3 日（火・祝）

■主催：文化庁、心揺さぶるアート事業実行委員会、埼玉県立近代美術館

■協力：JR 東日本大宮支社、FM NACK 5

■観覧料：一般 500 円（400 円）、大高生 400 円（320 円）

■入場者数：6,542 人

■広報印刷物：ポスター B2、ちらし A4 / デザイン：大溝裕（Glanz）

■担当学芸員：前山裕司、渋谷拓、嶋原悠



B2 ポスター

### ■開催趣旨

「心揺さぶるアート事業」は、平成 26 年度に「文化庁平成 26 年度戦略的芸術文化創造推進事業」における「障害者の優れた芸術作品の展示の促進への取組」として、調査研究員がこれは「すごい」と感じられるような作品、作家を重点的に調査した。（平成 26 年度年報に記載）

平成 27 年度は、この調査の成果を基に調査研究員と事務局のあわせて 12 人が推薦する 12 名のアーティストの作品を紹介する展覧会「すごいぞ、これは！」を組織し、埼玉、札幌、高知、福山の 4 ケ所を巡回した。

### ■出品作家／居住地域／推薦者

田湯加那子／北海道／宮城加奈子（札幌芸術の森美術館）

阿部恵子／秋田県／近藤由紀（国際芸術センター青森）

しろ／栃木県／塩田純一（新潟市美術館長）

杉浦篤／埼玉県／前山裕司（埼玉県立近代美術館）

川上建次／三重県／天野一夫（豊田市美術館）

西脇直毅／大阪府／建島哲（埼玉県立近代美術館長）

前田諒太郎／兵庫県／服部正（甲南大学）

伊藤輝政／広島県／櫛野展正（鞆の津ミュージアム）

刈谷智恵／高知県／大内郁（藁工ミュージアム）

本田雅啓／福岡県／渋谷拓（埼玉県立近代美術館）

藤岡祐機／熊本県／保坂健二郎（東京国立近代美術館）

喜舎場盛也／沖縄県／真武真喜子（インディペンデント・キュレーター）

### ■カタログ

規格：285 × 275 mm、120 ページ

デザイン：大溝裕（Glanz）

編集：埼玉県立近代美術館

発行：心揺さぶるアート事業実行委員会

内容：【テキスト】前山裕司「すごいから、はじまる」

／【図版と解説】塩田純一、渋谷拓、建島哲、大内郁、

保坂健二郎、前山裕司、真武真喜子、櫛野展正、宮城加奈子、近藤由紀、服部正

価格：1,400 円

### ■報告書

規格：295 × 210 mm、16 ページ

編集：埼玉県立近代美術館

発行：心揺さぶるアート事業実行委員会

内容：【テキスト】前山裕司「終わりに一終わらない」／【事

業報告】【アンケート、掲載記事から】

### ■関連事業

・ハーモニー・プロデュース 幻聴・妄想かるた大会！

9 月 26 日（土） 午前の部（11:00～12:15）：かる

た大会／午後の部（14:00～16:00）：かるた大会+

かるたづくりワークショップ

講堂／参加費：無料／運営：就労継続支援 B 型事業所ハーモニー／参加者：計 19 名

・本田雅啓 ライブ・ペインティング in MOMAS!

10 月 3 日（土）・4 日（日） 各日 10:00～13:00

2F エレベーター前／自由観覧／参加費：無料／運営：

JOY 倶楽部アート部門 アトリエブラヴォ

・ギャラリー・トーク（前山裕司、建島哲、渋谷拓）

9月27日(日) / 参加者: 26名、10月24日(土)  
/ 参加者: 28名

## ■広報記録

<新聞/雑誌>

- ・柴田こずえ「なぜ、彼らはつくりつづけるのか」『Moe』10月号、第37巻10号、9月3日
  - ・『日経新聞』2015年9月18日 増田愛子「とにかくすごい障害者アート」『朝日新聞夕刊』2015年9月26日
  - ・『読売新聞』2015年9月29日
  - ・「こもればの詩 自閉症の藤岡祐機さん(熊本市)」『熊本日日新聞』2015年10月4日
  - ・中野えみり「県立近代美術館で障害者アート展」『埼玉新聞』2015年10月11日
  - ・「すごいぞ、これは！」『日本女性新聞』10月15日
  - ・原圭介「ハンディを超える心の訴え」『SANKEI EXPRESS』2015年10月19日
  - ・渋沢和彦「すごいぞ、これは！展」『産経新聞』2015年10月22日
  - ・住友文彦「アートの地平から 注目集める“生の芸術”」『毎日新聞』2015年10月24日
  - ・奥山はるな「こだわり、オーラ感じて」『毎日新聞』10月27日
  - ・五十嵐知彦「どれもすごい！障害者アート」『北海道新聞』2015年11月16日
  - ・久才秀樹「アール・ブリュットの魅力」『北海道新聞夕刊』2015年12月9日
  - ・渋沢和彦、黒沢綾子「回顧平成27年 美術 壁を乗り越えて」『産経新聞』2015年12月24日
  - ・松下由里「各美術館の研究成果を発表し、美術館の個性を磨く活動に期待する」、遠藤望「東京で見えてきたいくつかのこと」『全国美術館会議機関誌ZENBI』vol.9、2016年1月1日
  - ・広江俊輔「ハンディを超えアートの力」『朝日新聞(高地版)』2016年1月8日
  - ・村瀬佐保「すごいぞアールブリュット」『高知新聞』2016年1月9日
  - ・島尾ナツヲ「画家の見た風景102 本田雅啓 創るという根源」『九州王国』No.102、2016年2月号
- <テレビ、ラジオ>
- ・「日刊さいたまーず」『NHKFM』2015年10月7日
  - ・「ニュースのキモ・アフタヌーン」『NOTTV、フジテレビオンデマンド、ホウドウキョク』2015年10月24日

・情報番組「テレっちのたまご」『テレビ高知』2016年1月13日

<ウェブ>

・けんたろう「酒、時々美術館 北浦和」『HAPPY PLUS ART』2015年9月29日

## ■担当後記

- ◆「すごいぞ、これは！」展は、これまでの障害のある人の作品展示が、往々にして出品作家数が多く、1人の点数が少ないという傾向にあるのに対して、個々の作家を1人のアーティストとして取り上げることを主眼にした。そのため、12人の推薦者が12人を推薦するという構図を設定し、通常の現代美術のグループ展のように作家ごとに独立した空間を設けるようにした。結果として、個々の作家が表現しているものがより濃密に立ち上がってきたと思われる。
- ◆個々の推薦者が、展示の方針から展示什器まで考え、第一会場である埼玉での展示作業に立ち会って指導した。あまり例のない方式だと思うが、作家の世界が見えるだけでなく、推薦者の姿までもうかがえることとなった。巡回会場では、それぞれの美術館の担当者が展示の割り振りを行い、埼玉の担当者が会場にあわせて多少アレンジしながら、推薦者の意向を踏襲するよう心掛けた。
- ◆福祉的な考えを持ち込まず、美術の領域ではいわば当たり前の「評価」によって展覧会を構成する。これがこの展覧会の背骨にあたる。だが、結果気づかされたことは否応なく作家や家族の生活に踏み込んでいる、という事実である。評価されて嬉しい、と家族に言われるのは、展覧会に携わった者として素直に喜ばしい。しかし、彼らの生活は展覧会が終わった後も続いていく。美術館の人間は永久に評価し続けられるわけではない。ある施設の方の、良いことがあってもけっして喜ばない、ほめない、という言葉が重い。それは、気持ちは上がれば落ちるといふ、その後を見ているからだ。



## 伊藤輝政

推薦：榑野展正（鞆の津ミュージアム）

美奈丸	2005	紙に着色	29.0 × 7.0 × 13.0	
彩姫丸	2005	紙に着色	34.0 × 6.0 × 11.0	
桃色サロンⅡ	2005	紙に着色	34.0 × 7.0 × 13.0	
黒龍丸	2005	紙に着色	19.0 × 6.0 × 15.0	個人蔵
由加丸	2005	紙に着色	33.0 × 6.0 × 11.0	
福の神	2006	紙に着色	28.0 × 8.0 × 15.0	
コマツ PC3000 スーパーショベルカー	2006	紙に着色	31.0 × 10.0 × 14.0	
一番星桃次郎	2007	紙に着色	33.0 × 7.0 × 13.0	
政治結社	2007	紙に着色	28.0 × 9.0 × 6.5	
由加丸	2008	紙に着色	28.0 × 7.0 × 11.0	
大空丸	2008	紙に着色	30.0 × 7.0 × 13.0	
出撃老番機	2008	紙に着色	25.0 × 7.0 × 12.0	
誠丸	2008	紙に着色	26.0 × 7.0 × 12.0	
菊華丸	2008	紙に着色	29.5 × 6.0 × 12.0	
政治結社同血社	2008	紙に着色	32.0 × 6.0 × 12.0	
民族義心會総本部	2008	紙に着色	32.0 × 6.0 × 10.5	
コベルコショベルカー	2008	紙に着色	20.0 × 8.0 × 18.0	
桶川玉三郎丸	2009	紙に着色	17.0 × 6.0 × 11.0	
さつき丸	2009	紙に着色	26.0 × 7.0 × 12.0	
政治結社大日本黎明會総本部	2009	紙に着色	21.0 × 6.0 × 10.0	
政治結社同血社	2009	紙に着色	15.0 × 6.0 × 10.0	
民政同友會総本部	2009	紙に着色	30.0 × 7.0 × 12.0	
美穂丸	2009	紙に着色	30.0 × 6.0 × 11.0	個人蔵
水難救助工作車	2011	紙に着色	26.0 × 6.0 × 10.0	
伸成丸	2012	紙に着色	43.0 × 7.0 × 14.0	
ヤマヨ丸	2012	紙に着色	18.0 × 7.0 × 12.0	
常光丸	2013	紙に着色	19.0 × 6.0 × 15.0	
常勝丸	2014	紙に着色	31.5 × 7.5 × 12.5	

ほか約 180 点

記録映像／撮影：松岡敏孝／時間：約 11 分

## 刈谷智恵

推薦：大内 郁（藁工ミュージアム）

口ぐせ咲き	不詳	紙にアクリル絵具	123.8 × 76.8
ブライベートレッド	不詳	紙にアクリル絵具	123.8 × 76.8
桃色十衣生（ももいろといき）	不詳	紙にアクリル絵具	123.8 × 76.8
桜桃記（ひとひら）	不詳	紙にアクリル絵具	123.8 × 76.8
西洋ひまわり	不詳	紙にアクリル絵具、鉛筆	123.8 × 76.8
この世で一番美しい花片（はな）	不詳	紙にアクリル絵具、鉛筆	123.8 × 76.8
化粧くすれの花片（はな）	不詳	紙にアクリル絵具、鉛筆	123.8 × 76.8
ブルーレッドの心	不詳	紙にアクリル絵具、鉛筆	123.8 × 76.8
森の中に一番近い場所	不詳	紙にアクリル絵具、鉛筆	123.8 × 76.8
鏡の中の鏡（顔）	不詳	紙にアクリル絵具、鉛筆	123.8 × 76.8
レッドのこしょう咲き	不詳	紙にアクリル絵具、鉛筆	123.8 × 76.8
ひと森林（もり）ざき	不詳	紙にアクリル絵具、鉛筆	123.8 × 76.8

## 川上建次

推薦：天野一夫（豊田市美術館）

ウインクの人	2004 年	油彩、紙	38.0 × 27.0
KAZMAX	2006 年	油彩、カンヴァス	116.5 × 91.0
うなぎ職人イサム	2006 年	油彩、カンヴァス	162.5 × 131.0
トラの王	2009 年	油彩、カンヴァス	90.5 × 116.0
おかあちゃんの怪獣	2010 年	油彩、ベニヤ板	60.5 × 72.5
うさぎの王	2010 年	油彩、カンヴァス	72.7 × 91.0
赤い人	2010 年	油彩、ベニヤ板	72.5 × 60.3
跳ねる女	2011 年	油彩、カンヴァス	116.5 × 91.0
赤い兄弟	2012 年	油彩、カンヴァス	73.0 × 91.0
てんとう虫	2013 年	油彩、ベニヤ板	65.0 × 53.0
いじめられっ子キービー	2013 年	油彩、カンヴァス	130.0 × 162.5
キース	2014 年	油彩、ベニヤ板	60.8 × 72.5

## 喜舎場盛也

推薦：真武真喜子（インディペンデント・キュレーター）

無題（アルファベット）	2000 年以前	紙、クレヨン	27.8 × 37.0
無題（アルファベット）	2000 年以前	紙、油性ペン	36.2 × 27.8
無題（アルファベット）	2000 年以前	紙、油性ペン	37.0 × 27.8
無題（漢字シリーズ）	1990 年代	紙、色鉛筆	28.0 × 38.1
無題（漢字シリーズ）	2000 年以前	紙、油性ペン	28.0 × 38.1
無題（漢字シリーズ）	2000 年以前	紙、油性ペン	28.0 × 38.1
無題（漢字シリーズ）	2000 年以前	紙、油性ペン	28.0 × 38.1
無題（漢字シリーズ）	2000 年以前	紙、油性ペン	28.0 × 38.1
無題（漢字シリーズ）	2000 年以前	紙、油性ペン	28.0 × 38.1

無題 (漢字シリーズ)	2000 年以前	紙、油性ペン	28.0 × 38.1
無題 (漢字シリーズ)	2000 年以前	紙、油性ペン	28.0 × 38.1
無題 (漢字シリーズ)	2000 年以前	紙、油性ペン	28.0 × 38.1
無題 (漢字シリーズ)	2000 年以前	紙、油性ペン	28.0 × 38.1
無題 (漢字シリーズ)	2005 年頃	コピー用紙、油性ペン	25.8 × 36.4
無題 (漢字シリーズ)	2005 年頃	コピー用紙、油性ペン	29.8 × 41.8
無題 (漢字シリーズ)	2005 年頃	コピー用紙、油性ペン	29.8 × 41.8
図鑑シリーズ	2000 年頃	図鑑、油性ペン	17.0 × 40.0 (開いた状態)
図鑑シリーズ	2000 年頃	図鑑、油性ペン	17.0 × 40.0 (開いた状態)
図鑑シリーズ	2000 年頃	図鑑、油性ペン	17.0 × 40.0 (開いた状態)
図鑑シリーズ	2000 年頃	図鑑、油性ペン	17.0 × 40.0 (開いた状態)
図鑑シリーズ	2000 年頃	図鑑、油性ペン	17.0 × 40.0 (開いた状態)
図鑑シリーズ	2000 年頃	図鑑、油性ペン	17.0 × 40.0 (開いた状態)
ドットシリーズ	2006 年頃	画用紙、油性ペン	25.8 × 36.4
ドットシリーズ	2011 年	画用紙、油性ペン	38.0 × 54.0
ドットシリーズ	2012 年	画用紙、油性ペン	38.0 × 54.0
ドットシリーズ	2013 年	画用紙、油性ペン	38.0 × 54.0
ドットシリーズ	2014 年	画用紙、油性ペン	38.0 × 54.0
ドットシリーズ	不詳	画用紙、油性ペン	38.0 × 54.0
風景	1998 年	画用紙、クレヨン	38.0 × 54.0
ベル	2006 年頃	画用紙、油性ペン	38.0 × 54.0
四角	2006 年頃	画用紙、油性ペン	38.0 × 54.0

記録映像 / 撮影・編集: 喜納卓也 (社会福祉法人若竹福祉会) / 解説: 朝妻彰 (同左) / 時間: 約 6 分  
 / 撮影日時: 2015 年 7 月 2 日午後

しるし 推薦: 塩田純一 (新潟市美術館長)

題名なし	不詳	紙に岩彩	28.6 × 19.6	ほか同サイズ 17 点
題名なし	不詳	紙に岩彩	25.2 × 17.0	ほか同サイズ 35 点

杉浦篤 推薦: 前山裕司 (埼玉県立近代美術館)

題名なし	なし	カラー印画紙	L 判 40 点
------	----	--------	----------

田湯加那子 推薦: 宮城加奈子 (札幌芸術の森美術館)

題名なし	2000 年	紙 (マーメイドボード紙)、色鉛筆	36.4 × 24.7 (B4)
題名なし	2001 年	紙 (マーメイドボード紙)、色鉛筆	36.4 × 24.7 (B4)
題名なし	2002 年	紙 (マーメイドボード紙)、色鉛筆	36.4 × 24.7 (B4)
題名なし	2003 年	紙 (マーメイドボード紙)、色鉛筆	24.7 × 36.4 (B4)
題名なし	2003 年	紙 (マーメイドボード紙)、色鉛筆	36.4 × 24.7 (B4)
題名なし	2003 年	紙 (マーメイドボード紙)、色鉛筆	36.4 × 24.7 (B4)
題名なし	不詳	紙 (マーメイドボード紙)、色鉛筆	36.4 × 24.7 (B4)
題名なし	不詳	紙 (マーメイドボード紙)、色鉛筆	36.4 × 24.7 (B4)
題名なし	不詳	紙 (マーメイドボード紙)、色鉛筆	51.7 × 36.5 (B3)
題名なし	不詳	紙 (マーメイドボード紙)、色鉛筆	53.3 × 37.5
題名なし	不詳	紙 (マーメイドボード紙)、色鉛筆	72.8 × 51.5 (B2)
題名なし	2011 年	紙 (マーメイドボード紙)、色鉛筆	51.5 × 72.8 (B2)
題名なし	2010 年以降	紙 (スケッチブック)、色鉛筆	40.7 × 32.0 (F6)
題名なし	2010 年以降	紙 (スケッチブック)、色鉛筆	40.7 × 32.0 (F6)
題名なし	2010 年以降	紙 (スケッチブック)、色鉛筆	40.7 × 32.0 (F6)
題名なし	2010 年以降	紙 (スケッチブック)、色鉛筆	40.7 × 32.0 (F6)
題名なし	2010 年以降	紙 (スケッチブック)、色鉛筆	40.7 × 32.0 (F6)
題名なし	2010 年以降	紙 (スケッチブック)、色鉛筆	40.7 × 32.0 (F6)
題名なし	2011 年以降	紙 (スケッチブック)、色鉛筆	51.7 × 72.8 (B2)
題名なし	2015 年以降	紙 (スケッチブック)、色鉛筆	42.5 × 37.9 (F8)

西脇直毅 推薦: 建皇 哲 (埼玉県立近代美術館長)

猫紋づくし	2011 年 4 月	画用紙、ボールペン	76.7 × 108.5
青い成長のかたち	2011 年 5 月	色画用紙、ボールペン	75.2 × 54.9
成長のかたち	2011 年 8 月	画用紙、ボールペン	76.7 × 108.5
猫紋づくし	2012 年 12 月	画用紙、ボールペン	108.5 × 76.7
素晴らしき人生	2013 年 11 月	画用紙、ボールペン	76.7 × 108.5
無題	2014 年 7 月	画用紙、ボールペン	76.7 × 108.5
成長のかたち 9	2014 年 7 月	画用紙、ボールペン	76.8 × 54.3
増殖への招待	2015 年 4 月	画用紙、ボールペン	75.7 × 108
無題	2015 年 4 月	カラークラフト紙、ボールペン	79.5 × 109.5

藤岡祐機

推薦：保坂健二朗（東京国立近代美術館）

題名なし	2002年以前	紙	43.8×8.6
題名なし	2002年	紙	36.0×26.0
題名なし	2002年	紙	10.0×27.2
題名なし	2002年	色紙	21.0×4.5
題名なし	2003年以前	紙	3.0×3.6
題名なし	2003年	紙	21.0×18.1
題名なし	2004年	紙	17.0×25.4
題名なし	2003-05年	紙	7.5×21.0
題名なし	2006-08年	紙にクレヨン	4.8×10.0
題名なし	2006-08年	紙にクレヨン	6.0×8.0
題名なし	2009-12年	紙にクレヨン	5.7×12.4
題名なし	2009-12年	紙	6.1×12.0
題名なし	2011年	色紙	7.6×12.4
題名なし	2014年	色紙	7.2×7.0
題名なし	2014年	色紙	8.3×7.5
題名なし	2015年	色紙	5.8×4.0
題名なし	2015年	色紙	8.5×4.0

ほか平面作品 23 点、櫛状作品 32 点と作品収納器 2 点

記録映像／監督・撮影・編集：山城大督／時間：5分／撮影日：2015年7月3日

本田雅啓

推薦：渋谷 拓（埼玉県立近代美術館）

人面カニバチサソリ姫鳥	2003年	紙にアクリル絵具	92.0×69.0
ノコギリシュモクライオン			
ツムリニワトリヘビ魚	2004年	板にアクリル絵具	120×112×5.0
ヒツジツムリカマキリガエル			
ムカデサソリハサミムシ	2004年	紙にアクリル絵具	90.9×72.7
田麿根義	2008年	紙にアクリル絵具、ペン	53.0×35.5
練魂	2008年	紙にアクリル絵具、ペン	40.0×32.5
歯久才	2008年	紙にアクリル絵具、ペン	53.0×35.5
民家乃対用（ミンナノタイヨウ）	2008年	紙にペン、アクリル絵具、水彩、ボスカ	65.0×54.5
鬼屋別	2009年	紙にペン、アクリル絵具、水彩、ボスカ	33.0×26.0
屍地間	2009年	紙にペン、アクリル絵具、水彩、ボスカ	53.0×42.0
屋間胃毛	2009年	紙にペン、アクリル絵具、水彩、ボスカ	40.0×26.5
左兎井毛	2009年	紙にペン、アクリル絵具、水彩、ボスカ	33.0×26.0
魂沙亜斗（コンサート）	2013年	紙にアクリル絵具、色鉛筆	65.0×54.5
男性一世	2014年	マネキンにペンキ	187.0×58.0×40.0
魔根金・二体	2014年	マネキンにペンキ	147.0×66.0×10.0
《参考図版》無題（大賀薬局前壁画）			
東京巢改津理井多輪阿	2015年	カンヴァスに水性ペンキ	162.0×130.0

\*この作品は10月3日・4日の公開制作で制作され、その後エレベーター前ギャラリーで展示された。

前田諒太郎

推薦：服部 正（甲南大学）

無題一空一	2012年3月以前	色鉛筆（12色）、紙	27.0×38.0
無題一空一	2012年3月以前	色鉛筆（12色）、紙	27.0×38.0
無題一空一	2012年4月以降	色鉛筆（12色）、紙	27.0×38.0
無題一空一	2012年4月以降	色鉛筆（12色）、紙	27.0×38.0
無題一空一	2012年4月以降	色鉛筆（12色）、紙	27.0×38.0
無題一空一	2012年4月以降	色鉛筆（12色）、紙	27.0×38.0
無題一空一	2012年4月以降	色鉛筆（12色）、紙	27.0×38.0
無題一空一	2012年4月以降	色鉛筆（12色）、紙	27.0×38.0
無題一空一	2012年4月以降	色鉛筆（12色）、紙	27.0×38.0
無題一空一	2012年4月以降	色鉛筆（12色）、紙	27.0×38.0
無題一空一	2012年4月以降	色鉛筆（12色）、紙	27.0×38.0
無題一空一	2012年4月以降	色鉛筆（12色）、紙	27.0×38.0
無題一空一	2012年4月以降	色鉛筆（12色）、紙	27.0×38.0
無題一空一	2012年4月以降	色鉛筆（12色）、紙	27.0×38.0
無題一空一	2012年4月以降	色鉛筆（12色）、紙	27.0×38.0
無題一空一	2012年4月以降	色鉛筆（12色）、紙	27.0×38.0
無題一空一	2012年4月以降	色鉛筆（12色）、紙	27.0×38.0
無題一空一	2012年4月以降	色鉛筆（12色）、紙	27.0×38.0
無題一空一	2012年4月以降	色鉛筆（12色）、紙	27.0×38.0
無題一空一	2014年	色鉛筆（12色）、紙	27.0×38.0

## ■旅と芸術 発見・驚異・夢想 Travels and Art — Discovery, Wonder and Dreams

■会期：2015年11月14日（土）～2016年1月31日（日）

■主催：埼玉県立近代美術館

■監修：巖谷國士

■協力：JR 東日本大宮支社、FM NACK 5

■企画協力：アートプランニングレイ

■観覧料：一般1200円（960円）、大高生960円（770円）

（ ）は団体20名以上の料金

■入場者数：8,646人

■広報印刷物：ポスターB2、ちらしA4／デザイン：

山下雅士（sleepwalk）



B2 ポスター

■担当学芸員：平野到、五味良子

### ■開催趣旨

旅とは何であろうか。日常生活を離れて別の土地へと移動し、そこで出会うものに驚き、感動をおぼえ、世界の多様性を感じとることと言えるだろう。その驚きと感動を記憶するために、あるいは家族や友人、世間にも伝えるために、旅人たちは日誌をつけたり手紙を書いたり、記念の品を持ち帰ったり、風景や人物を描いたりしてきた。さらに写真という技術が実用化されてからは、旅先での光景を撮影するようにもなった。

やがて交通と観光の発達につれて、また社会環境の変化につれて、旅のもつ意味も大きく変化してきた。異郷への好奇心やエグゾティスム、遠い過去へのノスタルジア、近郊の田園の再発見、空想世界への憧れなど、旅への想いは時代や社会の姿を敏感に映してきたと言えるだろう。

この展覧会は、旅をめぐるさまざまなテーマを、主に西洋近代の絵画や版画、写真、挿絵本などを通して読み解いていった。

### ■カタログ

規格：22.5 × 15.1 cm、224頁

監修・著：巖谷國士

企画・構成：平野到 / 五味良子（埼玉県立近代美術館）、  
豊田奈穂子 / 深井大門（アートプランニングレイ）

装幀・デザイン：中村香織（コパンダ・パーレルセル）

編集：清水壽明 / 日下部行洋（平凡社）

発行：平凡社

内容・構成＝序「旅から旅へ」、第1室「旅への誘い」、  
第2室「オリエントの魅惑」、第3室「自然・観光・鉄道」、  
第4室「世紀末のエグゾティスム」、第5室「空想の旅・  
超現実の旅」、第6室「旅行者の見た日本の自然」／  
コラムを52本収録／人名解説・索引／作品リスト／後記  
執筆等：巖谷國士が監修・執筆し、コーナー解説、コラム、  
人名解説については、平野到と五味良子も分担して執筆した。

価格：2,300円（税別）



第1室「旅への誘い」会場風景



第5室「空想の旅・超現実の旅」会場風景

## ■関連事業

- ・連続講演会：監修者が語る「旅と芸術—発見・驚異・夢想」／①12月6日（日）「発見と驚異—太古からロマン派の時代まで」、②12月12日（土）「夢想と冒険—19世紀からシュルレアリスムの時代まで」／講演／参加者（事前申込制。2回連続参加が条件）：①104名、②87名
- ・ミュージアム・カレッジ「旅と芸術—発見・驚異・夢想」／①11月15日（日）「テキサスからロサンゼルスまで—アメリカン・ロード・トリッパー」講師：加藤有希子（埼玉大学准教授）、②11月25日（水）「エル・グレコとの旅—クレタ島からトレドへ」講師：伊藤博明（埼玉大学教授）、③12月2日（水）「企画展く旅と芸術—発見・驚異・夢想—について」講師：平野到（当館学芸員）、④12月8日（火）「はるかなる過去への旅—グランド・ツアーと美術—」講師：松原良輔（埼玉大学教授）／講堂／参加者：①27名、②34名、③40名、④42名
- ・ミュージアム・コンサート  
①12月13日（日）「旅する音楽」／出演者：中山うり（ボーカル、アコーディオン、トランペット、ギター）、南勇介（ベース）、織田祐亮（トランペット、バルブトロンボーン）、黒川紗恵子（クラリネット）／地階センターホール／参加者：130名  
②1月10日（日）「遙かなる旅」／出演者：横坂源（チェロ）、長崎麻里香（ピアノ）／講堂／参加者：91名
- ・上映会「映画の魔術師—ジョルジュ・メリエス」／1月24日（日）、2回上映／上映作品：①月世界旅行（カラー復元版、監督＝ジョルジュ・メリエス、1902年、フランス、15分32秒）、②メリエスの素晴らしき映画魔術（監督＝セルジュ・ブロンベルグ、エリック・ランジュ、2011年、フランス、63分）、いずれもブルーレイによる上映／講堂／参加者：合計160名
- ・担当学芸員によるギャラリー・トーク／①11月21日（土）、平野到、②12月5日（土）五味良子／参加者：①22名、②20名。

## ■広報記録

### <新聞>

- ・奥山はるか「世界の旅 空想の旅 絵や写真で 県立近代美術館企画展 巖谷國土さん監修」『毎日新聞』埼玉版、2015年11月25日
- ・「遠大なテーマ 身近に さいたまで「旅と芸術」展」『東奥日報』2015年12月4日
- ・「旅から生まれた芸術紹介 西欧近代、身近に 埼玉県立近代美術館」『岩手日報』2015年12月4日

- ・「遠大なテーマ身近に 埼玉で「旅と芸術—発見・驚異・夢想」展」『山陽新聞』2015年12月6日
  - ・「旅がいざなう「発見・驚異・夢想」 埼玉県立近代美術館」『静岡新聞』2015年12月7日
  - ・「遠大なテーマ身近に 「旅と芸術」展、埼玉県立近代美術館」『山形新聞』2015年12月8日
  - ・「遠大なテーマ身近に 埼玉県立近代美術館「旅と芸術」展」『徳島新聞』2015年12月10日
  - ・増田愛子「旅の驚き・感動 芸術に昇華 県立近代美術館 写真や絵画展示」『朝日新聞』埼玉版、2015年12月12日
  - ・「想像力かき立てた異文化 出会い、発見 美術史に影響 「旅と芸術」展 埼玉県立近代美術館」『新潟日報』2015年12月17日
  - ・「遠大なテーマを身近に さいたま市で「旅と芸術」展」『岐阜新聞』2015年12月18日
  - ・「異文化からの発見紹介 遠大なテーマ、平易に解説」『秋田さきがけ』2015年12月22日
  - ・佐藤達哉「絵や古写真を資料に旅のまなざしたどる 近代美術館で「旅と芸術」展」『埼玉新聞』2016年1月11日
  - ・牧野祥「美博ピックアップ 旅と芸術 発見・驚異・夢想」『朝日新聞』2016年1月13日
  - ・「異文化 新たな視点に オリентなどテーマ」『河北新報』2016年1月13日
  - ・「異文化との出会い 身近に」『福井新聞』2016年1月14日
  - ・「異文化との出会い 身近に さいたま市で「旅と芸術」展」『高知新聞』2016年1月15日
  - ・井上普治「感動、憧憬 旅が生んだ芸術」『読売新聞』2016年1月21日
- <雑誌、ミニコミ誌等>
- ・「旅と芸術の運命的な関係について」『Harper's BAZAAR 12月号』2015年10月20日
  - ・「旅と芸術 発見・驚異・夢想」『装苑 1月号』2015年11月28日
  - ・平野到「ブルターニュのシャグマユリ」『小原流挿花』2015年12月1日
  - ・「旅と芸術 発見・驚異・夢想」『家庭画報 1月号』2015年12月1日
  - ・「旅と芸術 発見・驚異・夢想」開催中『ショッパー』2015年12月25日
  - ・「『旅と芸術発見・驚異・夢想』の著者 巖谷國土さん」『アートコレクターズ 1月号』2015年12月25日

<テレビ、ラジオ>

- ・NHK・FM浦和「日刊!さいたま〜ず」2016年1月20日
- ・NHK「日曜美術館アートシーン」2015年12月20日
- ・テレビ埼玉「テレ玉ニュース」2016年1月14日

<告知>

『毎日新聞』首都圏版2015年9月15日/『武州路11月号』2015年10月20日/『毎日新聞』2015年11月3日/『毎日新聞』2015年11月10日/『朝日新聞』2015年11月11日/『東京新聞』2015年11月12日/『毎日新聞』2015年11月17日/『東京新聞』2015年11月19日/『産経新聞』2015年11月20日/『さいたま朝日』2015年11月22日/『毎日新聞』2015年11月24日/『朝日新聞』2015年11月25日/『毎日新聞』2015年12月1日/『たまログ 12月号』2015年12月1日/『朝日新聞』2015年12月2日/『日経新聞』2015年12月3日/『毎日新聞』2015年12月8日/『埼玉新聞』2015年12月9日/『朝日新聞』埼玉マリオン2015年12月15日/『毎日新聞』12月15日/『朝日新聞』2015年12月16日/『毎日新聞』2015年12月22日/『MOE 2月号』2015年12月29日/『読売新聞』2016年1月6日/『東京新聞』2016年1月7日/『日経新聞』2016年1月7日/『読売新聞』2016年1月12日/『毎日新聞』2016年1月12日/『朝日新聞』2016年1月13日/『日経新聞』2016年1月15日/『埼玉新聞』2016年1月18日/『読売新聞』2016年1月19日/『毎日新聞』2016年1月19日/『朝日新聞』2016年1月20日

#### ■担当後記

◆この展覧会は、数多くの古写真を蒐集している、ある個人所蔵家のコレクションをもとに展示を構成する案から立ち上がってきた。同コレクションには、19世紀半ばから20世紀前半にかけて、異文化、異郷、景勝地などを撮影した写真が多数含まれていたため、旅やエキゾティズムをキーワードに掲げて、展覧会を企画していくことになった。これらの古写真を展示の基調に据えながら、旅やエキゾティズムの前史的となる資料、テーマに関連する絵画、版画、挿絵本などを多数盛り込みながら、最終的には以下の6章で展覧会を構成した。

第1室「旅への誘い」/第2室「オリエントの魅惑」/第3室「自然・観光・鉄道」/第4室「世紀末のエキゾティズム」/第5室「空想の旅・超現実の旅」/第6室「旅行者の見た日本 列島の自然」。

◆この展覧会では巖谷國士氏に監修をお願いし、最初

の段階から展覧会の企画に加わっていただいた。巖谷氏、企画協力をいただいたアートプランニングレイのスタッフの方、当館の担当学芸員の3者で、旅という幅広いテーマについて、打合せを何度も重ねた。打合せでは、時代背景の読み解き、グラントツアーの流行、写真メディアと旅の関係、観光という文化の勃興、他者や異文化との出会い、そして現在のアクチュアルな問題との関わりなど、広範囲で多角的な議論が交わされた。これらの議論は、その全てを展示に反映できたわけではないが、展覧会のコンセプトを補強していく上で、たいへん有意義であった。

◆昨今の世界的な難民問題やテロリズムは、この展覧会の論点に繋がるアクチュアルな出来事である。展示においては、現在起きている事件については直接的には触れなかったが、オリエンタリズム、植民地政策、芸術家の移民や亡命などを取り上げることによって、この問題を歴史的な観点を踏まえつつ、間接的に考える機会を提供した。

また最終章の「旅行者の見た日本 列島の自然」では、もうひとつのアクチュアルな事柄ともいえる、噴火、地震、大津波という三つの自然災害に言及した。日本の究極のエキゾティズムともいえる自然災害の驚異に対し、ジョルジュ・ビゴーをはじめとする外国人旅行者がどのような眼差しを向けたのかという点を探るのは、実に興味深い。旅の本質は、他者や異文化との接触だけではなく、未知の自然の驚異との遭遇でもあるということが改めて良く分かった。

◆NHK日曜美術館・アートシーンの放映日(12月20日)との関係で、年末年始休館を「12月21日(月)~1月4日(月)」から、「12月24日(木)~1月4日(月)」へ変更し、12月22日(火)、12月23日(水)を臨時開館した。

## ■出品リスト

- ・作品データは以下の通り：作者名、作品名、制作年、寸法（縦×横／高×幅×奥行 cm）、所蔵先
- ・\*印の作品は前期（2015年11月14日～12月20日）の展示
- ・\*\*印の作品は後期（2015年12月22・23日、2016年1月5日～31日）の展示

### 第1室「旅への誘い」

- 1 《ヘレフォード世界図：マッパ・ムンディ》1300年頃刊（2010年複製版：The Folio Society, London）142.0×120.0 神奈川大学図書館
- 2 ハルトマン・シェーデル著『年代記』1493年刊（2002年複製版：Siloé, Burgos, Spain）47.0×33.0×9.5 神奈川大学図書館
- 3 アンドレ・テヴェ著『東方字宙誌』1617年刊 18.7×15.0 明治学院大学図書館
- 4 ヤン・ヨンスン著『動物図説：四足獣篇』1649-57年刊（2006年複製版：Siloé, Burgos, Spain）38.0×22.0 神奈川大学図書館
- 5 アタナシウス・キルヒヤー著『シナ図説』1667年刊 36.0×24.0 町田市立国際版画美術館
- 6 シャルル・ド・フェリオール編 版画集『レヴァント諸民族を描く版画百点の解説』より 1715年刊 エングレーヴィング、紙 50.0×32.0 神奈川大学図書館  
6-1《ペイラムの日の礼服を着た大公》／6-2《インドの男性》／6-3《ペルシアの女性》／6-4《通りを行くアフリカの女性》
- 7\* ジョヴァンニ・パティスタ・ピラネージ《ボボロ広場》（『ローマの景観』より）1750年 エッチング、紙 40.4×54.7 町田市立国際版画美術館
- 8\*\* ジョヴァンニ・パティスタ・ピラネージ《トレビの泉》1751年 エッチング、紙 38.0×55.0 町田市立国際版画美術館
- 9\* ジョヴァンニ・パティスタ・ピラネージ《古代アッピア街道とアルデアティーナ街道の交差点》（『ローマの古代遺跡』より第2巻II）1756年刊 エッチング、紙 39.8×63.7 町田市立国際版画美術館
- 10\*\* ジョヴァンニ・パティスタ・ピラネージ《古代のマルスの競技場》（『ローマの古代遺跡』より第3巻II）1756年刊 エッチング、紙 40.2×60.8 町田市立国際版画美術館
- 11 エドモンド・ペーレス《フォロ・ローマーノ、ローマ》1860-70年代 アルビュメン・プリント 18.1×24.3 個人蔵
- 12 ジュゼッペ・ニンチ《コロッセオ、ローマ》1860-70年代 アルビュメン・プリント 27.1×38.0 個人蔵
- 13 ジュゼッペ・ニンチ《フラミニオのオペリスクとサンタ・マリア・デイ・ミラコリ教会、ボボロ広場、ローマ》1860-70年代 アルビュメン・プリント 27.0×37.8 個人蔵
- 14 ジュゼッペ・ニンチ《トレビの泉、ローマ》1860-70年代 アルビュメン・プリント 27.1×37.5 個人蔵
- 15 《女性像のフレスコ画》1世紀（イタリア、カンパーニャ州）フレスコ 54.6×34.9 個人蔵
- 16 《富と繁栄を擬人化したフレスコ画》1世紀（イタリア、カンパーニャ州）フレスコ 67.3×70.0 個人蔵
- 17 ロベルト・リーヴェ《パンテオン、ポンペイ》1860-70年代 アルビュメン・プリント 17.4×25.9 個人蔵
- 18 ジョルジョ・ソメル《サン・マルティーノの丘からのナポリ》1860-80年代 アルビュメン・プリント 27.3×37.8 個人蔵
- 19 カナレット（ジョヴァンニ・アントニオ・カナル）《ヴェネツィア、サンマルコ広場》1732-33年頃 油彩、カンヴァス 61.0×96.5 東京富士美術館
- 20 ウィリアム・ジェームズ《ヴェネツィア、スキアヴォーニ埠頭》18世紀 油彩、カンヴァス 94.6×152.4 東京富士美術館
- 21\*\* ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー《アーヴロン川の水源》エッチング、メゾチント、紙 21.7×28.8 郡山市立美術館
- 22\* ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー《インヴァレアリイ・ピア、ファイン湖、朝》1811年 21.6×26.3 エッチング、メゾチント、アクアチント、紙 郡山市立美術館
- 23\*\* ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー《ドーヴァー海峡》1827年 エッチング、ライン・エングレーヴィング、紙 24.9×32.6 郡山市立美術館
- 24\* ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー《ストーンヘンジ》1829年 エッチング、ライン・エングレーヴィング、紙 24.8×30.8 郡山市立美術館
- 25\* ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー《ランプリス湖、北ウエールズ》1834年 エッチング、ライン・エングレーヴィング、紙 25.4×31.9 郡山市立美術館
- 26\*\* ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー《ネッカー川対岸から見たハイデルベルク》1846年 エッチング、ライン・エングレーヴィング、紙 36.6×54.1 郡山市立美術館
- 27 エティエンヌ・カルジャ《ヴィクトル・ユゴー》1880年頃 アルビュメン・プリント 21.3×16.7 個人
- 28 ヴィクトル・ユゴー《無題（城）》1853年頃 8.8×7.0 褐色インク、紙 ギャラリー一宮脇
- 29 ナダール《ギュスターヴ・ドレ》（コレクション『19世紀の写真に見る巨匠たち』：ナダール写真集No.1より）1856-58年頃（1978年のクロード・ニス・シュドルによるモダンプリント）ゼラチン・シルヴァー・プリント 25.6×20.4 個人蔵
- 30 ギュスターヴ・ドレ《城の夕暮れ》油彩、カンヴァス 73.5×100.7 山寺後藤美術館
- 31 サミュエル・テイラー・コールリッジ著、ギュスターヴ・ドレ画『老水夫の歌』1875年刊 50.5×41.0 明治学院大学図書館
- 32 エティエンヌ・カルジャ《シャルル・ボードレー》1862年頃 アルビュメン・プリント 21.4×16.5 個人蔵

### 第2室「オリエントの魅惑」

- 33 《エジプトの眺め、アレクサンドリアからフィラエ島まで》（『エジプト誌』古代篇』より第1巻扉）1809-28年刊 エッチング、紙 61.5×45.5 町田市立国際版画美術館
- 34 《エドフ、大神殿》（『エジプト誌』古代篇』より第1巻49葉）1809-28年刊 エッチング、紙 45.5×77.2 町田市立国際版画美術館
- 35 《メンフィスのピラミッド、南東から見たスフィンクスと大ピラミッド》（『エジプト誌』古代篇』より第5巻11葉）1809-28年刊 エッチング、紙 42.9×59.5 町田市立国際版画美術館
- 36 《アレクサンドリア、南西から見た「クレオパトラの針」と呼ばれるオペリスクと「ローマ人の塔」》（『エジプト誌』古代篇』より第5巻32葉）1809-28年刊 エッチング、紙 42.9×59.8 町田市立国際版画美術館
- 37 ジャン＝フランソワ・シャンポリオン著、L. J. J. デュボワ画『エジプトの万聖殿』1823-31年刊 神奈川大学図書館
- 38 イポリット・アルヌー《スフィンクス》19世紀後半 アルビュメン・プリント 21.5×27.5 個人蔵
- 39 イポリット・アルヌー《カフラー王のピラミッド》19世紀後半 アルビュメン・プリント 21.4×27.7 個人蔵
- 40 イポリット・アルヌー《カイロ》19世紀後半 アルビュメン・プリント 21.7×27.9 個人蔵
- 41 ザンガキ《ミナレット群、エル・アザール・モスク》19世紀後半 アルビュメン・プリント 27.9×21.8 個人蔵
- 42 ヴィルヘルム・ハマーシュミット《ポンペイウスの柱、アレクサンドリア》19世紀後半 アルビュメン・プリント 27.2×21.4 個人蔵
- 43 アントニオ・ベアト《ルクソール、アメンホテプ神殿、中央部からの眺め》19世紀後半 アルビュメン・プリント 26.2×19.9 個人蔵
- 44 アントニオ・ベアトほか『写真集』より 19世紀後半 アルビュメン・プリント 20.7×26.1 個人蔵
- 44-1 アントニオ・ベアト《テーベ、センネフェルの墓》／44-2 アントニオ・ベアト《デンデラ、ハトホル神殿、背面》／44-3 アントニオ・ベアト《デンデラ、ハトホル神殿》／44-4 アントニオ・ベアト《ルクソール、ラムセウム》／44-5 アントニオ・ベアト《ルクソール、ラムセウム》／44-6 アントニオ・ベアト《ルクソール、アメンホテプ3世の神殿、中庭》／44-7 アントニオ・ベアト《エドフ神殿》／44-8 アントニオ・ベアト《エドフ神殿》／44-9 アントニオ・ベアト《エドフ神殿》／44-10 アントニオ・ベアト《フィラエ島のイシス神殿》／44-11 アントニオ・ベアト《ルクソール、メムノンの巨像》

- 45 アンтониオ・ベアト《中庭にいるアラブ人家族》19世紀後半 アルビュメン・プリント 26.1×20.4 個人蔵
- 46 アブドラ兄弟《巨大ピラミッド登攀》19世紀後半 アルビュメン・プリント 25.4×19.4 個人蔵
- 47 アブドラ兄弟《コプト人女性》19世紀後半 アルビュメン・プリント 25.2×18.9 個人蔵
- 48 ウジェーヌ・ドラクロワ《オランのアラブ人》1834年 油彩、カンヴァス 32.5×41.0 東京富士美術館
- 49 ウジェーヌ・ドラクロワ《墓地のアラブ人》1838年 油彩、カンヴァス 47.3×56.0 公益財団法人ひろしま美術館
- 50 ビエール＝オーギュスト・ルノワール《ロバに乗ったアラブ人たち》1881/82年頃 油彩、カンヴァス 55.1×65.6 ボーラ美術館
- 51 撮影者不詳《砂漠の風景》19世紀後半 アルビュメン・プリント 20.4×26.4 個人蔵
- 52 撮影者不詳《砂漠の祈り》19世紀後半 アルビュメン・プリント 23.7×17.8 個人蔵
- 53 アルマン・ヴァロキエ《モロッコのアラブ人、メッカへの巡礼者》1860年代 アルビュメン・プリント 21.7×17.5 個人蔵
- 54 フェリックス＝ジャック・ムーラン《ムーア人女性の訪問、室内着、アルジェ》1857年 アルビュメン・プリント 16.1×21.8 個人蔵
- 55 ヌールダン兄弟《アルジェリア人のタイプ、ウールド・ナイルの女性》1870年代 アルビュメン・プリント 25.4×17.9 個人蔵
- 56 ヌールダン兄弟《トレムセン、宗教学校のミフラーブ（ジャマ・アブデル・カセム）》1870年代 アルビュメン・プリント 27.4×20.4 個人蔵
- 57 A. ベルトラン《大モスクの中庭、トレムセン》19世紀後半 アルビュメン・プリント 21.1×24.9 個人蔵
- 58 A. ベルトラン《ダウディの橋、トレムセン》19世紀後半 アルビュメン・プリント 20.5×25.0 個人蔵
- 59 アンドレ・ガリーグ《チュニス、カスバを望む》19世紀後半 アルビュメン・プリント 20.9×26.2 個人蔵
- 60 バリ＝チュニス《チュニス、香水市場》19世紀後半 アルビュメン・プリント 22.6×19.8 個人蔵
- 61 バリ＝チュニス《チュニジア人の農夫》19世紀後半 アルビュメン・プリント 18.8×25.3 個人蔵
- 62 ムハンマド・イブン・アミール・ハサン・アル＝スウディ 写本『至福の書』1582年刊（2007年複製版：M.Moleiro, Barcelona, Spain）31.0×21.0 神奈川県立近代美術館寄託
- 63 アドルフ・モンティセリ《モスクの前のアラブ人》油彩、パネル 58.0×85.5 山寺後藤美術館
- 64 ナルシス＝ヴィルジル・ディアズ・ド・ラ・ペーニャ《セラグリオ（ハレム）の女たち》1860年 油彩、カンヴァス 43.2×63.5 山寺後藤美術館
- 65 撮影者不詳《コンスタンティノーブル》1864年 24.8×18.7 アルビュメン・プリント 個人蔵
- 66 撮影者不詳《コンスタンティノーブル》1864年 24.7×18.7 アルビュメン・プリント 個人蔵
- 67 バスカル・セバー《ガラタ塔の頂上から撮影したコンスタンティノーブル展望》1886年頃 アルビュメン・プリント 25.8×200.8 個人蔵
- 68 アレクサンドル・ドカン《アナトリア風景》1851年 油彩、カンヴァス 68.5×94.5 山寺後藤美術館
- 69 ウジェーヌ・ドラクロワ《手綱を持つチュルクス人》1858年頃 油彩、カンヴァス 32.4×40.6 東京富士美術館
- 70 アレクサンドル・カパネル《デスデモーナ》1871年 油彩、カンヴァス 73.6×59.7 山寺後藤美術館
- 71 フェリックス・ボンフィス《パールベック、円形神殿》1860-70年代 アルビュメン・プリント 22.5×28.6 個人蔵
- 72 ウジェーヌ・ドラクロワ《聖ステパノの遺骸を抱え起こす弟子たち》1860年 油彩、板にカルトン貼りつけ 41.0×33.2 丸沼芸術の森（埼玉県立近代美術館寄託）
- 73 フェリックス・ボンフィス《シオン山上のダヴィデ王の墓、エルサレム》1860-70年代 アルビュメン・プリント 21.7×27.7 個人蔵
- 74 フェリックス・ボンフィス《黄金の門の外観、エルサレム》1860-70年代 アルビュメン・プリント 27.7×21.5 個人蔵
- 75 ナダール《ウジェーヌ・ドラクロワ》（コレクション『19世紀の写真に見る巨匠たち』：ナダール写真集No.1より）1858年頃（1978年のクロード・シュドルによるモダンプリント）ゼラチン・シルヴァー・プリント 25.6×20.4 個人蔵
- 76 ナダール《ジェラルド・ド・ネルヴァル》（コレクション『19世紀の写真に見る巨匠たち』：ナダール写真集No.1より）1854年（1978年のクロード・シュドルによるモダンプリント）ゼラチン・シルヴァー・プリント 25.6×20.4 個人蔵
- 77 ナダール《テオフィル・ゴージェ》（コレクション『19世紀の写真に見る巨匠たち』：ナダール写真集No.1より）1855年頃（1978年のクロード・シュドルによるモダンプリント）ゼラチン・シルヴァー・プリント 25.6×20.4 個人蔵
- 78 ナダール《マクシム・デュ・カン》（コレクション『19世紀の写真に見る巨匠たち』：ナダール写真集No.1より）1856年頃（1978年のクロード・シュドルによるモダンプリント）ゼラチン・シルヴァー・プリント 25.6×20.4 個人蔵
- 79 ナダール《フェリックス・トゥルナション》（コレクション『19世紀の写真に見る巨匠たち』：ナダール写真集No.1より）1855年（1978年のクロード・シュドルによるモダンプリント）ゼラチン・シルヴァー・プリント 25.6×20.4 個人蔵
- 80 《館の扉を飾る装飾欄間（シヴァ神像）》18世紀（インド）木彫 74.0×189.0×11.0 個人蔵
- 81 サミュエル・ボーン《アフマダーバード、インド》1870年 アルビュメン・プリント 20.8×26.7 個人蔵
- 82 フリス・カンパニー 写真集『インド展望』より 1870年代 16.2×20.6 個人蔵
- 82-1《ニューデリー》／82-2《タクトゥブ・ミナール、デリー》／82-3《タージ・マハル廟、アグラ》／82-4《ディヴァニ・カースの王座支柱、ファターブル・シクリー》／82-5《グワーリオル》／82-6《バナレス（ヴァラーナシー）》／82-7《ボンベイ（ムンバイ）》／82-8《アジャンタ石窟寺院》／82-9《エローラ石窟群》／82-10《ヒマラヤ、キツパル村》／82-11《シュリーランガム》

### 第3室「自然・観光・鉄道」

- 83 ジュール・デュプレ《森の中―夏の朝》1840年頃 油彩、カンヴァス 95.5×76.0 山梨県立美術館
- 84 ナルシス＝ヴィルジル・ディアズ・ド・ラ・ペーニャ《フォンテーヌブローの樫の木「怒れる者」》1862年 油彩、カンヴァス 71.4×93.5 山梨県立美術館
- 85 レオン・リシェ《沼地の風景》油彩、カンヴァス 66.1×81.9 山寺後藤美術館
- 86 アシル・キネ《フォンテーヌブローの森》1870年代 アルビュメン・プリント 24.8×18.0 個人蔵
- 87 アシル・キネ《題名不詳》1870年代 アルビュメン・プリント 19.1×24.7 個人蔵
- 88 アシル・キネ《自然にもとづく習作》1870年代 アルビュメン・プリント 19.0×24.6 個人蔵
- 89 A. トーバン《自然にもとづく習作》1860-80年代 アルビュメン・プリント 17.2×16.7 個人蔵
- 90 A. トーバン《自然にもとづく習作》1860-80年代 アルビュメン・プリント 18.2×24.3 個人蔵
- 91 コンスタン・アレクサンドル・ファマン《フォンテーヌブローの森》1870年代 アルビュメン・プリント 20.3×27.5 個人蔵
- 92 コンスタン・アレクサンドル・ファマン《題名不詳》1870年代 アルビュメン・プリント 25.8×20.0 個人蔵
- 93 コンスタン・アレクサンドル・ファマン《田舎のふたりの子ども》1874年頃 アルビュメン・プリント 17.3×12.6 個人蔵
- 94 撮影者不詳《題名不詳》19世紀後半 アルビュメン・プリント 17.1×21.2 個人蔵
- 95 撮影者不詳《題名不詳》19世紀後半 アルビュメン・プリント 16.6×21.6 個人蔵
- 96 撮影者不詳《題名不詳》19世紀後半 アルビュメン・プリント 17.3×21.4 個人蔵
- 97 撮影者不詳《題名不詳》19世紀後半 アルビュメン・プリント 17.4×21.5 個人蔵
- 98\* ビエール＝エティエンヌ・テオドール・ルソー《ピオー草原の桜の木》1862年 ガラス版画、紙 21.7×27.5 山梨県立美術館
- 99\* ジャン＝バティスト・カミーユ・コロエ《森の入口の母子》1856年 ガラス版画、紙 35.5×26.4 山梨県立美術館
- 100 ジャン＝バティスト・カミーユ・コロエ《サン＝ニコラ＝レ＝ザラスの川辺》1872年 油彩、カンヴァス 52.0×63.0 山寺後藤美術館

- 101 ナダール《カミーユ・コロ》(コレクション『19世紀の写真に見る巨匠たち』:ナダール写真集No.1より) 1863年頃(1978年のクローディヌ・シュドルによるモダンプリント)ゼラチン・シルヴァー・プリント 25.6×20.4 個人蔵
- 102 リチャード・パークス・ポントントン《ルアーンの大時計通り》(『古きフランスのビトレスクでロマンティックな旅』「古ノルマンディー」より第173図)1824年(1825年刊)リトグラフ、紙 24.4×25.5 町田市立国際版画美術館
- 103 カミーユ・ピサロ《エラニーの牛を追う娘》1884年 油彩、カンヴァス 59.7×73.3 埼玉県立近代美術館
- 104 ウジェーヌ・ブーダン《ノルマンディーの風景》1854-57年 油彩、板 34.5×57.5 丸沼芸術の森(埼玉県立近代美術館寄託)
- 105 クロード・モネ《ルエルの眺め》1858年 油彩、カンヴァス 46.0×65.0 丸沼芸術の森(埼玉県立近代美術館寄託)
- 106 クロード・モネ《貨物列車》1872年 油彩、カンヴァス 48.1×75.0 ポーラ美術館
- 107 ナダール《クロード・モネ》1899年 ゼラチン・シルヴァー・プリント 14.6×10.5 個人蔵
- 108 ギュスターヴ・クールベ《エトルタ海岸、夕日》1869年 油彩、カンヴァス 54.0×64.0 新潟県立近代美術館・万代島美術館
- 109 ギュスターヴ・クールベ《波》1869年 油彩、カンヴァス 34.5×51.8 ふくやま美術館
- 110《観光絵葉書コレクション》より「モン・サン＝ミッシェル」個人蔵  
110-1モン・サン＝ミッシェル(西部鉄道)／110-2モン・サン＝ミッシェル／110-3ブルターニュ南岸(オルレアン鉄道)
- 111 撮影者不詳《モン・サン＝ミッシェル》19世紀後半 アルビュメン・プリント 13.1×19.1 個人蔵
- 112 ジョルジュ・ムニエ《ノルマンディーとブルターニュへの小旅行／西部鉄道》1896年 リトグラフ、紙 105.0×73.0 三浦コレクション・川崎市市民ミュージアム
- 113 ブリヴァン＝リヴモン《カブール／西部鉄道》1896年 リトグラフ、紙 74.9×109.2 川崎市市民ミュージアム
- 114 モーリス・ドニ《トレストリニールの岩場》1920年 油彩、カンヴァス 64.5×91.0 埼玉県立近代美術館
- 115 セラファン＝メデリック・ミウーズモン《シャルトル、ノートル・ダム大聖堂、身廊》1870-80年代 アルビュメン・プリント 36.0×25.0 個人蔵
- 116 セラファン＝メデリック・ミウーズモン《シャルトル、ノートル・ダム大聖堂、北側のポルタイユ》1870-80年代 アルビュメン・プリント 37.2×27.0 個人蔵
- 117 セラファン＝メデリック・ミウーズモン《プロワ城、フランソワ1世の居室棟(サン＝ヴァンサン広場側)》1860年代 フォトグラヴェール 17.1×23.1 個人蔵
- 118 セラファン＝メデリック・ミウーズモン《プロワ城、フランソワ1世の居室棟、大階段の上層部分》1860年代 フォトグラヴェール 24.3×18.2 個人蔵
- 119 アルフォンス・ミュシャ《モナコ・モンテカルロ／P.L.M.鉄道》1897年 リトグラフ、紙 110.3×77.0 三浦コレクション・川崎市市民ミュージアム
- 120 アルフォンス・ミュシャ《題名不詳》1900年頃 アルビュメン・プリント 23.6×16.7 個人蔵
- 121 アンリ・ルソウ《マルヌ河畔(秋、ダムリール・ブルソーの眺め)》1906年 油彩、カンヴァス 40.0×52.1 公益財団法人ハーモ美術館
- 122 シャルル・メリヨン《パリのボン・ト・シャンジュ》1854年 エッチング、紙 15.6×33.4 町田市立国際版画美術館
- 123 撮影者不詳《ノートル・ダム寺院、パリ》19世紀後半 アルビュメン・プリント 26.6×20.1 個人蔵
- 124 アシル・キネ《マドレーヌ寺院》1868年頃 アルビュメン・プリント 19.2×24.8 個人蔵
- 125 アシル・キネ《アンヴァリード(陸病院)のドーム》1870年頃 アルビュメン・プリント 24.7×19.2 個人蔵
- 126 ルイ＝エミール・デュランデル《ブランタン百貨店、パリ》1880年頃 アルビュメン・プリント 44.1×27.5 個人蔵
- 127 撮影者不詳《アルジュ》19世紀後半 アルビュメン・プリント 20.0×103.9 個人蔵
- 128 アルベール・マルケ《停泊船、曇り空》1922-23年頃 油彩、カンヴァス 38.4×46.0 ふくやま美術館
- 129 ジャン＝パティスト＝カミーユ・コロウ《イタリアの想い出》1863年 エッチング、紙 33.9×25.9 埼玉県立近代美術館
- 130 ジャン＝パティスト＝カミーユ・コロウ《砂丘にてーハーグの森の想い出》1869年 エッチング、紙 13.7×20.7 埼玉県立近代美術館
- 131 アリナーリ兄弟《ピサの大聖堂、背景に斜塔の風景》1880年頃 アルビュメン・プリント 19.0×26.7 個人蔵
- 132 アリナーリ兄弟《ランツィの開廊、フィレンツェ》1880年頃 アルビュメン・プリント 17.3×23.9 個人蔵
- 133 アリナーリ兄弟《シエナの大聖堂》1880年頃 アルビュメン・プリント 43.5×31.2 個人蔵
- 134 ジャン・ローラン《コルドバ、メスキータ内部の眺め》1870年頃 アルビュメン・プリント 24.9×34.5 個人蔵
- 135 ジャン・ローラン《グラナダ、アルハンブラ宮殿、獅子の中庭の柱頭彫刻》1870年頃 アルビュメン・プリント 34.0×24.5 個人蔵
- 136 ジャン・ローラン《セビーリヤ、ピラトの館の中庭》1870年頃 アルビュメン・プリント 24.4×34.5 個人蔵
- 137 ジャン・ローラン《セビーリヤ、アルカサル、ラス・ドンセリヤスの中庭》1870年頃 アルビュメン・プリント 34.0×25.1 個人蔵
- 138 撮影者不詳《リスボン》19世紀後半 アルビュメン・プリント 20.8×84.1 個人蔵
- 139 フェリックス・ピュオ《ウェストミンスターの橋または時計塔》1884年頃 エッチング、ドライポイント、アクアチント、ソフトグランド・エッチング、ルーレット、紙 28.7×39.8 町田市立国際版画美術館
- 140 フェリックス・ピュオ《ウェストミンスター宮殿》1884年 エッチング、ドライポイント、ヴェラム刷り、紙 28.8×39.8 町田市立国際版画美術館
- 141 ジェームズ・ヴァレンタイン《ロンドン・ブリッジからモニュメントを望む》1870年代 アルビュメン・プリント 19.0×29.0 個人蔵
- 142 ジェームズ・ヴァレンタイン《タワー・ブリッジから見たロンドン》アルビュメン・プリント 1870年代 19.0×29.3 個人蔵
- 143 ジェームズ・ヴァレンタイン《トラファルガー広場、ロンドン》1870年代 アルビュメン・プリント 19.0×29.2 個人蔵
- 144 ジョージ・ワシントン・ウィルソン《サーソ城の南面》1880年代 アルビュメン・プリント 13.2×20.1 個人蔵
- 145 ジェームズ・ヴァレンタイン《コルイス湖、スカイ島》1880年代 アルビュメン・プリント 18.6×28.9 個人蔵
- 146《巖谷小波の絵葉書コレクション》より「世界各地」個人蔵  
146-1パリ、オペラ座(フランス)小波より妻宛 1900年頃／146-2ベルリン(ドイツ)小波より長男宛 1901年／146-3ベルリン(ドイツ)小波より長男宛 1901年／146-4ベルリン(ドイツ)小波より長男宛 1901年／146-5キルヒナー画(MIKADO)ベルリンの小波宛 1901年／146-6ウィーン(オーストリア)ベルリンの小波宛 1901年／146-7東京 ベルリンの小波宛 1901年／146-8ハルト山土地「魔女の舞踏場」(ドイツ)ベルリンの小波宛 1902年／146-9アムステルダム(オランダ)ベルリンの小波宛 1902年／146-10スピッツベルゲン島(ノルウェー)ベルリンの小波宛 1902年／146-11パリ、シャンゼリゼの人形劇(フランス)ロンドンの小波宛 1902年／146-12サンクト・ペテルブルグ、アレクサンドル3世美術館 ベルリンの小波宛 1902年／146-13エジプト(砂漠の折り)東京の小波宛発送年不詳／146-14リマ(ペルー)東京の小波宛発送年不詳／146-15ファテーブル・シクリー(アグラ近郊)、インド東京の小波宛
- 147《巖谷小波の絵葉書コレクション》より「アメリカ各地」1909年個人蔵  
147-1ワシントン州タコマアメリカ富士小波より妻宛／147-2シカゴリカーン・パーク湖畔の小ドライブ小波より長女宛／147-3デトロイトの水族館小波より次女宛／147-4ナイアガラ滝(ニューヨーク州側)小波より妻宛／147-5ニューヨーク州シラキューズの市街を走る機関車小波より長男宛／147-6ニューヨーク ブルックリン橋と駅 小波より長男宛／147-7コロラド州パイクス・ピークパイクス・ピーク・コグ鉄道 小波より長男宛／147-8ユタ州ソルトレイクシティ小波より長女宛／147-9ロス・アンジェルズ カリフォルニアの収穫シーン小波より長男宛
- 148 A.M. カッサンドル《スタテンダム号／オランダーアメリカ航路》1928年 リトグラフ、紙 104.8×80.6 三浦コレクション・川崎市市民ミュージアム
- 149 A.M. カッサンドル《アドルフ・ジャン＝ルー・ムーレン》《アトランティック号／南米航路》1931年 リトグラフ、紙 100.0×61.5 川崎市市民ミュージアム

#### 第4室「世紀末のエグゼンティスム」

- 150 ヤン・トローップ《生命の守護神》1895年 クレヨン、紙、パネル 104.0×216.0 埼玉県立近代美術館
- 151 フェリックス・ヴァロットン《カイロ通り》(『万国博覧会』よりV) 1901年 木版、紙 16.6×12.2 町田市立国際版画美術館
- 152 フェリックス・ヴァロットン《花火》(『万国博覧会』よりVI) 1901年 木版、紙 16.4×12.3 町田市立国際版画美術館
- 153 エティエンヌ・カルジャ《ジュール・ヴェルヌ》1878年 ウッドベリータイプ 19.7×15.0 個人蔵
- 154 ジュール・ヴェルヌ著、ド・ヌヴィル、ブネ画『80日間世界一周』1889年刊 28.0×19.0 梅花女子大学
- 155 オディロン・ルドン《デ・ゼッサント》1888年(トリミング前の刷り) リトグラフ、紙 14.9×9.8 岐阜県美術館
- 156\*\* オディロン・ルドン《デ・ゼッサント》1888年 リトグラフ、紙 14.9×9.8 岐阜県美術館
- 157 ギュスターヴ・モロー《不和の女神》(『ラ・フォンテーヌの寓話』より、フェリックス・ブラックモン刻) 1886年 エッチング、紙 33.8×27.0 町田市立国際版画美術館
- 158 ギュスターヴ・モロー《恋するライオン》(『ラ・フォンテーヌの寓話』より、フェリックス・ブラックモン刻) 1886年(第3ステート) エッチング、紙 34.5×26.0 町田市立国際版画美術館
- 159 オープリー・ピアズリー『オスカー・ワイルド作(サロメ)のための挿絵集』1906年刊 ラインブロック、紙 35.3×28.0 うらわ美術館  
159-1 第5葉(孔雀の装飾) / 159-2 第12葉(サロメの化粧I) / 159-3 第14葉(踊り手の褒美) / 159-4 第15葉(クライマックス)
- 160 (前期・後期で頁替え)「パリ・イリュストレ」(日本特集号:1886年5月1日号) 1886年刊 45.5×33.5 宇都宮美術館
- 161 ジュール・シェレ《国立美術学校での「日本の巨匠たち」展》1890年 リトグラフ、紙 87.3×123.2 川崎市市民ミュージアム
- 162 ビエール・ロティ『お菊さん』1888年刊 神奈川大学図書館
- 163 ビエール・バルブト編『ラ・フォンテーヌ寓話選(日本人絵師たちによる)』1894年刊 25.8×18.0 明治学院大学図書館
- 164 ビエール・バルブト編『フロリアン寓話選(日本人絵師たちによる)』1895年刊 25.0×35.0 明治学院大学図書館
- 165 エミール・ガレ《植込鉢(星形)》1880年頃 施釉軟質陶器 31.9×33.0×13.0 松江北堀美術館
- 166 エミール・ガレ《皿(団扇形)》1880年頃 施釉軟質陶器 21.0×29.5 松江北堀美術館
- 167 エミール・ガレ《植込鉢(蓮文扇形)》1877-84年頃 施釉軟質陶器 16.3×32.0×10.4 松江北堀美術館
- 168 エミール・ガレ《花器(フジヤム)》1884-89年頃 施釉軟質陶器 19.8×11.5×12.5 松江北堀美術館
- 169\*\* エミール・ベルナル《青い肩かけのプルトーニュ婦人》1887年 水彩、紙 27.3×21.5 新潟県立近代美術館・万代島美術館
- 170\* エミール・ベルナル《サン・ブリアクの収穫》1887年 水彩、紙 20.5×26.5 新潟県立近代美術館・万代島美術館
- 171\*\* エミール・ベルナル《レゼビアン・サン・ブリアクの小湾》1888年 水彩、紙 21.0×27.0 新潟県立近代美術館・万代島美術館
- 172\* エミール・ベルナル《アヴェン川の大きな赤い帆》1889年 水彩、紙 31.0×19.5 新潟県立近代美術館・万代島美術館
- 173 ポール・セリュジエ《急流のそばの幻影 または妖精たちのランデヴー》1897年 油彩、カンヴァス 111.0×182.0 岐阜県美術館
- 174 モーリス・ドニ《シャグマユリの聖母子》1925年 油彩、カンヴァス 125.5×78.5 埼玉県立近代美術館
- 175\* ポール・ゴーギャン《プルトーニュのよろこび》(『10点の亜鉛板リトグラフ』より) 1889年(1900年以後に出版された第2版) 亜鉛板リトグラフ、紙 20.3×24.2 個人蔵(町田市立国際版画美術館寄託)
- 176\*\* ポール・ゴーギャン《レダ》(『10点の亜鉛板リトグラフ』より) 1889年(1900年以後に出版された第2版) 亜鉛板リトグラフ、紙 22.0×20.5 個人蔵(町田市立国際版画美術館寄託)
- 177\* ポール・ゴーギャン《テ・ファルル(愛しあう)》1893-94年(ルイ・ロワ版) 木版多色刷、和紙 35.5×20.5 岐阜県美術館
- 178\*\* ポール・ゴーギャン《テ・アトゥア(神々)》1893-94年(ルイ・ロワ版) 木版多色刷、和紙 20.5×36.1 岐阜県美術館
- 179 ポール・ゴーギャン『10の木版画集』1921年刷り・刊行(ポーラ版) 木版、紙 埼玉県立近代美術館  
179-1《アウティ・テ・パベ(川岸の女たち)》1893-94年 20.5×35.6 / 179-2《マルル(感謝)》20.5×35.6 / 179-3《マフナ・ノ・ヴァルア・イノ(悪魔は語る)》1893-94年 20.5×35.5 / 179-4《テ・ボ(大いなる夜)》1893-94年 20.5×35.8 / 179-5《宇宙創造》1893-94年 20.5×35.5 / 179-6《微笑(風刺紙『微笑』第4号の扉絵)》1899年 10.0×18.2 / 179-7《マハナ・アトゥア(神々の日)》1894-95年 18.3×20.5 / 179-8《マナオ・トゥババウ(死霊は見ている)》1893-94年 20.5×35.5 / 179-9《ノア・ノア(かぐわしい、かぐわしい)》1893-94年 35.4×20.4 / 179-10《ナヴェ・ナヴェ・フェヌア(かぐわしき大地)》1893-94年 35.4×20.5

#### 第5室「空想の旅・超現実の旅」

- 180 J. J. グランヴィル画、タクシル・ドロール文『もうひとつの世界』より 1844年刊 木口木版、手彩色 26.5×18.8 町田市立国際版画美術館  
180-1\*《パレエの黙示録》 / 180-2\*《四月の魚》 / 180-3\*《慧星の長い旅》 / 180-4\*\*《アイリスの扇》 / 180-5\*\*《フランス影絵》 / 180-6\*\*《フーリエのシステム》
- 181 J. J. グランヴィル画、ジョゼフ・メリー文『星々』1849年刊 26.7×17.8 明治学院大学言語文化研究所
- 182 ジュール・ヴェルヌ著、ド・ヌヴィル、リウー画『海底2万マイル』1905-10年頃刊 28.0×19.0 梅花女子大学
- 183 ジュール・ヴェルヌ著、ド・ヌヴィル、バイヤール画『月をめぐって』1870年刊 27.5×18.2 梅花女子大学
- 184 テオフィル・ゴティエ(子)著、ギュスターヴ・ドレ画『ミュンヒハウゼン男爵の冒険』刊行年不詳 32.5×24.0 明治学院大学図書館
- 185 シャルル・ペロー著、ギュスターヴ・ドレ画『ペロー昔話集』1864年刊 24.3×19.5 明治学院大学図書館
- 186 ナダール《ギュスターヴ・ドレ》1883年頃 ウッドベリータイプ 10.7×8.8 個人蔵
- 187 ウィリアム・アリンガム詩、リチャード・ドイル画『妖精の国で』1870年刊 39.1×29.1 明治学院大学図書館
- 188 ルイス・キャロル著、ジョン・テニエル画『不思議の国のアリス』1874年刊 19.2×13.5 明治学院大学図書館
- 189 ルイス・キャロル著、画『地下の国のアリス』1886年刊 19.2×13.5 明治学院大学図書館
- 190 ハンス・クリスティアン・アンデルセン著、エドモン・デュラック画『雪の女王ほかアンデルセン童話集』1911年刊 23.0×17.4 明治学院大学図書館
- 191 ヴェランティエヌ・ユゴ一画、アルチュール・ランボー詩 版画集『七歳の詩人たち』より 1939年刊 32.5×25.0 個人蔵
- 192 アンドレ・ボリヤン《ニンフたちの洞窟》1946年 油彩、カンヴァス 44.5×61.0 公益財団法人ハーマ美術館
- 193 ジョルジョ・デ・キリコ《イタリア広場・アリアドネの目覚め》1970年代 油彩、カンヴァス 71.4×107.0 宮崎県立美術館
- 194 ビエール・ロワ《旅》1938年 油彩、カンヴァス 73.0×49.9 宮崎県立美術館
- 195 マルク・シャガール《世界の外のどこへでも》1915-19年 油彩、カンヴァスに裏打ちされたカルトン 61.0×47.3 群馬県立近代美術館(群馬県企業局寄託作品)
- 196 マルク・シャガール《二つの花束》1925年 油彩、カンヴァス 81.2×100.0 埼玉県立近代美術館
- 197\* パウル・クレー《カイルアの街角スケッチ》1914年 ベン、ぼかし、水彩、厚紙の上に二重の紙 13.0×16.5 清水三年坂美術館
- 198\*\* パウル・クレー《モロッコの家々》1915年 水彩、ペン、厚紙の上に紙 13.0×10.0 清水三年坂美術館
- 199 ウジェーヌ・アジェ《ヴェルサイユ、北の花壇、シレーヌの池》1903年(1977年のビエール・ガスマンによるモダンプリント) ゼラチン・シルヴァー・プリント 17.5×23.5 個人蔵
- 200 ウジェーヌ・アジェ《マリイ橋》1912年(1977年のビエール・ガスマンによるモダンプリント) ゼラチン・シルヴァー・プリント 23.3×17.4 個人蔵
- 201 ウジェーヌ・アジェ《中庭》1919年(1977年のビエール・ガスマンによるモダンプリント) ゼラチン・シルヴァー・プリント 17.5×23.0 個人蔵

- 202 ウジェーヌ・アジェ《パリ16区、バルトン通り18》撮影年不詳（1977年のピエール・ガスマンによるモダンプリント）ゼラチン・シルヴァー・プリント 23.5×17.7 個人蔵
- 203 ウジェーヌ・アジェ《オー・ド・セーヌ県、サン・クルー庭園、大滝全景》1923年（1977年のピエール・ガスマンによるモダンプリント）ゼラチン・シルヴァー・プリント 17.4×21.5 個人蔵
- 204 ウジェーヌ・アジェ《トリアノン宮、ヴェルサイユ》1923-24年（1977年のピエール・ガスマンによるモダンプリント）ゼラチン・シルヴァー・プリント 23.3×17.4 個人蔵
- 205 フィリップ・スーポー著『ヴェストヴェゴ』1922年刊 明治学院大学図書館
- 206 ルイ・アラゴン著『テレマックの冒険』1922年刊 19.0×13.0 明治学院大学図書館
- 207 アンドレ・ブルトン著『ナジャ』1928年刊 19.0×13.0 明治学院大学図書館
- 208 アンドレ・ブルトン詩、フレデリック・キースラー装・画『シャルル・フーリエ頌』1947年刊 28.0×16.0 個人蔵
- 209 ルネ・ドーマル著・画『類推の山』1952年刊 19.0×13.0 個人蔵
- 210 マックス・エルンスト《外壁のマスク》1948年 ブロンズ 23.8×38.6×19.2 群馬県立館林美術館
- 211 レオノーラ・キャリントン《狩猟》1942年 油彩、カンヴァス 48.1×93.8 宮崎県立美術館
- 212 ロベルト・マッタ 版画集『ホメロス四世（支点）』より 1983年刊 エッチング、アクアチント、紙 埼玉県立近代美術館  
212-1 No.1《支点の支点》49.3×37.5 / 212-2 No.10《入口は出口にあり》48.6×37.0
- 213 トワイエン画、ラドヴァン・イヴシッチ詩『射撃場：12のデッサン1939-1940』より1973年刊 リトグラフ、紙 30.5×45.5 個人蔵
- 214 ボール・デルヴォー《森》1948年 油彩、板 127.5×152.8 埼玉県立近代美術館
- 215 ボール・デルヴォー《駅》1971年 リトグラフ、紙 57.6×78.2 姫路市立美術館
- 216 ボール・デルヴォー《女帝》1974年 リトグラフ、紙 80.3×60.0 姫路市立美術館

## 第6室「旅行者の見た日本 列島の自然」

- 217（2週間ごとに頁替え、額装作品は前期展示）葛飾北斎『富嶽百景』初編より 1834（天保5）年刊 半紙本一冊 西村屋祐藏（成柳堂）浦上満氏蔵
- 218（2週間ごとに頁替え、額装作品は後期展示）葛飾北斎『富嶽百景』二編より 1835（天保6）年刊 半紙本一冊 西村屋祐藏（成柳堂）浦上満氏蔵
- 219 チャールズ・ワグマン《富士遠望図》1876（明治9）年以降 油彩、カンヴァス 41.2×76.2 静岡県立美術館
- 220 アルフレッド・イースト《富士山》油彩、カンヴァス 61.0×91.6 府中市美術館
- 221 ジョルジュ・ビゴー《鞍掛山から見た富士山と箱根湖》油彩、板 37.1×54.7 宇都宮美術館
- 222 ウィリアム・ハイネ原画《江戸湾、ウェブスター島（夏島）からの眺め》（『ペリー艦隊日本遠征記』より）1856年刊 石版画、紙 15.1×22.5 個人蔵
- 223 ウィリアム・ハイネ原画《江戸湾、浦賀の風景》（『ペリー艦隊日本遠征記』より）1856年刊 石版画、紙 15.1×22.6 個人蔵
- 224 W・T・ピーターズ原画《横浜、米国からの贈物》（『ペリー艦隊日本遠征記』より）1856年刊 石版画、紙 15.1×22.5 個人蔵
- 225\* フェリーチェ・ベアト《富士山》1863-77年 アルビュメン・プリント 22.9×28.2 IZU PHOTO MUSEUM
- 226\* 撮影者不詳《吉原からの富士山（東海道）》1880-90年代 アルビュメン・プリント、手彩色 20.8×26.8 IZU PHOTO MUSEUM
- 227\* フェリーチェ・ベアトあるいはライムント・フォン・スティルフリード《御殿場》1860-80年代 アルビュメン・プリント、手彩色 18.9×23.7 IZU PHOTO MUSEUM
- 228\* フェリーチェ・ベアトあるいはライムント・フォン・スティルフリード《須走》1860-80年代 アルビュメン・プリント、手彩色 22.0×27.6 IZU PHOTO MUSEUM
- 229 イサベラ・バード著『日本奥地紀行』1881（明治14）年刊、パットナム社 19.8×15.8 IZU PHOTO MUSEUM
- 230 ハーバートG. ボンティング 写真集『富士山』1905（明治38）年刊 25.5×37.5 個人蔵
- 231\* 日下部金兵衛《題名不詳（巡礼者）》1880-90年代 アルビュメン・プリント、手彩色 25.9×20.6 IZU PHOTO MUSEUM
- 232\* 日下部金兵衛《題名不詳（傘をさす女性）》1880-90年代 アルビュメン・プリント、手彩色 22.1×15.2 IZU PHOTO MUSEUM
- 233\* 玉村康三郎《題名不詳（人力車に乗る和装の外国人）》1880-90年代 アルビュメン・プリント、手彩色 20.9×26.6 IZU PHOTO MUSEUM
- 234\* 玉村康三郎《題名不詳（人力車に乗る和装の外国人）》1880-90年代 アルビュメン・プリント 21.0×26.7 IZU PHOTO MUSEUM
- 235 ジョルジュ・ビゴー画『お-は-よ』1883（明治16）年刊 30.0×22.0 明治学院大学図書館
- 236 ジョルジュ・ビゴー画《元日の写真館は大繁盛》（『正月元日』より）1890年（明治23）年刊 リトグラフ 11.9×18.1 川崎市市民ミュージアム
- 237\* ジョルジュ・ビゴー《広告企画案富士山を背景に疾走する赤い自動車》水彩、鉛筆、紙 25.5×36.2 宇都宮美術館
- 238\* 五姓田芳柳《風俗図屏風》水彩、紙（六曲一隻）178.0×360.0 郡山市立美術館
- 239\* 中山年次《日本風俗I》水彩、絹 51.0×68.6 郡山市立美術館
- 240\* 中山年次《日本風俗II》水彩、絹 50.8×67.1 郡山市立美術館
- 241 ウィリアム・K・バートン《磐梯山爆発：噴口内岩石》1888（明治21）年 写真複製パネル展示 国立科学博物館
- 242 ウィリアム・K・バートン《磐梯山爆発：噴口内土石流出》1888（明治21）年 写真複製パネル展示 国立科学博物館
- 243 ウィリアム・K・バートン《磐梯山爆発：中ノ湯より噴口遠望》1888（明治21）年 写真複製パネル展示 国立科学博物館
- 244 ウィリアム・K・バートン《磐梯山爆発：噴口遠望》1888（明治21）年 写真複製パネル展示 国立科学博物館
- 245 ウィリアム・K・バートン《磐梯山爆発：噴口内断崖》1888（明治21）年 写真複製パネル展示 国立科学博物館
- 246 ウィリアム・K・バートン《磐梯山爆発：名称不詳》1888（明治21）年 写真複製パネル展示 国立科学博物館
- 247\* ジョルジュ・ビゴー《猪苗代湖より磐梯山を望む》1888（明治21）年 鉛筆、紙 18.4×27.8 宇都宮美術館
- 248\* ジョルジュ・ビゴー《猪苗代磐梯山爆発で被災した渋谷村》1888（明治21）年 水彩、鉛筆、紙 18.5×28.0 宇都宮美術館
- 249\* ジョルジュ・ビゴー《猪苗代磐梯山爆発で被災した白木城村死者93名》1888（明治21）年 水彩、鉛筆、紙 18.4×27.8 宇都宮美術館
- 250\* ジョルジュ・ビゴー《猪苗代磐梯山爆発で被災した見瀬村死者155名》1888（明治21）年 18.4×27.8 水彩、鉛筆、紙 宇都宮美術館
- 251\* ジョルジュ・ビゴー《三陸大津波大船渡の惨状（1）》1896（明治29）年 水彩、鉛筆、紙 19.2×29.2 宇都宮美術館
- 252\* ジョルジュ・ビゴー《三陸大津波大船渡の惨状（2）》1896（明治29）年 水彩、鉛筆、紙 19.1×29.4 宇都宮美術館
- 253\* ジョルジュ・ビゴー《三陸大津波せんうん寺におかれた救護所の情景（2）》1896（明治29）年 水彩、ペン、鉛筆、紙 19.0×29.0 宇都宮美術館
- 254\* ジョルジュ・ビゴー《三陸大津波せんうん寺におかれた救護所の情景（4）》1896（明治29）年 水彩、鉛筆、紙 29.2×19.0 宇都宮美術館
- 255 ジョン・ミルン、ウィリアム・K・バートン 写真集『日本の大地震1891（濃尾地震）』1891（明治24）年刊 29.0×42.0 個人蔵
- 256 ジョルジュ・ビゴー画 英紙『ザ・グラフィック』より 1891（明治24）年12月26日号 リトグラフ 256-1～4：各約9.8×15.5 256-5：15.8×21.4 川崎市市民ミュージアム
- 256-1《岐阜の被災者への食糧配布》/ 256-2《寺の門構えがくずれて死んだ母と子》/ 256-3《地震後、野外で眠る大垣の住民》/ 256-4《岐阜神田町、明け方の犠牲者葬儀》/ 256-5《地震後、焼け落ちた岐阜市の一角》

- 
- 
- 参考出品 映像制作：中川陽介映像作品（31 サミュエル・テイラー・コールリッジ著、ギュスターヴ・ドレ画『老水夫の歌』1875年刊明治学院大学図書館より）7分40秒
  - 参考出品 映像制作：中川陽介（67 パスカル・セバール《ガラタ塔の頂上から撮影したコンスタンティノーブル展望》1886年頃 アルビュメン・プリント 個人蔵／127 撮影者不詳《アルジェ》19世紀後半 アルビュメン・プリント個人蔵／138 撮影者不詳《リスボン》19世紀後半 アルビュメン・プリント個人蔵より）5分40秒
  - 参考出品 映像制作：中川陽介（185 シャルル・ペロー著、ギュスターヴ・ドレ画『ペロー昔話集』1864年刊明治学院大学図書館より）4分44秒
  - 参考出品 映像制作：中川陽介（230 ハーバートG. ポンティング写真集『富士山』1905年刊個人蔵より）6分10秒
  - 参考出品 映像制作：中川陽介（255 ジョン・ミルン、ウィリアム・K・バートン写真集『日本の大地震 1891（濃尾地震）』1891年刊個人蔵より）3分30秒

## ■原田直次郎展－西洋画は益々奨励すべし Naojiro Harada : Retrospective

- 会期：2016年2月11日（木・祝）～3月27日（日）
- 主催：埼玉県立近代美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会
- 後援：東京ドイツ文化センター
- 協賛：ライオン、清水建設、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜、日本テレビ放送網
- 助成：公益財団法人ポーラ美術振興財団、芸術文化振興基金、公益財団法人三菱UFJ信託地域文化財団
- 協力：日本航空、JR東日本大宮支社、FM NACK 5
- 観覧料：一般1100円（880円）、大高生880円（710円）
- 入場者数：12,595人
- 広報印刷物：ポスターB2、ちらしA4／デザイン：大溝裕（Glanz）
- 担当学芸員：吉岡知子、大越久子



B2 ポスター

### ■開催趣旨

明治時代に活躍した洋画家・原田直次郎（1863-1899）の回顧展。原田直次郎ははじめ高橋由一に西洋絵画を学び、若くしてドイツのミュンヘンに留学、現地の美術アカデミー等でさらなる研鑽を積んだ。ミュンヘンでは森鷗外と交流を深め、鷗外の小説「うたかたの記」のモデルになったことでも知られている。原田は約3年半にわたる充実した留学期間を経て、帰国後は当時の日本画壇を席捲した西洋絵画の排斥運動と真正面から闘い、画塾「鍾美術館」の設立や展覧会出品を通じて、

西洋絵画の普及に努めた。しかし、わずか36歳で病のため死去。残された作品は少ないが、《靴屋の親爺》などにみられる高い技術力は、原田がいかに西洋絵画の本質に迫りえたのかを物語っている。

この展覧会では、原田直次郎の初期から晩年にいたるまでの作品や資料とともに、原田がミュンヘンで交流した画家たちの作品をドイツから借用し、周辺作家も交えて原田の画業をたどった。原田直次郎の回顧展としては、1909年に森鷗外が没後10年を記念して開催した遺作展以来、およそ100年ぶりとなる。

### ■カタログ

規格：25.6×19.1cm、224頁

内容：【テキスト】水沢勉「画業に対峙する。一原田直次郎展開催にあたって」／吉岡知子「原田直次郎 その三十六年をたどる」／宮本久宣編「原田直次郎が語る」／大越久子編「鍾美術館 設置願と廃校届」／橋村直樹「ミュンヘン時代の原田直次郎とギリシア人画家ニコラオス・ギジス」／鍵岡正謹「《騎龍観音》巡り」／三本松倫代「原田直次郎のパースペクティヴー未完の翻訳から見えるもの」／左近充直美「鍾美術館で学んだ塾生達の軌跡—水野正英と久保田米斎を中心に」／【図版】／【年譜】鍵岡正謹・橋村直樹編／【主要参考文献】三本松倫代編／【作品リスト・作品解説】

編著者：吉岡知子、大越久子（埼玉県立近代美術館）、水沢勉、三本松倫代、高嶋雄一郎（神奈川県立近代美術館）、鍵岡正謹、橋村直樹（岡山県立美術館）、左近充直美、川西由里（島根県立石見美術館）、宮本久宣（和歌山県立近代美術館）

発行：青幻舎

編集：森かおる（青幻舎）

デザイン：松田行正＋日向麻梨子（マツダオフィス）

翻訳：山本仁志

価格：2,500円（税別）

### ■関連事業

- ・講演会「原田家の直次郎」／講師：鍵岡正謹（岡山県立美術館顧問）／2月11日（木・祝）／2階講堂／参加者：92名
- ・「原田直次郎よもやま話」／ゲスト：宮本久宣（和歌山県立近代美術館学芸員）／2月21日（日）／2階展示室／参加者：47名
- ・「原田直次郎をめぐる旅—ミュンヘン」／3月12日（土）／2階講堂／吉岡知子／参加者：113名
- ・担当学芸員によるギャラリー・トーク／2月27日（土）、

3月19日(土) / 吉岡知子 / 参加者: 計67名

## ■広報記録

### <新聞>

- ・「原田直次郎の生涯たどる 県立近代美術館100年ぶり回顧展」『読売新聞』埼玉版2016年2月12日
- ・宮川匡司「洋画草創期担った才筆「原田直次郎展」」『日本経済新聞』2016年2月17日
- ・広瀬登「留学時の高い表現力 原田直次郎展 西洋画は益々奨励すべし」『毎日新聞』2016年2月17日
- ・渋谷和彦「西洋画普及に捧げた36年の生涯 原田直次郎100年ぶり回顧展」『産経新聞』2016年2月18日
- ・丸山ひかり「反骨の画家 にじむ近代 原田直次郎100年ぶり回顧展」『朝日新聞』2016年2月24日
- ・井上晋治「鷗外の友 命かけた洋画振興1世紀ぶり原田直次郎展」『読売新聞』2016年2月25日
- ・吉岡知子「原田直次郎」(上:靴屋の親爺/中:風景/下:新島襄像)『読売新聞』埼玉版2016年3月1日、3日、4日
- ・森本智之「西洋画に誇り抱いて 原田直次郎展」『東京新聞』2016年3月11日
- ・木下直之「県立美術館四つ連携107年ぶり「原田直次郎」展」『静岡新聞』2016年3月30日
- ・「美術館連絡協議会特集 海外派遣 企画に厚み」『読売新聞』2016年4月27日
- ・高階秀爾「36歳で逝った若き偉才 原田直次郎 近代洋画史で大きな功績」『毎日新聞』2016年6月8日

### <雑誌・ミニコミ誌等>

- ・「夭折した天才画家・原田直次郎 およそ100年ぶりの回顧展」『芸術新潮』2016年2月号
- ・吉岡知子「100年ぶりの原田直次郎の回顧展」『美術の窓』2016年2月号
- ・「およそ100年ぶり!待望の回顧展が開催」『月刊ギャラリー』2016年2月号
- ・三本松倫代「2016年度企画紹介 原田直次郎展」『美連協ニュース』2016年2月号
- ・(開催4館の担当者が寄稿)「企画展「原田直次郎展—西洋画は益々奨励すべし」100年ぶりの回顧展に寄せて」『ソカロ』2016年2-3月号
- ・吉岡知子「代表作「靴屋の親爺」と原田直次郎の模写・デッサン・人物画」『美術の窓』2016年3月号
- ・石川健次「原田直次郎展—西洋画は益々奨励すべし」『サンデー毎日』2016年3月7日号
- ・坪内祐三「よく見ると宗教的寓意が読み取れる原田直次郎の「風景」」『週刊ポスト』2016年3月14日号

- ・児島薫「原田直次郎、及びその周辺の人物に関する研究について」『美術運動史研究会ニュース』第154号、2016年4月20日
- ・「西洋画の普及をめざして孤軍奮闘した早世の洋画家 原田直次郎」『美術の窓』2016年4月号
- ・山根基世「再発掘。鷗外も支えた日本近代洋画の先駆者」『家庭画報』2016年5月号
- ・「原田直次郎 西洋画に燃やしたもうひとつの青春」『芸術新潮』2016年5月号
- ・大越久子「原田直次郎展の4つの貌」『ソカロ』2016年10-11月号
- ・木下直之「田々展考—2016年の原田直次郎と黒田清輝」『国立新美術館研究紀要』第3号、2016年

### <テレビ>

- ・NHK「新日曜美術館アートシーン」2016年2月28日
- ・テレビ埼玉「テレ玉ニュース930」2016年3月2日

## ■担当後記

- ◆107年ぶりの原田直次郎の回顧展となった本展は、当館を立ち上がりとして、神奈川県立近代美術館、岡山県立美術館、島根県立石見美術館を7か月かけて巡回した。美術館連絡協議会が事務局となり、2013年に第1回開催館会議を開いて以来、3年にわたって定期的に会議を行い、展覧会構成の検討、出品作品の選定等を行った。原田ゆかりの岡山、森鷗外ゆかりの石見、日本近代美術の研究蓄積がある神奈川の各館担当学芸員の方々と協議を重ね、日本各地に点在する原田作品の調査および出品交渉も分担して行った。
- ◆2013年には美術館連絡協議会の海外研修派遣制度、2015年には公益財団法人ポーラ美術振興財団の助成によって、ドイツで現地調査をする機会に恵まれた。原田が通ったミュンヘン美術アカデミーや、原田が深く交流した画家たちの作品の所蔵先を訪ねた。滞在中は、原田に関心を寄せるドイツの研究者の方々からもアドバイスをいただき、充実した調査を行うことができた。また、ミュンヘンを拠点に活躍中の映像作家・宮山麻里枝氏に留学中の原田に関する映像の制作を依頼し、会場で上映した。
- ◆原田直次郎の代表作である《靴屋の親爺》と《騎龍観音》は重要文化財に指定されているため、規定により2会場以上の巡回がかなわなかった。当館では《靴屋の親爺》のみを出品、《騎龍観音》は複製パネルによって紹介した。
- ◆会期中は新聞、テレビ等のメディアによく取り上げ

---

られ、来場者数が予想を大きく上回るなど、注目度の高さがうかがえた。また、本展は美術館連絡協議会の2016年美連協大賞を受賞した。

- ◆関連事業としては、会期初日に、原田にゆかりのある岡山県立美術館で調査を続けられてきた鍵岡正謹氏による講演会を開催した。また2006年に『森鷗外と美術』展を担当し、同展図録で「原田直次郎作品集」をまとめられた宮本久宣氏を会期中にお招きして、担当学芸員と二人でギャラリー・トークを実施した。開催各館でも、会期中に研究者の方々を招いたシンポジウムやレクチャー等が活発に開催された。奇しくも東京国立博物館では同時期に「黒田清輝」展が開かれ、両展によって明治の洋画を多角的に検証する機会となった。



会場風景



会場風景（原田直次郎に関する映像を上映／制作：宮山麻里枝）

## ■出品リスト

- ・作品データは原則として以下の通り：出品番号、作者名、作品名、制作年、技法・素材等、所蔵
- ・作品に見出すことのできない項目は記載していない
- ・\*印の作品は前期展示（2016年2月11日～3月6日）
- ・\*\*印の作品は後期展示（2016年3月8日～3月27日）

No.	作者名	作品名	制作年	技法・素材等	所蔵
<b>第1章 誕生 Beginnings 1863-1883</b>					
1-01	撮影：ルイ・ルソー	《遣欧使節一行原田吾一（一道）肖像写真》〔複写〕	1864年		東京大学史料編纂所蔵
1-02	撮影：アントニオ・ベアト	《スフィンクスの前の遣欧使節一行（第二回遣欧使節団）》〔複写〕	1864年		三宅立雄氏蔵  (画像提供：流通経済大学三宅雪領記念資料館)
1-03	撮影：フリッツ・ルックハルト	《原田豊吉肖像写真》〔複写〕	1883年		松戸市教育委員会蔵
1-04	原田豊吉	『日本群島一地的地質的概観』	1890年	書籍（東京、農務省地質調査所編纂）	東京大学地震研究所蔵
1-05	撮影：内田九一	《原田一道、茂子、直次郎肖像写真》	1874年	鶏卵紙、名刺判写真	個人蔵
1-06	原田直次郎	《原田耕平宛書簡》	1872-78年頃		笠岡市教育委員会蔵
1-07	高橋由一	《江の島図》	1876-77年	油彩、カンヴァス	神奈川県立近代美術館蔵
1-08	高橋（柳）源吉	《門》	1887年	油彩、カンヴァス	浅尾空人氏蔵
1-09	安藤仲太郎	《日本の寺の内部》	1893年	油彩、カンヴァス	神奈川県立近代美術館蔵
1-10	五百城文哉	《袋田の滝》	1892年頃	油彩、カンヴァス	茨城県近代美術館蔵
1-11	長原孝太郎	《自画像》	1900年	油彩、カンヴァス	三重県立美術館蔵
1-12	松岡寿	《ピエトロ・ミカの服装の男》	1881年	油彩、カンヴァス	岡山県立美術館蔵
1-13	松岡寿	《凱旋門》	1882年頃	油彩、カンヴァス	岡山県立美術館蔵
1-14	原田直次郎	《高橋由一像》	1893年	油彩、カンヴァス	東京藝術大学所蔵
1-15	原田直次郎	《ミレー「落穂拾い」模写》	制作年不詳	コンテ、紙	個人蔵
1-16	山岡成章	『小学画学書』翻刻版	1877年/初版:1873年	木版、書籍（東京、文部省文書局）	神奈川県立近代美術館（青木文庫）蔵
1-17	浅井忠、高橋（柳）源吉	『習画帖』第二編第一巻上 器物	1882年	石版、書籍（東京、天絵学舎）	神奈川県立近代美術館（青木文庫）蔵
1-18	浅井忠、高橋（柳）源吉	『習画帖』第二編第三巻上 樹木	1882年	石版、書籍（東京、天絵学舎）	神奈川県立近代美術館（青木文庫）蔵
1-19	柳源吉編	『高橋由一履歴』	1892年	書籍（東京、柳源吉）	神奈川県立近代美術館（青木文庫）蔵
1-20	撮影者不詳	《原田直次郎肖像写真》	1882年7月25日	鶏卵紙、名刺判写真	個人蔵
1-21	撮影者不詳	《原田直次郎友人らと》〔複写〕	1884年2月		出典：『原田先生記念帖』
<b>第2章 留学 Days in Munich 1884-1887</b>					
2-01	原田直次郎	《男性スケッチ》	1884年	鉛筆、紙	個人蔵
2-02		『ミュンヘン美術アカデミー書籍第2巻』〔複写〕	1884年		ミュンヘン美術アカデミー蔵
2-03	撮影：ガオルク・ベッテンドルフアー	《ミュンヘン美術アカデミーと凱旋門》〔複写〕	1899年		ミュンヘン市立文書館蔵
2-04	撮影：ガオルク・ベッテンドルフアー	《カフェ・ミネルヴァ（正面建物の1階）》〔複写〕	1895年頃		ミュンヘン市立文書館蔵
2-05	原田直次郎	《裸体習作》	1884-86年頃	油彩、カンヴァス	個人蔵
2-06	原田直次郎	《神父》	1885年	油彩、カンヴァス	信越放送株式会社蔵
2-07	原田直次郎	《老人像》	1886年頃	油彩、カンヴァス	三重県立美術館蔵
2-08	原田直次郎	《老人》	1886年頃	油彩、カンヴァス	東京藝術大学所蔵
2-09	原田直次郎	《男性像》	1886年	油彩、板	個人蔵
2-11	原田直次郎	《靴屋の親爺》	1886年	油彩、カンヴァス	重要文化財/東京藝術大学所蔵
2-12a	アウグスト・マントリック（画）	《ミュンヘン美術アカデミーのスケッチ》（『ユーバー・ラント・ウント・デア』第51巻第22号）	1883/84年	木口木版、紙	ミュンヘン美術アカデミー蔵
2-13a	マックス・エペルスベルガー（画）	《ミュンヘン美術アカデミー玄関ホールモデル市の》（『イラストリールテ・ツァイトウング』第2525号）	1891年11月21日	木口木版、紙	ミュンヘン美術アカデミー蔵
2-14	テオドル・レックナーグ	《老人像》	1886年	油彩、カンヴァス	ミュンヘン美術アカデミー蔵
2-15	ハンス・フェヒナー	『画家の旅路』	1912年	書籍（ベルリン、F.フォンターネ社）	個人蔵
2-16	ガブリエル・フォン・マックス	《聖女マリア・テレーゼ・モールの死》	1868年	油彩、カンヴァス	島根県立石見美術館蔵
2-17	ガブリエル・フォン・マックス	《煙を出す壺を抱く女性》	制作年不詳	油彩、カンヴァス	島根県立石見美術館蔵
2-18	ガブリエル・フォン・マックス	《猿のいる自画像》	1910年	油彩、カンヴァス	マンハイム、ライス・エンゲルホルン博物館蔵
2-20-1	撮影者不詳	《ガブリエル・フォン・マックスの学術コレクション 動物学・人類学部門/動物学・人類学の部屋》〔複写〕	1892年頃		マンハイム、ライス・エンゲルホルン博物館蔵
2-20-2	撮影者不詳	《ガブリエル・フォン・マックスの学術コレクション 動物学・人類学部門/民族学と人類学の部屋の境に座るマックス》〔複写〕	1892年頃		マンハイム、ライス・エンゲルホルン博物館蔵
2-21	原田直次郎	《ガブリエル・マックス像》	1884-86年頃	油彩、カンヴァス	個人蔵
2-22	撮影者不詳	《ユリウス・エクステル（推定）肖像写真》	1884年7月	鶏卵紙、台紙貼付	個人蔵
2-23	ユリウス・エクステル	《ある日本人の肖像》〔参考図版〕	1884/85年	油彩、カンヴァス	ミュンヘン、バイエルン湖城庭園管理局蔵
2-24	撮影：カール・トイフェル	《ユリウス・エクステルのアトリエ、ミュンヘン》〔複写〕	1889年		マールブルク写真画像資料館蔵
2-25	ユリウス・エクステル	《ダッハウの宮廷庭園の門》	1887年	油彩、カンヴァス	ローゼンハイム市立ギャラリー蔵
2-26	ユリウス・エクステル	《野原の少女》	1889年	油彩、カンヴァス	個人蔵
2-27	ユリウス・エクステル	《肖像（頭部の習作）》	1882/86年	油彩、カンヴァス	東京藝術大学所蔵
2-28	ユリウス・エクステル	《「原田直次郎」署名入り肖像》〔参考図版〕	制作年不詳	油彩、カンヴァス	ミュンヘン、バイエルン湖城庭園管理局蔵
2-29	原田直次郎	《風景》	1886年	油彩、カンヴァス	岡山県立美術館蔵

2-30	撮影:ライヒェルト&リントナー	《原田直次郎肖像写真》〔複写〕	1887年		ミュンヘン、バイエルン湖城庭園管理局蔵
2-31	原田直次郎	《画像帳》	制作年不詳	鉛筆・水彩・インク、紙	石橋財団ブリヂストン美術館蔵
2-34	ツェツィーリエ・グラーフ・プファフ	《見知らぬ女性》	1909年	油彩、カンヴァス	エアランゲン=ニュルンベルク大学図書館蔵
2-35*	ツェツィーリエ・グラーフ・プファフ	《イタリアの風景》	制作年不詳	エッチング、紙	エアランゲン=ニュルンベルク大学図書館蔵
2-36*	ツェツィーリエ・グラーフ・プファフ	《橋のある街》	制作年不詳	エッチング、紙	エアランゲン=ニュルンベルク大学図書館蔵
2-37*	ツェツィーリエ・グラーフ・プファフ	《盲目の物乞い》	1912年	エッチング、紙	エアランゲン=ニュルンベルク大学図書館蔵
2-38**	ツェツィーリエ・グラーフ・プファフ	《ひげの男》	制作年不詳	ドローイング、紙	エアランゲン=ニュルンベルク大学図書館蔵
2-41	森鷗外	『独逸日記』	1948年	書籍（東京、富士出版）	個人蔵
2-42	撮影:ヴェルナー写真館	《ミュンヘンにて》〔複写〕	1886年8月27日		文京区立森鷗外記念館蔵
2-43	撮影者不詳	《ミュンヘンにて 友人らと》〔複写〕	1886年11月推定		出典:『原田先生記念帖』
2-44	近衛篤麿	『蛭雪余聞』	1939年	書籍（京都、陽明文庫）	個人蔵
2-45	撮影:フリッツ・マイケ社 監督・編集:宮山麻里枝	《近衛篤麿肖像写真》 《原田直次郎とユリウス・エクステル 友情のポートレート》	1887年5月17日 2016年	鶏卵紙、名刺判写真 映像資料（上映時間10分40秒）	個人蔵

### 第3章 奮闘 Struggle in Tokyo 1887-1899

3-01	原田直次郎	《男の人》	1887年	油彩、厚紙	石橋財団石橋美術館蔵
3-02*	原田直次郎	《外国の男 [チャールズ・ライエル卿]》	1889年	鉛筆・インク、紙	石橋財団石橋美術館蔵
3-03	原田直次郎 (画)	《裸体骨格 弥爾爾安日各筆》『絵画叢誌』第13巻〔複写〕	1888年4月28日		東京大学法学部附属明治新聞雑誌文庫蔵
3-04	原田直次郎 (画)	《裸体骨格 弥爾爾安日各筆》『絵画叢誌』第13巻〔複写〕	1888年4月28日		東京大学法学部附属明治新聞雑誌文庫蔵
3-05	原田直次郎 (画)	《人物草稿 ラファエル、サンチヨ筆》『絵画叢誌』第16巻〔複写〕	1888年7月28日		東京大学法学部附属明治新聞雑誌文庫蔵
3-06	原田直次郎	《西洋婦人像 (山本芳翠模写)》	制作年不詳	油彩、カンヴァス	岡山県立美術館蔵
3-07	原田直次郎	《島津久光像》	1888年	油彩、カンヴァス	尚古集成館蔵
3-08	原田直次郎	《毛利敬親肖像》	1890年	油彩、カンヴァス	山口県立山口博物館蔵
3-09	原田直次郎	《毛利敬親肖像 (下絵)》	1890年頃	コンテ、紙	山口県立山口博物館蔵
3-11	原田直次郎	《男児像》	制作年不詳	油彩、カンヴァス	島根県立石見美術館蔵
3-12	原田直次郎	《騎龍観音》〔参考図版〕	1890年	油彩、カンヴァス	重要文化財〔護国寺蔵〕
3-13	原田直次郎	《ガブリエル・フォン・マックス宛書簡》〔前期:オリジナル/後期:複写〕	1888年5月11日		ニュルンベルク、ゲルマン国立博物館ドイツ美術文書館蔵
3-14	外山正一	『日本絵画ノ未来』	1890年	書籍（東京、外山正一）	神奈川県立近代美術館（青木文庫）蔵
3-15	原田直次郎	「絵画改良論」『龍池会報告』第31号復刻版	1991年/初版:1887年12月20日	雑誌（復刻版:東京、ゆまに書房）	神奈川県立近代美術館蔵
3-16	張道夫 (原田直次郎、海外遊学 (森鷗外) 同蔵)	「油画漫評」『志がらみ草紙』第2号復刻版	1969年/初版:1889年11月25日	雑誌（復刻版:東京、明治文庫）	文京区立森鷗外記念館蔵
3-17	原田癡唯 (直次郎)	「又鏡舌」『国民新聞』第70号、1面〔複写〕	1890年4月11日	新聞（東京、国民新聞社）	東京大学法学部附属明治新聞雑誌文庫蔵
3-18	香山隠士 (原田直次郎)	「美術につきての一言」『国民新聞』第770号、1面〔複写〕	1892年7月21日	新聞（東京、国民新聞社）	東京大学法学部附属明治新聞雑誌文庫蔵
3-19	香山隠士 (原田直次郎)	「美術につきての一言 (続)」『国民新聞』第772号、1面〔複写〕	1892年7月23日	新聞（東京、国民新聞社）	東京大学法学部附属明治新聞雑誌文庫蔵
3-20	香山隠士 (原田直次郎)	「美術につきての一言 (続)」『国民新聞』第773号、1面〔複写〕	1892年7月24日	新聞（東京、国民新聞社）	東京大学法学部附属明治新聞雑誌文庫蔵
3-21	香山隠士 (原田直次郎)	「日本新聞第千六百六十六号に見えたる西洋美術家と題する論文を讀みて」『国民新聞』第798号、2面〔複写〕	1892年8月23日	新聞（東京、国民新聞社）	東京大学法学部附属明治新聞雑誌文庫蔵
3-22	香山隠士 (原田直次郎)	「朗月齋主人に告ぐ」『国民新聞』第811号、1面〔複写〕	1892年9月7日	新聞（東京、国民新聞社）	東京大学法学部附属明治新聞雑誌文庫蔵
3-23*	原田直次郎	《雪景》	制作年不詳	油彩、板	森鷗外記念館（津和野町）蔵
3-24**	原田直次郎	《蓮池》	制作年不詳	油彩、板	森鷗外記念館（津和野町）蔵
3-25	原田直次郎	《風景》	制作年不詳	油彩、板	東京藝術大学所蔵
3-26	原田直次郎	《村の風景》	制作年不詳	油彩、板	石橋財団石橋美術館蔵
3-27	原田直次郎 (画) / 生巧館 金田清 (刻)	「於母影」挿画『国民之友』第58号附録	1889年8月2日	木口木版、紙（東京、民友社）	島根県立石見美術館蔵
3-28-1a	原田直次郎 (画) / 生巧館 (刻)	『国民之友』第69号表紙	1890年1月3日	木口木版、紙（東京、民友社）	個人蔵
3-28-2b	原田直次郎 (画)	『国民之友』第69号附録挿画	1890年1月3日	木口木版、紙（東京、民友社）	公益財団法人徳富蘇峰記念塩崎財団蔵
3-29	森鷗外	「うたかたの記」『志がらみ草紙』第11号復刻版	1969年/初版:1890年8月25日	雑誌（復刻版:東京、明治文庫）	文京区立森鷗外記念館蔵
3-30-1	原田直次郎 (画)	『新著百種』第12号表紙	1891年1月28日	多色木版、紙（東京、吉岡書齋店）	島根県立石見美術館蔵
3-30-2	原田直次郎 (画)	森鷗外「文づかひ」挿画『新著百種』第12号	1891年1月28日	木版、紙（東京、吉岡書齋店）	島根県立石見美術館蔵
3-31	原田直次郎 (画)	「源三位頼政」口絵『少年園』第62号	1891年5月18日	石版、紙（東京、少年園）	埼玉県立近代美術館蔵
3-32	原田直次郎 (画)	『めざまし草』まきの1表紙	1896年1月31日	多色石版、紙（東京、盛春堂）	杜若文庫蔵
3-33	原田直次郎 (画)	『めざまし草』巻之14表紙	1897年2月25日	多色石版、紙（東京、盛春堂）	個人蔵
3-34	原田直次郎 (画)	『めざまし草』巻之7挿画	1896年7月31日	木版、紙（東京、盛春堂）	個人蔵
3-35	原田直次郎	《新島襄像》	1890年	油彩、カンヴァス	同志社大学同志社史資料センター蔵
3-36**	撮影:伝ゴシフ・ゴシュケヴィッチ	《新島襄肖像写真》	1894年6月〔旧曆〕	アンプロタイプ	同志社大学同志社史資料センター蔵
3-37	原田直次郎	《横井小楠像》	1890年	油彩、カンヴァス	山中湖文学の森 徳富蘇峰館蔵
3-39	原田直次郎	《山崎為徳像》	1892-96年頃	油彩、カンヴァス	同志社大学同志社史資料センター蔵
3-40	原田直次郎	《徳富洪水像》	1893年	油彩、カンヴァス	水俣市立蘇峰記念館蔵
3-41	原田直次郎 (画)	《旗虎図》『国民新聞』第2号附録〔複写〕	1890年2月2日	木版、紙（東京、国民新聞社）	東京大学法学部附属明治新聞雑誌文庫蔵
3-42a*	原田直次郎 (画) / 泰鐘堂 (石印)	《開天巖戸之図》『国民新聞』第270号附録	1890年11月25日	石版、紙（東京、国民新聞社）	郡山市立美術館蔵
3-42b**	原田直次郎 (画) / 泰鐘堂 (石印)	《開天巖戸之図》『国民新聞』第270号附録	1890年11月25日	石版、紙（東京、国民新聞社）	個人蔵
3-43*	原田直次郎 (画) / 泰鐘堂 (石印)	《大江山鬼狩道行之図》『国民新聞』第307号附録	1891年1月1日	石版、紙（東京、国民新聞社）	郡山市立美術館蔵
3-44	原田直次郎	《徳富蘇峰宛書簡》	1890年7月11日付		公益財団法人徳富蘇峰記念塩崎財団蔵
3-45-1	原田直次郎	《徳富蘇峰宛書簡》	1891年8月24日付		公益財団法人徳富蘇峰記念塩崎財団蔵
3-45-2	原田直次郎	《朝比奈草紙を筆談するところ》徳富蘇峰宛書簡添付	1891年8月24日付	墨、紙	公益財団法人徳富蘇峰記念塩崎財団蔵
3-46	原田直次郎	《徳富蘇峰宛書簡》	1892年6月9日付		公益財団法人徳富蘇峰記念塩崎財団蔵
3-47	原田直次郎	《徳富蘇峰宛書簡》	1892年7月18日付		公益財団法人徳富蘇峰記念塩崎財団蔵
3-48	原田直次郎	《徳富蘇峰宛書簡》	1893年7月28日付		公益財団法人徳富蘇峰記念塩崎財団蔵
3-49	原田直次郎	《徳富蘇峰宛書簡》	年不詳7月14日付		公益財団法人徳富蘇峰記念塩崎財団蔵
3-50	原田直次郎	《徳富蘇峰宛書簡》	年不詳12月30日付		公益財団法人徳富蘇峰記念塩崎財団蔵

3-51a	原田直次郎 (画) / 生巧館 (刻)	『国民之友』第 105 号表紙	1891 年 1 月 3 日	木口木版、紙 (東京、民友社)	個人蔵
3-52	原田直次郎 (画) / 生巧館 (刻)	『国民之友』第 173 号表紙	1892 年 11 月 23 日	木口木版、紙 (東京、民友社)	個人蔵
3-53**	原田直次郎 (画) / 生巧館 (刻)	《貴顕御肖像》『大阪朝日新聞』第 3870 号附録	1892 年 1 月 3 日	木口木版、紙 (大阪、大阪朝日新聞社)	島根県立美術館蔵
3-54a*	山本芳翠 (画) / 合田清 (刻)	《高貴之御像 [明治天皇肖像]》『大阪朝日新聞』第 3297 号附録	1890 年 2 月 11 日	木口木版、紙 (大阪、大阪朝日新聞社)	島根県立美術館蔵
3-54b**	山本芳翠 (画) / 合田清 (刻)	《高貴之御像 [明治天皇肖像]》『東京朝日新聞』第 1556 号附録	1890 年 2 月 11 日	木口木版、紙 (東京、東京朝日新聞社)	杜若文庫蔵
3-55*	山本芳翠 (画) / 合田清 (刻)	《徳逸皇帝之肖像 [ヴィルヘルム 1 世]》『毎日新聞』第 5172 号附録清刷り	1888 年 3 月 17 日 掲載	木口木版、紙	杜若文庫蔵
3-56**	合田清 (刻)	《徳逸皇帝フレデリック三世之肖像》『毎日新聞』第 5253 号附録	1888 年 6 月 22 日	木口木版、紙 (東京、毎日新聞社)	郡山市立美術館蔵
3-57**	合田清 (画)	《水戸浪士会愛宕山図》	1889 年 10 月 3 日	石版、紙 (東京、生巧館 合田清)	郡山市立美術館蔵

#### 第 4 章 継承 Succession to Posterity 1888-1910

4-01		『鍾美術館設置願』〔複写〕	1889 年 1 月 25 日		東京都公文書館蔵
4-03	作者不詳	《猿曳図》	1898 年頃	油彩、カンヴァス	岐阜県美術館蔵
4-04	原田直次郎	《伊藤快彦像》	制作年不詳	油彩、ボール紙	京都市美術館蔵
4-05	原田直次郎 (帰属)	《職人の図》	制作年不詳	油彩、カンヴァス	京都市美術館蔵
4-06	伊藤快彦	《原田直次郎「靴屋の親爺」模写》	制作年不詳	油彩、カンヴァス	京都市美術館蔵
4-07	伊藤快彦	《新島襄像》	1891 年	油彩、カンヴァス	同志社大学同志社社史資料センター蔵
4-09	伊藤快彦	《少女像》	1891 年頃	油彩、板	京都市美術館蔵
4-10	伊藤快彦	《鬮體》	1890 年	油彩、カンヴァス	星野画廊蔵
4-11	伊藤快彦	《男山八幡宮》	1898 年	油彩、カンヴァス	星野画廊蔵
4-12	原田直次郎	《上野東照宮》	1889 年	油彩、カンヴァス	岡山県立美術館蔵
4-13	小林萬吾	《芝増上寺》	1892-93 年	油彩、カンヴァス	愛媛県美術館蔵
4-14*	三宅克己	《本郷薬師堂》	1892 年	水彩、紙	神原常経氏蔵
4-15**	三宅克己	《農村風景》	1896 年	水彩、紙	島根県立石見美術館蔵
4-16**	三宅克己	《風景 (仮称)》	1893 年	水彩、紙	徳島県立近代美術館蔵
4-17*	三宅克己	《切り通し》	1894 年	水彩、紙	徳島県立近代美術館蔵
4-18*	三宅克己	《南品川》	1892 年	鉛筆、紙	徳島県立近代美術館蔵
4-19**	三宅克己	《小石川》	1892 年	鉛筆、紙	徳島県立近代美術館蔵
4-20**	三宅克己	《渋谷村天現寺附近の茶店》	1893 年	水彩、紙	郡山市立美術館蔵
4-21	大下藤次郎	《野の道》	1895 年頃	油彩、カンヴァス	島根県立石見美術館蔵
4-22**	大下藤次郎	《つり》	1895 年	水彩、紙	島根県立石見美術館蔵
4-23*	大下藤次郎	《武州向畑》	1897 年	水彩、紙	島根県立石見美術館蔵
4-24**	大下藤次郎	《越ヶ谷の春色》	1897 年	水彩、紙	島根県立石見美術館蔵
4-25*	大下藤次郎	《相州秋谷》	1897 年	水彩、紙	島根県立石見美術館蔵
4-26*	大下藤次郎	《南品川》	制作年不詳	鉛筆、紙	島根県立石見美術館蔵
4-27	真野紀太郎	《萬長次郎像》	1902 年	油彩、カンヴァス	個人蔵 (萬鉄五郎記念美術館寄託)
4-28	和田英作	《母の像》	1893 年	油彩、カンヴァス	和田桂一氏蔵 (鹿児島県歴史資料センター黎明館寄託)
4-29	和田英作	《八幡境内の秋》	1894 年	油彩、カンヴァス	和田桂一氏蔵 (鹿児島県歴史資料センター黎明館寄託)
4-30	櫻井忠剛	《原田直次郎「靴屋の親爺」模写》	制作年不詳	油彩、カンヴァス	尼崎市教育委員会蔵
4-31	櫻井忠剛	《原田直次郎「老人」模写 1》	制作年不詳	油彩、カンヴァス	尼崎市教育委員会蔵
4-32	櫻井忠剛	《原田直次郎「老人」模写 2》	制作年不詳	油彩、板	尼崎市教育委員会蔵
4-33	櫻井忠剛	《原田直次郎「風景」模写》	制作年不詳	油彩、カンヴァス	個人蔵
4-34		『関西美術会第一回展覧会出品目録』	1902 年 1 月	印刷物	個人蔵
4-35-4*	原田直次郎	『遠近法』第三編	制作年不詳	原稿用紙に墨・朱書、挿図貼込み	東京国立博物館蔵
4-35-5*	原田直次郎	『遠近法』第四編	制作年不詳	原稿用紙に墨・朱書、挿図貼込み	東京国立博物館蔵
4-35-6**	原田直次郎	『遠近法』第五編	制作年不詳	原稿用紙に墨・朱書、挿図貼込み	東京国立博物館蔵
4-35-9**	原田直次郎	『遠近法』草稿ノート	制作年不詳	鉛筆・墨、紙 / 冊子	東京国立博物館蔵
4-36b	アルマン・カッサーニユ	『遠近法実践論』	1884 年	書籍 (パリ、G.フロア・エ・フィス社)	個人蔵
4-37	撮影者不詳	《明治 25 年 6 月 23 日の鍾美術館》〔複写〕	1892 年		出典:『原田先生記念帖』
4-38		『鍾美術館廢校屈』〔複写〕	1895 年 1 月 14 日		東京都公文書館蔵
4-39	原田直次郎	《風景 (箱根)》	1892 年	水彩、紙	個人蔵
4-40**	原田直次郎	《風景》	制作年不詳	水彩、紙	石橋財団石橋美術館蔵
4-41	原田直次郎	《風景》	制作年不詳	油彩、カンヴァス	個人蔵
4-42	原田直次郎	《庭》	制作年不詳	油彩、カンヴァス	個人蔵
4-43	原田直次郎	《風景》	制作年不詳	油彩、カンヴァス	個人蔵
4-44	原田直次郎	《黒田清輝宛書簡》	1896 年 1 月 2 日付		東京文化財研究所蔵
4-45		『小宴紀念』(明治美術会通常会員による画帖)	1895 年		岐阜県美術館蔵
4-45-1*	原田直次郎	《風景》	1895 年	水彩、紙	
4-45-7**	松井昇	《晩春》	1895 年	水彩、紙	
4-45-12*	渡部審也	《鹿のいる風景》	1895 年	水彩、紙	
4-45-17**	山本芳翠	《金州 (錦州)》	1895 年	淡彩、絹	
4-45-18*	河久保正名	《海辺風景》	1895 年	水彩、紙	
4-45-20**	小代為重	《静物》	1895 年	水彩、紙	
4-45-21*	岡田三郎助	《積籾》	1895 年	水彩・ペン、紙	
4-45-27**	波々 伯部捨四郎	《伯爵伊藤博文君肖像》	制作年不詳	石版、紙	
4-46	原田直次郎	《素戔鳴尊八岐大蛇退治画稿》	1895 年頃	油彩、カンヴァス	岡山県立美術館蔵
4-47	原田直次郎	《素戔尊蛇》〔複写〕	1895 年 / 1923 年焼失	油彩、カンヴァス	出典:『原田先生記念帖』
4-48	原田直次郎	《花》	1896 年	油彩、カンヴァス	岐阜県美術館寄託
4-49	原田直次郎	《風景》	1897 年	油彩、カンヴァス	東京藝術大学所蔵

4-50	原田直次郎	《安藤信光像》	1898 年	油彩、カンヴァス	東京国立博物館蔵
4-51	撮影者不詳	《原田直次郎アトリエにて》〔複写〕	1887 年以降		出典：『原田先生記念帖』
4-53	有島生馬	《有島信子像》	1913 年	鉛筆、紙	個人蔵
4-54	有島生馬	《原田照子像》	1914 年	油彩、カンヴァス	個人蔵
4-55	木下義謙	《原田直次郎「風景」模写》	1938 年	油彩、カンヴァス	個人蔵
4-56a		『原田先生記念帖』	1910 年 1 月 25 日	書籍（東京、原田直次郎氏記念会/小柴英）	個人蔵

#### 資料コーナー

2-39	マックス・シャスラー	『美学批評史』（原田直次郎、森鷗外旧蔵）〔複写〕	1872 年	書籍（ベルリン、ニコライ書房）	東京大学総合図書館蔵
2-40	ヨゼフ・ユングマン 森鷗外	『美学第 1 巻美学の根本原理』（原田直次郎、森鷗外旧蔵）〔複写〕 『鷗外全集』2、22、25、26、35 卷	1886 年	書籍（フライブルク、ヘルダー書房） 書籍（東京、岩波書店）	東京大学総合図書館蔵 島根県立石見美術館蔵

## ■ MOMAS コレクション

MOMAS コレクション（埼玉県立近代美術館常設展）では、当館のコレクションの中核をなす埼玉ゆかりの美術家と彼らに影響を与えた国内外の優れた作品を、さまざまな角度から紹介している。

年間を4つの会期に分け、各回さらにいくつかのコーナーを設けて、ジャンルやテーマ、作家の小特集、名品選など、さまざまな切り口で多様な作品を紹介できるよう構成している。さらに所蔵作品に加えてテーマに相応しい寄託・借用作品も随時展示して企画性を高めている。

また特集展示枠として、「アーティスト・プロジェクト」（平成15年度～）、「キュレーターの視点」、「ミュージック・フォーラム」、「リサーチ・プログラム」（以上3本は平成16年度～）、「美術館物語」（平成17年度～）をスタートさせ、従来の常設展の枠にとらわれない斬新で企画性に富んだ展示を心がけている。

このような姿勢を明確に提示するため、平成20年度よりこれまでの「常設展」に替わり「MOMAS コレクション」という名称を用いている。

平成27年度は、2ヶ年度に渡る大規模改修工事を終え、全館リニューアル・オープンした。これを機会に、1F展示室Aの前のスロープには、アリスティド・マイヨールのブロンズ彫刻《イル・ド・フランス》を配置し、来館者を迎える展示とした。また1Fギャラリーは、これまでの版画中心の展示に替え、デザイン・チェアを集中的に展示し、たくさんのチェアにより気軽に座れるようにした。展示内容としては、2Fの企画展と連動して大熊家コレクションの日本画を第1期で展示したほか、埼玉新聞創刊70周年記念事業として「未来に遺したい埼玉の風景—塗師祥一郎展」を開催した。企画性の高い展示としては、第2期の「特集：小島喜八郎」、第3期の「辰野登恵子—まだ見ぬかたちを」、第4期の「アーティスト・プロジェクト：島州—世界の変換と再構築」があげられる。また第2期の「さいきんのだまもの」、第3期の「現代の写真—ところをうつす」、第4期の「震える青—難波田龍起の抽象」では、それぞれ近年の寄贈作品をお披露目した。

なお、第1期会期中の5月13日、11月26日には、子育て中のお母さんお父さんを応援するファミリー鑑賞会を開催して好評を博した。

## ■ MOMAS コレクション [ I ]

■ 会期：2015年4月11日（土）～7月12日（日）

■ 主催：埼玉県立近代美術館

■ 協力：JR 東日本大宮支社

■ 入場者数：13,659人

■ 広報印刷物：ポスター B1・B2 / デザイン：マキコージ

■ 担当学芸員：渋谷拓、中村誠、五味良子



B1・B2 ポスター

### ■ 常設展示室

#### 《印象派からピカソまで》

当館の象徴モネ、20世紀最大の画家ピカソの作品など、西洋近代絵画の名品を紹介した。

作者名	作品名	制作年
ウジェーヌ・ドラクロワ	聖ステパノの遺骸を抱え起こす弟子たち	1860
オーギュスト・ロダン	ウスタッシュ・ド・サン=ピエールの頭像	1884-1886 頃
クロード・モネ	ルエルの眺め	1858
クロード・モネ	ジヴェルニーの積みわら、夕日	1888-1889
オーギュスト・ルノワール	三人の浴女	1917-1919
ヤン・トーロップ	生命の守護神	1895
モーリス・ドニ	シヤグマユリの聖母子	1925
ジョルジュ・ルオー	横向きのピエロ	1925 頃
パブロ・ピカソ	静物	1944
モーリス・ユトリロ	旗で飾られたモンマルトルのサクレ=クール寺院	1919
ジュール・バスキン	眠る裸女	1928
レオナール・フジタ	横たわる裸婦と猫	1931
マルク・シャガール	二つの花束	1925
キスリング	リタ・ヴァン・リアの肖像	1927
ジョアン・ミロ	ジャグリングをする道化師	1980
ポール・デルヴォー	森	1948

ロベルト・マッタ	支点の支点『ホメロス四世(支点)』の1)	1983
ロベルト・マッタ	雌影『ホメロス四世(支点)』の2)	1983
ロベルト・マッタ	平和は新しい理想『ホメロス四世(支点)』の3)	1983
ロベルト・マッタ	デカルトのカードを再び見る『ホメロス四世(支点)』の4)	1983
ロベルト・マッタ	妄想を遊ぶ『ホメロス四世(支点)』の5)	1983
ロベルト・マッタ	燃える思いの赤外線『ホメロス四世(支点)』の6)	1983
ロベルト・マッタ	四角い炉『ホメロス四世(支点)』の7)	1983
ロベルト・マッタ	結び目の真実『ホメロス四世(支点)』の8)	1983
ロベルト・マッタ	本質の要素『ホメロス四世(支点)』の9)	1983
ロベルト・マッタ	入口は出口にあり『ホメロス四世(支点)』の10)	1983

## 《未来に遺したい埼玉の風景—塗師祥一郎展》(埼玉新聞創刊70周年記念事業)

芸術院会員の画家が未来に遺したい埼玉の風景をテーマに県内各地で取材、制作した作品を展示した。

作者名	作品名	制作年
塗師祥一郎	陶土	1963
塗師祥一郎	冬の海辺	1969
塗師祥一郎	山村	1997
塗師祥一郎	白原	2005
塗師祥一郎	雪後の武蔵野	2013
塗師祥一郎	雪の荒川河原	2013
塗師祥一郎	雪の名栗川	2013
塗師祥一郎	入間の茶畑	2014
塗師祥一郎	忍城	2014
塗師祥一郎	錦秋の間瀬湖	2014
塗師祥一郎	御成橋とポピー畠	2014
塗師祥一郎	桜咲く権現堂	2014
塗師祥一郎	芝川 河口	2014
塗師祥一郎	初夏の氷川神社	2014
塗師祥一郎	秩父路	2014
塗師祥一郎	春の通船掘	2014
塗師祥一郎	晩秋の古民家	2014
塗師祥一郎	丸墓山古墳と古代蓮	2014
塗師祥一郎	芽吹き狭山湖	2014
塗師祥一郎	草加の松並木	2015
塗師祥一郎	富士見ゆ(入間川)	2015
塗師祥一郎	冬の喜多院	2015
塗師祥一郎	冬の利根河原	2015
塗師祥一郎	煉瓦造の蔵	2015

別企画として、埼玉新聞社、埼玉画廊との共催により開催した展覧会だ。雪景色の名手として知られる塗師祥一郎氏が、「未来に遺したい埼玉の風景」をテーマに、平成25年から足かけ3年にわたって埼玉県内各地を取材して制作した新作20点を展示した。

◆普段の制作では、《越生の梅林》や《権現堂の桜堤》など、観光名所的な景勝地にはほとんど足を向けない同氏も、今回は名所旧跡を含めて県内のさまざまな場所を巡ったという。その場所にふさわしい季節、時間を選び取るために、同じ場所に幾度も足を運ぶことも少なくなかったそうだ。通常の制作ではモチーフをかなり自由に解釈し作画するこの画家も、今回はできるだけ現場に忠実に心掛けたという。画面からは風俗的な要素を排して、風景として記録し永遠化しようとする意志が伝わってくる。

◆得意とする雪の作品もあるが、《春の通船掘》、《初夏の氷川神社》、《御成橋とポピー畑》、《丸墓山古墳と古代蓮》など、春や夏の景色も多い。旧日光街道杉戸宿のひなびた古民家や、渋沢栄一に学問の手ほどきをした尾高惇忠(富岡製糸場初代場長)生家の煉瓦蔵などは、この画家ならではの視点で選ばれたものといえよう。

◆本展にあわせて塗師氏の画業を代表する作品《山村》を久方ぶりの購入作品として取得した。ご寄贈いただいた代表作3点とあわせて本展会場でお披露目公開した。また会期中の4月19日には、塗師祥一郎氏、岡村睦美氏を迎えて、サンデー・トーク・スペシャルも開催された。

◆平成28年9月21日、塗師祥一郎氏が逝去された。埼玉20景にとどまらず、北斎に倣って36景をめざそうかと旺盛な制作意欲を持続していたらのに…。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

(中村 誠)

## 《蒐集家の眼差—大熊家コレクション》

前期：4月11日(土)—5月24日(日)

日本画の優品をそろえる大熊家コレクションより、美しい風景を描いた作品を展示した。

作者名	作品名	制作年
渡辺省亭	水中遊鯉之図	制作年不詳
野村文挙	近江八景 唐崎夜雨	1907頃
菊池芳文	山桜小禽	制作年不詳
寺崎廣業	山家の雪	制作年不詳
中村不折	夏溪 富士の景	1912-1926
川合玉堂	蓬萊曉色図(※「蓬」は点が2つ)	1918
下村観山	巖に鳥	1915-1916頃



「未来に遺したい埼玉の風景—塗師祥一郎展」の展示風景

### ■ 担当後記

◆当館のリニューアルを祝う MOMAS コレクションの特

小室翠雲	梅溪棹月	1920
結城素明	春景山水	1921-1926
木島桜谷	秋山郡禽図	制作年不詳
富田溪仙	糺の森	制作年不詳
川村曼舟	芦ノ湖	制作年不詳
川村曼舟	曲浦春霞	制作年不詳
川村曼舟	春宵	制作年不詳
猪飼嘯谷	養老の滝	制作年不詳
中島多茂都	残秋	制作年不詳
田中案山子	雪旦	1955頃



「蒐集家の眼差—大熊家コレクション」の展示風景

### 《清爽の趣—日本画の名作から》

後期：5月30日（土）—7月12日（日）

初夏にふさわしい爽やかな風情の作品をコレクションからより選って、展示・紹介した。

作者名	作品名	制作年
狩野芳崖	楼閣山水図	1878-86
橋本雅邦	長江晴楼図	1900頃
橋本雅邦	浩月怒涛図	制作年不詳
菱田春草	湖上釣舟	1900
森田恒友	初夏の図	1926
土田麦僊	甜瓜図	1931
速水御舟	夏の丹波路	1915
伊東深水	宵	1931
田中青坪	離宮歴日	1983
川本末雄	浜風	1964
池田憲二	鎌北湖	1974
加藤勝重	響	1986
関根将雄	あじさい	1995頃
細田竹	窓辺	1933

### ■ 1階ギャラリー

作者名	作品名	制作年
須田尅太	作品 G-25	1982
須田尅太	作品 G-59	1982
須田尅太	作品 G-61	1982
須田尅太	作品 G-78	1982
須田尅太	作品 G-23	制作年不詳
須田尅太	作品 G-30	制作年不詳
須田尅太	作品 G-46	制作年不詳
須田尅太	作品 G-53	制作年不詳

須田尅太	作品 G-68	制作年不詳
須田尅太	作品 G-118	制作年不詳
須田尅太	作品 G-125	制作年不詳
須田尅太	作品 G-132	制作年不詳
須田尅太	作品 G-134	制作年不詳
須田尅太	作品 G-135	制作年不詳
須田尅太	作品 G-192	制作年不詳
須田尅太	作品 G-196	制作年不詳
瑛九	オペラグラス	1953
瑛九	光	1954
瑛九	嵐をつげる	1956
瑛九	航海	1956
瑛九	たたかい	1956
瑛九	波のたわむれ（おどり）	1956
瑛九	落書	1956
瑛九	風が吹きはじめる	1957
瑛九	くもり日	1957
瑛九	風景 A	1958
瑛九	作品（1）	制作年不詳
瑛九	作品（14）	制作年不詳
瑛九	作品（21）	制作年不詳
瑛九	作品（27）	制作年不詳
瑛九	作品（31）	制作年不詳
瑛九	作品（50）	制作年不詳
瑛九	作品（54）	制作年不詳
瑛九	作品（61）	制作年不詳
瑛九	作品（62）	制作年不詳
瑛九	作品（77）	制作年不詳
瑛九	作品（78）	制作年不詳

### ■ 広報記録

#### <新聞>

「未来に遺したい埼玉の風景—塗師祥一郎展」『毎日新聞埼玉版』2015年4月3日／「塗師祥一郎展」始まる 県立近代美術館リニューアル記念『埼玉新聞』2015年4月12日／「さきたま抄」（塗師祥一郎展）『埼玉新聞』2015年4月30日／「塗師祥一郎（未来に遺したい埼玉の風景）を中心に」『埼玉新聞』2015年5月2日／「未来に遺したい埼玉の風景—塗師祥一郎展」『朝日新聞』2015年5月20日／「奇をてらわぬ美しさ 未来に遺したい埼玉の風景—塗師祥一郎展」『東京新聞』2015年5月29日／「御成橋とポピー島 未来に遺したい埼玉の風景—塗師祥一郎展」『埼玉新聞』2015年6月8日／「草加の松並木 未来に遺したい埼玉の風景—塗師祥一郎展」『埼玉新聞』2015年6月10日／「煉瓦造の蔵 未来に遺したい埼玉の風景—塗師祥一郎展」『埼玉新聞』2015年6月17日／「雪後の武蔵野 未来に遺したい埼玉の風景—塗師祥一郎展」『埼玉新聞』2015年6月24日／「錦秋の間瀬湖 未来に遺したい埼玉の風景—塗師祥一郎展」『埼玉新聞』2015年7月1日

告知：『読売新聞』2015年5月12日／『毎日新聞』2015年5月26日／『毎日新聞』2015年6月2日／『読

---

売新聞』2015年6月2日／『毎日新聞』2015年6月9日／『読売新聞』2015年6月9日／『毎日新聞』2015年6月16日／『毎日新聞』2015年6月23日／『読売新聞』2015年6月23日／『読売新聞』2015年6月30日／『読売新聞』2015年7月7日

広告（塗師祥一郎展）：『埼玉新聞』2015年4月11日、4月17日、5月17日、5月25日、6月13日

<雑誌・ミニコミ誌等>

「未来に遺したい埼玉の風景—塗師祥一郎展」『新美術新聞』4月1日／「未来に遺したい埼玉の風景—塗師祥一郎展」『美術の窓 6月号』5月20日／「埼玉県立近代美術館 [未来に遺したい埼玉の風景—塗師祥一郎展]」『埼玉往来』6月15日／「塗師祥一郎 [未来に遺したい埼玉の風景] サンデー・トーク・スペシャル取材」『文化展望54』6月30日

## ■ MOMAS コレクション [ II ]

- 会期：2015年7月18日（土）～10月4日（日）
- 主催：埼玉県立近代美術館
- 協力：JR 東日本大宮支社
- 入場者数：13,182人
- 広報印刷物：ポスターB1・B2 / デザイン：マキコージ
- 担当学芸員：鳴原悠、渋谷拓、大浦周、中村誠



B1・B2 ポスター

### ■ 1F 展示室 A

#### 《近代の絵画と彫刻—かたちをうつす》

当館のコレクションを代表する近代の絵画と彫刻を「かたち」の表現に注目しながら紹介した。

作者名	作品名	制作年
オーギュスト・ルノワール	三人の浴女	1917-1919
エミール=アントワヌ・ブールデル	チリーの女	1921
モーリス・ドニ	トレストリニエルの岩場	1920
ジョルジュ・ルオー	横向きのピエロ	1925 頃
シャルル・デスピオ	ピアンキーニ嬢	1929
パウル・クレー	古代風の二重肖像	1933
アンドレ・ドラン	浴女	1925
パブロ・ピカソ	静物	1944
モーリス・ユトリロ	旗で飾られたモンマルトルのサクレ=クール寺院	1919
オーギュスト・ロダン	ウスタッシュ・ド・サン=ピエールの頭像	1884-1886 頃
アリスティド・マイヨール	イル・ド・フランス	1911 頃
アンリ・ド・トゥールーズ=ロートレック	『ラ=ルビュ=ブランシュ』誌ポスター	1895
森田恒友	会津風景	1916
古賀春江	コンポジション	1930 頃
佐伯祐三	門と広告	1925



「近代の絵画と彫刻—かたちをうつす」展示風景

#### 《特集：小島喜八郎》

写実的な表現が目目を奪う小島喜八郎の画業を平成 25 年度寄贈作品を交えて検証した。

作者名	作品名	制作年
小島喜八郎	モノカゲ	1962
小島喜八郎	風景 741	1974
小島喜八郎	草（昼・晴） 同一の草の一日	1987
小島喜八郎	草（昼・曇） 同一の草の一日	1988
小島喜八郎	草（朝） 同一の草の一日	1988
小島喜八郎	草（夕） 同一の草の一日	1988
小島喜八郎	草 夏	1995
小島喜八郎	草 冬	1997
小島喜八郎	9月の庭にて	2005



「特集：小島喜八郎」展示風景

#### ■ 担当後記

◆本コーナーは、飯能市出身・同地で活躍した画家・小島喜八郎（1935—2008）のご遺族から、1990年代の代表作のひとつである《草 夏》《草 冬》を平成 25 年度にご寄贈いただいたことを機会に企画された。当館は、小島の作品を平成 18 年度に生前の作家自身から、また平成 21 年度にご遺族からそれぞれご寄贈を受けていたが、草のシリーズの頂点をなし、スケールの的にも最も大きな《草 夏》《草 冬》が収蔵され

ることによって、小島の画業が収蔵品によって概観できることとなった。

◆小島の作品で一見して観る者の関心を奪うのは、草のシリーズに見られる写真と見まがうような後年の写実的な描写であるが、これを初期の非具象絵画と並べてみると、表現の変化の「理由」に興味をそそられる人も多いに違いない。これを理解する時に鍵となるのが、小島が若くして考え、晩年まで抱き続けた「現実の薄っぺらさ」の感覚である。この「薄っぺらさ」の感覚が、初期の具象的に描かないという選択や、「紙の上」のシリーズのような自己言及的な表現、後年の複数のカンヴァスによる光と時間の移り行きの表現を生み出しているのだが、この感覚とは、言いかえてみれば「世界（と自己）は不安定である」という確信のことではなかっただろうか。筆触を隠さないことによる絵画の自己言及性と、風に揺れ動く草花というモチーフによる作品《9月の庭にて》は、「世界の不安定さ」を表現するという課題に対する、小島なりの美しい回答なのだと思います。繁茂する草が大スケールでリアルに描かれた作品は、夏休みの子供も多い夏季の展示に相応しく、来館者に楽しんでもらえたように思う。

◆今回の展示では、ご遺族らの全面的なご協力を得て、作家が表に出さなかった写真資料などをお借りして、小島の制作プロセスに迫る展示とすることができた。《草 冬》の制作ペースやトリミングの様子が判明したこと、くしゃくしゃにした紙袋の上に描かれた「紙の上のシリーズ」の下描きの存在などは特に興味深いものだった。生前のままに維持されている作家のアトリエには調査と資料の借用で何度も訪れたが、ご遺族の皆さんが実に快く迎え入れてくださったことや、作家に対する変わらぬ愛情が感じられたことが大変感慨深かった。貴重な証言をはじめとして、さまざまにご協力をいただきましたご遺族の皆様、この場を借りて深く感謝申し上げます。

(渋谷 拓)

### 《さいきんのたまもの》

近年の寄贈・寄託により新たにコレクションに加わった作品を、既収蔵の作品を交えて紹介した。

作者名	作品名	制作年
堂本尚郎	臨界一水	1991
堂本尚郎	連鎖反応一水	1991
エドレ・ソットサス/立石大河亞 (タイガー立石)	祝祭としての惑星：室内楽を聴くための筏	1972
エドレ・ソットサス/立石大河亞 (タイガー立石)	祝祭としての惑星：ワルツ、タンゴ、ロック、チャチャの音楽を提示する巨大な自動販売機	1972

エドレ・ソットサス/立石大河亞 (タイガー立石)	祝祭としての惑星：星を見るためのスタジアム	1972
エドレ・ソットサス/立石大河亞 (タイガー立石)	祝祭としての惑星：蚤、ISD、マリファナ、阿片、笑気ガスの自動販売機	1972
エドレ・ソットサス/立石大河亞 (タイガー立石)	祝祭としての惑星：巨大コンサートを開くためのスタジアム	1972
エドレ・ソットサス/立石大河亞 (タイガー立石)	祝祭としての惑星：妄想にふけるための屋上	1972
エドレ・ソットサス/立石大河亞 (タイガー立石)	インドの想い出：ぶどうの入ったフルーツ・ボール	1972
エドレ・ソットサス/立石大河亞 (タイガー立石)	インドの想い出：ティー・ポット	1972
エドレ・ソットサス/立石大河亞 (タイガー立石)	インドの想い出：ティー・ポット	1972
立石大河亞 (タイガー立石)	ポスター『タイガー立石アレクサンドル・イオラス画展』の下絵	1972
立石大河亞 (タイガー立石)	ポスター『タイガー立石アレクサンドル・イオラス画展』	1972
立石大河亞 (タイガー立石)	Cubic Worlds	1973
立石大河亞 (タイガー立石)	Planets Blossom	1973
立石大河亞 (タイガー立石)	The Organic Whole	1974
立石大河亞 (タイガー立石)	Moon's Satisfaction	1974
立石大河亞 (タイガー立石)	無題	1974
立石大河亞 (タイガー立石)	ポスター『カウル・バルビエリ&ジョルジオ・マリアネリ建築事務所』の下絵	1975
立石大河亞 (タイガー立石)	ポスター『カウル・バルビエリ&ジョルジオ・マリアネリ建築事務所』	1975
立石大河亞 (タイガー立石)	Moon's Satisfaction	1979
立石大河亞 (タイガー立石)	Peacock Moon	1979
立石大河亞 (タイガー立石)	アレクサンドロ・メンディーニ著『家事の風景』の挿画の下絵 (食器デザイン：カルロ・アレッシィ)	1979
立石大河亞 (タイガー立石)	Moon grows to the moon	1981
立石大河亞 (タイガー立石)	アレッシィ社のTシャツの下絵 (アッキーレ・カスティリオーニ「調味料ワゴン」)	1981
立石大河亞 (タイガー立石)	アレッシィ社のTシャツの下絵 (リチャルト・ザッパー「スパゲッティ用フォーク」)	1981
原田宏	太鼓ラップ隊	2012
福田美蘭	湖畔	1993
福田美蘭	黄金の雨に变身したジュビターを迎えるダナエ	1994
資料展示		
雑誌『ピアンエータ・フレスコ/Pianeta Fresco』No. 2-3		1968
図録『TIGER TATEISHI』アレクサンドル・イオラス画廊刊		1972
雑誌『カサベラ/Casabella』No. 365 (1972年5月)		1972
雑誌『カサベラ/Casabella』No. 406 (1975年10月)		1975
アレクサンドロ・メンディーニ編『家事の風景/PAESAGGIO CASALINGO』ドムス社刊		1979
雑誌『モード/MODO』No. 39 (1981年5月)		1981
アレッシィ社企業広告Tシャツ (ブルー・ムナリー「調味料容器」)		1981
アレッシィ社企業広告Tシャツ (アッキーレ・カスティリオーニ「調味料ワゴン」)		1981
『Ettore Sottsass: Architect and Designer』メレル社刊		2006

### 《高田誠の世界一旅のスケッチを中心に》

詩情に満ちた点描の作品で知られる高田誠の世界。旅のスケッチと油彩画を比較しながらその造形思考を探った。

高田誠	野沢温泉	1955
高田誠	野沢温泉	1955
高田誠	村の入口	1955
高田誠	武甲山雪景 秩父巴川	1958
高田誠	雪の武甲山	1959
高田誠	両神山の見える集落 小鹿野	1964
高田誠	残雪の武甲山	1984 頃
高田誠	白馬ハイランドホテルより	1979
高田誠	つゆの晴れ間	1980 頃
高田誠	(白馬ハイランドホテルより)	1980
高田誠	(白馬ハイランドホテルより)	1980
高田誠	白馬村 巖平にて	1981
高田誠	白馬村 巖平にて	1981
高田誠	武甲山 秩父巴川にて	1984
高田誠	両神山の見える部落	1964 頃

---

---

## ■ 1階ギャラリー

作者名	作品名	制作年
高田誠	(妙高山)	制作年不詳
高田誠	妙高温泉 妙高山の麓	1961
高田誠	妙高温泉	1961
高田誠	妙高温泉第一ホテル窓より	1967
高田誠	太海	1968
高田誠	太海	1967
高田誠	太海	1967
高田誠	太海	1964
高田誠	太海	1968
高田誠	太海	1968

## ■ 広報記録

### <新聞>

- ・告知：『毎日新聞』2015年9月8日／『毎日新聞』  
2015年9月15日／『毎日新聞』2015年9月22日

### <テレビ、ラジオ>

- ・飯能日高テレビ「MOMAS コレクションで小島喜八郎氏  
の特集」2014年8月16日
- ・テレビ埼玉「県立近代美術館 MOMAS コレクション」『テ  
レ玉ニュース』9月26日

### <雑誌・ミニコミ誌等>

- ・「高田誠の世界一旅のスケッチを中心に」『新美術新聞』  
2015年8月21日

## ■ MOMAS コレクション [ III ]

■会期：2015年10月10日（土）～2016年1月17日（日）

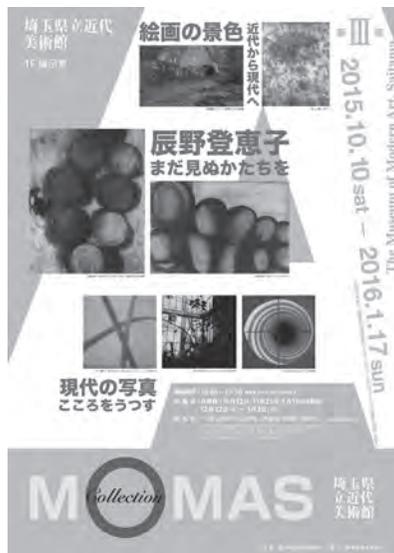
■主催：埼玉県立近代美術館

■協力：JR 東日本大宮支社

■入場者数：7,325人

■広報印刷物：ポスター B1・B2 / デザイン：マキコージ、  
「辰野登恵子—まだ見ぬかたちを」 ハガキ長型3号 / デザイン：大石一義

■担当学芸員：嶋原悠、大浦周、梅津元



B1・B2 ポスター

### ■常設展示室

#### 《絵画の景色—近代から現代へ》

風景表現の魅力と色彩表現の可能性を探りながら、近代の絵画を中心に紹介した。

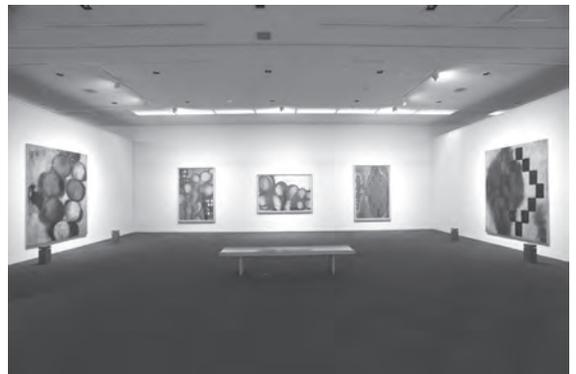
作者名	作品名	制作年
斎藤豊作	フランス風景Ⅱ	1910
武内鶴之助	アラシの夕	1912
倉田白羊	房州風景	1918
跡見泰	石川島	1930
斎藤与里	暁の金剛山	1938
田中保	湖岸の雪	1917-1920
瑛九	雲	1959
渡邊武夫	プロヴァンの散歩道	1996
野見山暁治	冷たい夏	1991
奥山民枝	漣	1992
古川勝紀	微風の中へ—国道 254—Ⅱ	1998

#### 《辰野登恵子—まだ見ぬかたちを》

象徴的な形を色彩豊かに描き、独自の絵画空間を追求した辰野登恵子の世界を、借用作品も加えた特集展示

で紹介した。

作者名	作品名	制作年
辰野登恵子	WORK 76-D-5 ※特別出品（個人蔵）	1976
辰野登恵子	UNTITLED N-79 ※特別出品（個人蔵）	1979
辰野登恵子	UNTITLED T-79 ※特別出品（個人蔵）	1979
辰野登恵子	WORK 80-N-1 ※特別出品（個人蔵）	1980
辰野登恵子	WORK 80-N-2 ※特別出品（個人蔵）	1980
辰野登恵子	MAY-7-91	1991
辰野登恵子	MAY-21-91	1991
辰野登恵子	MAY-25-91	1991
辰野登恵子	UNTITLED 92-7 ※特別出品（練馬区立美術館蔵）	1992
辰野登恵子	UNTITLED 92-8 ※特別出品（練馬区立美術館蔵）	1992
辰野登恵子	Aug.-Oct. '92 I	1992
辰野登恵子	Aug.-Oct. '92 II	1992
辰野登恵子	Aug.-Oct. '92 III	1992
辰野登恵子	Aug.-Oct. '92 IV	1992
辰野登恵子	Aug.-Oct. '92 V	1992
辰野登恵子	Aug.-Oct. '92 VI	1992
辰野登恵子	Nov-23-1993	1993



「辰野登恵子—まだ見ぬかたちを」の展示風景

### ■担当後記

◆辰野登恵子（1950 - 2014）は東京藝術大学の油画専攻に学び、70年代にグリッドやストライプをモチーフにしたシルクスクリーン作品で注目を集めた。間もなく油彩画に回帰すると、80年代以降、豊かな色彩で有機的形象を描く独自の表現を追求し、抽象絵画の新たな可能性を示し高い評価を獲得してきた。本コーナーでは、特別出品の借用作品を加えた特集展示で辰野の画業を紹介した。

◆この展示のねらいは、モチーフが共通する油彩と版画を並置することで、丸や菱形などの特徴的な「かたち」の反復により、豊潤で複雑な空間性を立ち上

げようとした画家の試みの一端を繙くことにあった。油彩では、長辺が2メートルを超えるカンヴァスに飽くことなく重ねられた細い筆のタッチが濃密な画面を生み出しているのに対し、後に続く版画では油彩のエッセンスのみが抽出され、観る者にシンプルでおおらかな印象を与える。しかし、版画もまた、その技法特有の方法で、一筋縄ではいかない複雑な空間性を孕んだ画面に仕上げられていることも、注意深く目を向ければ明らかになる。展示を通して、油彩と版画という異なるアプローチを往還することで、より深まり展開していった辰野登恵子の作品世界を堪能いただけたことと思う。

◆美術や芸術のあり方に厳しい目が向けられ、その仕組みが根底から問い直された時代にキャリアをスタートさせ、もはや絵画の時代ではないという考えが主流であった中でなお絵画を描くことを選んだ辰野は、80年前後を境にグリッドやストライプといったミニマルなイメージから、ストレートに「絵を描く」ことに回帰した。今回、その過渡期にあたる時代に制作された未発表のシルクスクリーン作品をご遺族からお借りして展示することができた。塗り重ね削ぎ落とし、さらに塗り重ねるといふ手わざの痕跡を感じさせる領域と、それまでの無機的なストライプがせめぎ合う作品群が、辰野の新たな作品理解の一助となれば幸いである。

(大浦 周)

### 《現代の写真—ところをうつす》

新収蔵の市川美幸、杉山晶子、安田千絵の写真作品を、心象風景をキーワードで紹介した。

市川美幸	「空のすみか／在る・あいだ」シリーズより	1997
市川美幸	「テレ・シップ・スコープ」シリーズより	1999



「現代の写真—ところをうつす」の展示風景

### ■広報記録

#### <新聞>

- ・「奥深い抽象表現の世界 辰野登恵子さん没後1年」  
『読売新聞』2015年12月21日

#### <雑誌、ミニコミ誌等>

- ・告知：『武州路』2015年9月20日
- ・告知：『武州路』2015年10月20日

#### <テレビ、ラジオ>

- ・テレビ埼玉 2015年10月12日

作者名	作品名	制作年
杉山晶子	Colour of Circumstances 96- I	1995-96
杉山晶子	In-spiral II	1998
安田千絵	into a vortex; Untitled	1994
安田千絵	into a vortex; Untitled	1996
安田千絵	into a vortex; Untitled	1996
安田千絵	into a vortex; Untitled	1996
安田千絵	into a vortex; Untitled	1996
安田千絵	into a vortex; Untitled	1996
安田千絵	into a vortex; Untitled	1996
安田千絵	into a vortex; Untitled	1996
安田千絵	into a vortex; Untitled	1998
安田千絵	into a vortex; Untitled	1998
安田千絵	into a vortex; Untitled	1998
安田千絵	into a vortex; Untitled	1998
安田千絵	into a vortex; Untitled	1999
安田千絵	into a vortex; Untitled	1999
市川美幸	「空のすみか／在る・あいだ」シリーズより	1997
市川美幸	「空のすみか／在る・あいだ」シリーズより	1997

## ■ MOMAS コレクション [IV]

■会期：2016年1月23日（土）～4月10日（日）

■主催：埼玉県立近代美術館

■協力：JR 東日本大宮支社

■入場者数：10,259人

■広報印刷物：ポスター B1・B2 / デザイン：マキコージ

■担当学芸員：嶋原悠、中村誠、平野到、大浦周



B1 ポスター

B2 ポスター

### ■常設展示室

#### 《鈍色の輝き—日本の近代洋画》

和田英作、岸田劉生から埼玉ゆかりの画家まで、明治時代以降の洋画家たちの試みをたどった。

作者名	作品名	制作年
倉田弟次郎	南埼玉出羽村神明下	1893
和田英作	鈴木勝五郎肖像	1908
和田英作	鈴木やす肖像	1908
斎藤豊作	雨後の夕	1919
熊谷守一	裸	1943
倉田白羊	母の像	1896頃
森田恒友	午睡する看護婦	1907
斎藤与里	雪の日の天王寺公園	1925
田中保	黒いドレスの腰かけている女	1920-1930
奥瀬英三	自画像	1916
岸田劉生	路傍初夏	1920
古賀春江	コンポジション	1930頃
林俊衛	積藁	1935
佐伯祐三	門と広告	1925
山路真護	バリの環状高架線	1933
瑛丸	出発	1949

#### 《アーティスト・プロジェクト：島州一 世界の交換と再構築》

浅間山に自らを投影した近作《Tracing-Shirt》等を中心に、美術の概念をゆさぶり拡張してきた島州一の世界を紹介した。

作者名	作品名	制作年
島州一	ジーンズ	1975
島州一	※特別出品（栃木県立美術館）	
島州一	カーテン	1975
島州一	※特別出品（栃木県立美術館）	
島州一	アナログとデジタルの変換	1987
島州一	影の襦包 1—椅子	1991
島州一	※特別出品（作家蔵）	
島州一	影の襦包 2—丸椅子	1991
島州一	※特別出品（作家蔵）	
島州一	影の襦包 3—吊るされた服	1991
島州一	※特別出品（作家蔵）	
島州一	影の襦包 4—仰向けに倒された椅子	1992
島州一	※特別出品（作家蔵）	
島州一	影の襦包 5—うつ伏せの椅子	1992
島州一	※特別出品（作家蔵）	
島州一	影の襦包 6—横倒しの椅子	1992
島州一	※特別出品（作家蔵）	
島州一	ASAMA いろは歌シリーズ（47点組）	2012
島州一	※特別出品（双ギャラリー）	
島州一	Tracing-Shirt149	2012
島州一	※特別出品（作家蔵）	
島州一	Tracing-Shirt164	2013
島州一	※特別出品（作家蔵）	
島州一	Tracing-Shirt165	2013
島州一	※特別出品（作家蔵）	
島州一	Tracing-Shirt193	2015
島州一	※特別出品（作家蔵）	
島州一	Tracing-Shirt194	2015
島州一	※特別出品（作家蔵）	
島州一	Tracing-Shirt195	2015
島州一	※特別出品（作家蔵）	
島州一	Tracing-Shirt199	2015
島州一	※特別出品（作家蔵）	
島州一	Tracing-Shirt200	2015
島州一	※特別出品（作家蔵）	
島州一	Tracing-Shirt203	2015
島州一	※特別出品（作家蔵）	
島州一	Tracing-Shirt204	2015
島州一	※特別出品（作家蔵）	
島州一	言語の誕生 276 添景	2003 / 2015
島州一	※特別出品（作家蔵）	
島州一	言語の誕生 308 添景	2003 / 2015
島州一	※特別出品（作家蔵）	
島州一	言語の誕生 336 添景	2004 / 2015
島州一	※特別出品（作家蔵）	
島州一	言語の誕生 343 添景	2005 / 2015
島州一	※特別出品（作家蔵）	
島州一	言語の誕生 353 添景	2005 / 2015
島州一	※特別出品（作家蔵）	
島州一	言語の誕生 354 添景	2005 / 2015
島州一	※特別出品（作家蔵）	
島州一	言語の誕生 356 添景	2005 / 2015
島州一	※特別出品（作家蔵）	
島州一	言語の誕生 364 添景	2006 / 2015
島州一	※特別出品（作家蔵）	



「アーティスト・プロジェクト：島州― 世界の変換と再構築」展示風景

## ■担当後記

◆自らのシャツを丹念に「トレース」し水彩で着色した《Tracing-Shirt》の連作を中心に、《ASAMA いろは歌》や独自の油彩画《言語の誕生》などの近作をまじえて、長野県小諸への転居後、20年余の主要作品を紹介した。あわせて「版」の概念を拡張する1970年代の作品や80年代の《Finger Print》、2次元と3次元を往還する《アナログとデジタルの変換》、90年代初めの《影の梱包》シリーズも展示し、「版」の概念の拡張から出発し、「もどきレーション」から「トレース」へという作者の一貫した造形思考の展開を概観できる展示構成とした。

◆《Tracing-Shirt》シリーズは、すでに10年近く続いている島州一氏のライフワークのひとつだ。ひと月に1～2点のペースで暦をめくるように制作されるこの連作も、自然の猛威を見せつけられた2011年の大震災や作者が体感したさまざまな季節・歳月を経てたえず変化し、展開してきた。近作にしばしば深紅の色彩が現れるのは、血のイメージの反映だという。

◆独自の水彩画に加えて絵画の発生を《言語の誕生》になぞらえた油彩画の制作も続けられてきた。パースペクティブにではなく、平板に並ぶ色や形によって画面全体が埋め尽くされていく自作の手法を、作者は思いつくままに並列して言葉が放り出されていくラップの形式になぞらえている。今回は椅子のアイコンを「添景」として加えた油彩画が展示された。

◆《ASAMA いろは歌》47点の連作も今回一堂に展示した。展覧会にあわせSMF出版第2弾として特製のアートポスター（A1判）も刊行・販売した。また開幕初日には、島州一氏と双ギャラリーの塚本豊子氏を迎えてスペシャルトークを開催した。なお本展は、文化庁の助成を受けた「平成27年度あなたと どこで

も アート／着がわりプロジェクト」の一環として実施した。

(中村 誠)

## 《椅子の美術館のイス》

歴史的な名脚から個性的なデザインまで、バラエティに富んだ椅子のコレクションを紹介した。

作者名	作品名	制作年
パブロ・ピカソ	静物	1944
駒井哲郎	室内	1970
アントニ・タビエス	椅子と脚	1984
アントニ・タビエス	大きな椅子	1984
アントニ・タビエス	横向きの椅子	1984
草間彌生	Mashroom Stool	2005
ゴトウ・シュウ	スブラッシング・オブジェ (イス)	制作年不詳
屋並哲男	かたち—arm-chair— I	1985
河内成幸	ただ意味のないアリアバイ (I)	1975
河内成幸	調和の不公平	1975
ヴィリー・ヴァイナー	知られざる玉座	1995

### 椅子

榎原 (ゾグラー・トネットはなびチン)	ロッキング・チェア	デザイン・製品化 1880 / 1890頃
チャールズ・レニー・マックントッシュ	アーガイル/アーガイル・ストリートのティーン・ルームのためのハイバック・チェア	デザイン：1897 / 製品化：1973
チャールズ・レニー・マックントッシュ	ヒルハウス1/ヒルハウスのベッド・ルームのためのハイバック・チェア	デザイン：1903 / 製品化：1973
ヘリット・トマス・リットフェルト	レッド・アンド・ブルー	デザイン・製品化：1918
アルヴァ・アールト	パイミオ/アームチェア 41	デザイン：1930-31 / 製品化：1932
ヴェルナー・カステリオーニ	ブリマーテ	デザイン・製品化：1970
ヴェルナー・バントン	バントンチェア	デザイン：1959-60 / 製品化：1968
倉俣史朗	ミス・ブランチ	1988
オリヴィエ・ムルグ	ジン	製品化：1964
ガエターノ・ペジエ	ドンナ/UP5, UP6	デザイン：1969 / 製品化：1970
梅田正徳	月苑	デザイン：1969 / 製品化：1990
喜多俊之	ウインク	デザイン：1976 / 製品化：1980



「椅子の美術館のイス」展示風景

## 《震える青》

戦後日本の抽象絵画を牽引した画業の一端を、ドリッピング（垂らし）技法を用いた1960年代の油彩画を中心に紹介した。

作者名	作品名	制作年
難波田龍起	ファンタジー	1962
難波田龍起	形象	1966
難波田龍起	コンポジション	1966
難波田龍起	白夢	1969
難波田龍起	水のある街	1969
難波田龍起	明るい街	1969
難波田龍起	コンポジション	1972
難波田龍起	コンポジション	1978
難波田龍起	郊外の家々	1978

## ■1階ギャラリー

作者名	作品名	制作年
「アーティスト・プロジェクト：島州一 世界の変換と再構築」関連展示		
島州一	フィンガー・プリント	1984
島州一	CFP43	1982-1986

## ■広報記録

### <新聞>

- ・「MOMAS コレクションIV」『埼玉新聞』2016年1月20日
- ・告知：『読売新聞』2016年3月15日／『読売新聞』2016年3月22日／『読売新聞』2016年3月29日

### <雑誌、ミニコミ誌>

- ・告知：『武州路』2016年2月20日

## ■サンデー・トーク

毎月1回、原則日曜日の15時から常設展示室で開催しているプログラム。学芸員が開催中の「MOMAS コレクション」から1点を選び、作者と作品についてのエピソードを交えながら30分程度のトークを行うもの。平成27年度は、以下のように計12回実施した。参加者：計323名。

- 4月19日「サンデー・トーク・スペシャル  
塗師祥一郎『未来に遺したい埼玉の風景』  
ゲスト：塗師祥一郎、岡村睦美  
担当学芸員：中村誠／参加者：105名。
- 5月17日 富田溪仙《糾の森》  
担当学芸員：大越久子／参加者：18名。
- 6月14日 ウジェーヌ・ドラクロワ  
《聖ステパノの遺骸を抱え起こす弟子たち》  
担当学芸員：渋谷拓／参加者：11名。
- 7月19日 福田美蘭《湖畔》  
担当学芸員：大浦周／参加者：28名。
- 8月2日 小島喜八郎《草 夏》  
担当学芸員：渋谷拓／参加者：36名。
- 9月13日 モーリス・ドニ《トレストリニエルの岩場》  
担当学芸員：嶋原悠／参加者：11名。
- 10月25日 辰野登恵子《MAY-21-91》  
担当学芸員：大浦周／参加者：29名。
- 11月22日 斎藤豊作《フランス風景Ⅱ》  
担当学芸員：嶋原悠／参加者：11名。
- 12月20日 杉山晶子《In-Spiral Ⅱ》  
担当学芸員：梅津元／参加者：12名。
- 1月23日「スペシャル・トーク  
島州一《世界の変換と再構築》  
ゲスト：島州一、塚本豊子  
担当学芸員：中村誠／参加者：28名。  
※作家都合により例外的に土曜開催とした。
- 2月28日 森田恒友《午睡する看護婦》  
担当学芸員：嶋原悠／参加者：12名。
- 3月20日 難波田龍起《形象》  
担当学芸員：大浦周／参加者：22名。

## ■収集事業

平成13年度以降、厳しい財政状況により年次の作品購入ができない状況が続いていたが、平成27年度は県美術家協会会長・日本芸術院会員である塗師祥一郎の油彩画を1点購入することができた。また、下表のように10件52点の寄贈ならびに2件12点の作品の寄託により、当館のコレクションがよりいっそう充実することとなった。寄贈者および関係者のみなさまに、心から感謝申し上げたい。

主な寄贈作品としては、日本画では、本県在住で日本美術院を中心に活躍する大野逸男の大作や、森田恒友の作品の寄贈がなされた。油彩画等では、県内在住の篤志家より MOMAS コレクションで開催した「未来に遺したい埼玉の風景—塗師祥一郎展」の出品作20点や、秩父で活動した斎藤政一の作品が寄贈された。また、ニューヨークを拠点に活動した古川吉重の作品4点が寄贈され、既収蔵品と併せた活用や検証が期待できる。過去に当館で企画展を開催した清水晃や吉野辰海の作品は、展覧会の成果が収集に結び付いた大変意義のある寄贈となった。

そのほか、橋本真之の鍛金作品、斎藤三郎の油彩画、互井開一のドローイング、タイガー立石（立石大河亜）の資料が収蔵された。また、本県在住の写真家、佐藤時啓の作品は、ワークショップでも活用されている。

寄託作品としては、辰野登恵子やヨーゼフ・ボイスをはじめとする海外作家の版画作品が新たに加わることとなった。今後、MOMAS コレクション等で順次ご紹介し活用していきたい。（敬称略）

## ■平成27年度収集作品数と収蔵作品総数

平成28年3月31日現在

区分	平成27年度収集点数			収蔵作品総数
	購 入	寄 贈	保管転換	
日本画	0	3	0	449
油彩画ほか	1	25	1	634
ドローイング	0	15	1	616
版画	0	0	0	1040
写真	0	0	0	204
平面その他	0	3	0	16
彫刻	0	4	0	191
立体その他	0	1	0	11
工芸	0	0	0	49
書	0	0	0	31
資料Ⅰ	0	1	0	135
資料Ⅱ	0	0	0	31
合計	1	52	2	3,407

## ■新収蔵作品一覧

1

大野逸男 1941 (昭和16) -

ONO Itsuo

川への道

Road to the River

平成8年 彩色、紙

1996 Color on paper

170.0 × 215.0cm

左下に署名「逸男」、朱文方印

平成27年度寄贈

J-447



2

森田恒友 1881 (明治14) - 1933 (昭和8)

MORIRA Tsunetomo

山村の麦刈

Cutting Wheat at a Mountain Village

大正9年頃 彩色、絹、軸

c. 1920 Color on silk, hanging scroll

129.0 × 31.0 cm

左下に署名「恒友」、朱文方印

平成27年度寄贈

J-448



3

森田恒友 1881 (明治14) - 1933 (昭和8)

MORIRA Tsunetomo

初夏の水辺

Waterside in Early Summer

制作年不詳 彩色、紙、軸

Date unknown Color on paper, hanging scroll

138.0 × 36.0cm

右下に署名「恒友」、朱文方印

平成27年度寄贈

J-449



4

塗師祥一郎 1932 (昭和8) - 2016 (平成28)

NUSHI Shoichiro

山村

Mountain Village

平成9年 油彩、カンヴァス

1997 Oil on canvas

162.0 × 194.0 cm

右下に署名「197 Shoichiro Nushi」

平成27年度購入

O-608



5

斎藤三郎 1917 (大正6) - 1996 (平成8)

SAITO Saburo

秋の華

Autumn Flower

昭和42年 油彩、カンヴァス

1967 Oil on canvas

90.6 × 60.0cm

右下に署名「saburo」

平成27年度保管転換

O-609



6

斎藤政一 1925 (大正 14) - 2014 (平成 26)

SAITO Masaichi

雪の鉱山

Snowy Mine

昭和 48 年 油彩、カンヴァス

1973 Oil on canvas

162.0 × 130.3cm

右下に署名「m. saito '73」

平成 27 年度斎藤深雪氏寄贈

O-610



7

塗師祥一郎 1932 (昭和 7) - 2016 (平成 28)

NUSHI Shoichiro

芝川 河口

The Mouth of the Shiba River

平成 26 年 油彩、カンヴァス

2014 Oil on canvas

60.6 × 72.7 cm

右下に署名「Shoichiro Nushi」

平成 27 年度セントラルグループ 代表取締役 田中徳兵衛氏寄贈

O-611



8

塗師祥一郎 1932 (昭和 7) - 2016 (平成 28)

NUSHI Shoichiro

草加の松並木

Row of Pine Trees in Soka

平成 27 年 油彩、カンヴァス

2015 Oil on canvas

60.6 × 72.7 cm

左下に署名「Shoichiro Nushi」

平成 27 年度セントラルグループ 代表取締役 田中徳兵衛氏寄贈

O-612



9

塗師祥一郎 1932 (昭和 7) - 2016 (平成 28)

NUSHI Shoichiro

春の通船堀

Minuma-Tsusenbori in Spring

平成 26 年 油彩、カンヴァス

2014 Oil on canvas

60.6 × 72.7 cm

右下に署名「Shoichiro Nushi」

平成 27 年度セントラルグループ 代表取締役 田中徳兵衛氏寄贈

O-613



10

塗師祥一郎 1932 (昭和 7) - 2016 (平成 28)

NUSHI Shoichiro

初夏の氷川神社

Hikawa Shrine in Early Summer

平成 26 年 油彩、カンヴァス

2014 Oil on canvas

60.6 × 72.7 cm

左下に署名「Shoichiro Nushi」

平成 27 年度セントラルグループ 代表取締役 田中徳兵衛氏寄贈

O-614



11

塗師祥一郎 1932 (昭和7) - 2016 (平成28)

NUSHI Shoichiro

冬の喜多院

Kitain Temple in Winter

平成27年 油彩、カンヴァス

2015 Oil on canvas

60.6 × 72.7 cm

右下に署名「Shoichiro Nushi」

平成27年度セントラルグループ 代表取締役 田中徳兵衛氏寄贈

0-615



12

塗師祥一郎 1932 (昭和7) - 2016 (平成28)

NUSHI Shoichiro

入間の茶畑

Tea Field in Iruma

平成26年 油彩、カンヴァス

2014 Oil on canvas

50.0 × 72.7 cm

右下に署名「Shoichiro Nushi」

平成27年度セントラルグループ 代表取締役 田中徳兵衛氏寄贈

0-616



13

塗師祥一郎 1932 (昭和7) - 2016 (平成28)

NUSHI Shoichiro

雪の名栗川

Snow Scene of the Naguri River

平成25年 油彩、カンヴァス

2013 Oil on canvas

72.7 × 50.0 cm

左下に署名「Shoichiro Nushi」

平成27年度セントラルグループ 代表取締役 田中徳兵衛氏寄贈

0-617



14

塗師祥一郎 1932 (昭和7) - 2016 (平成28)

NUSHI Shoichiro

芽吹き狭山湖

Lake Sayama When Tree Buds Swell

平成26年 油彩、カンヴァス

2014 Oil on canvas

60.6 × 72.7 cm

左下に署名「Shoichiro Nushi」

平成27年度セントラルグループ 代表取締役 田中徳兵衛氏寄贈

0-618



15

塗師祥一郎 1932 (昭和7) - 2016 (平成28)

NUSHI Shoichiro

雪の荒川河原

Snow Scene of the Arakawa River Beach

平成25年 油彩、カンヴァス

2013 Oil on canvas

60.6 × 72.7 cm

左下に署名「Shoichiro Nushi」

平成27年度セントラルグループ 代表取締役 田中徳兵衛氏寄贈

0-619



16

塗師祥一郎 1932 (昭和7) - 2016 (平成28)

NUSHI Shoichiro

御成橋とポピー畠

Onari Bridge and Poppy Field

平成26年 油彩、カンヴァス

2014 Oil on canvas

60.6 × 72.7 cm

左下に署名「Shoichiro Nushi」

平成27年度セントラルグループ 代表取締役 田中徳兵衛氏寄贈

O-620



17

塗師祥一郎 1932 (昭和7) - 2016 (平成28)

NUSHI Shoichiro

晩秋の古民家

Old Private House in Autumn

平成26年 油彩、カンヴァス

2014 Oil on canvas

60.6 × 72.7 cm

左下に署名「Shoichiro Nushi」

平成27年度セントラルグループ 代表取締役 田中徳兵衛氏寄贈

O-621



18

塗師祥一郎 1932 (昭和7) - 2016 (平成28)

NUSHI Shoichiro

桜咲く権現堂

Cherry-Blossoms of Gongendo Bank

平成26年 油彩、カンヴァス

2014 Oil on canvas

60.6 × 72.7 cm

左下に署名「Shoichiro Nushi」

平成27年度セントラルグループ 代表取締役 田中徳兵衛氏寄贈

O-622



19

塗師祥一郎 1932 (昭和7) - 2016 (平成28)

NUSHI Shoichiro

丸墓山古墳と古代蓮

The Maruhakayama Ancient Burial Mound and the Ancient Lotus Flowers

平成26年 油彩、カンヴァス

2014 Oil on canvas

60.6 × 72.7 cm

左下に署名「Shoichiro Nushi」

平成27年度セントラルグループ 代表取締役 田中徳兵衛氏寄贈

O-623



20

塗師祥一郎 1932 (昭和7) - 2016 (平成28)

NUSHI Shoichiro

忍城

Oshi Castle

平成26年 油彩、カンヴァス

2014 Oil on canvas

60.6 × 72.7 cm

右下に署名「Shoichiro Nushi」

平成27年度セントラルグループ 代表取締役 田中徳兵衛氏寄贈

O-624



21

塗師祥一郎 1932 (昭和7) - 2016 (平成28)

NUSHI Shoichiro

煉瓦造の蔵

Old Warehouse Built of Bricks

平成27年 油彩、カンヴァス

2015 Oil on canvas

60.6 × 72.7 cm

左下に署名「Shoichiro Nushi」

平成27年度セントラルグループ 代表取締役 田中徳兵衛氏寄贈  
O-625



22

塗師祥一郎 1932 (昭和7) - 2016 (平成28)

NUSHI Shoichiro

冬の利根河原

The Tone River Beach in Winter

平成27年 油彩、カンヴァス

2015 Oil on canvas

60.6 × 72.7 cm

左下に署名「Shoichiro Nushi」

平成27年度セントラルグループ 代表取締役 田中徳兵衛氏寄贈  
O-626



23

塗師祥一郎 1932 (昭和7) - 2016 (平成28)

NUSHI Shoichiro

錦秋の間瀬湖

Autumn-tinted Lake Maze

平成26年 油彩、カンヴァス

2014 Oil on canvas

60.6 × 72.7 cm

左下に署名「Shoichiro Nushi」

平成27年度セントラルグループ 代表取締役 田中徳兵衛氏寄贈  
O-627



24

塗師祥一郎 1932 (昭和7) - 2016 (平成28)

NUSHI Shoichiro

秩父路

Passage in Chichibu

平成26年 油彩、カンヴァス

2014 Oil on canvas

72.7 × 60.6 cm

左下に署名「Shoichiro Nushi」

平成27年度セントラルグループ 代表取締役 田中徳兵衛氏寄贈  
O-628



25

塗師祥一郎 1932 (昭和7) - 2016 (平成28)

NUSHI Shoichiro

富士見ゆ (入間川)

Distant View of Mt. Fuji; The Iruma River

平成27年 油彩、カンヴァス

2015 Oil on canvas

60.6 × 72.7 cm

右下に署名「Shoichiro Nushi」

平成27年度セントラルグループ 代表取締役 田中徳兵衛氏寄贈  
O-629



26

塗師祥一郎 1932 (昭和7) - 2016 (平成28)

NUSHI Shoichiro

雪後の武蔵野

The Musashi Plain after Snow

平成25年 油彩、カンヴァス

2013 Oil on canvas

60.6 × 72.7 cm

左下に署名「Shoichiro Nushi」

平成27年度セントラルグループ 代表取締役 田中徳兵衛氏寄贈

O-630



27

古川吉重 1921 (大正10) - 2008 (平成20)

FURUKAWA Yoshishige

空白

Blank

昭和38年 油彩、カンヴァス

1963 Oil on canvas

131.0 × 163.0 cm

画面左下に署名、年記「Y. FURU. '63」

平成27年度真島明子氏寄贈

O-631



28

古川吉重 1921 (大正10) - 2008 (平成20)

FURUKAWA Yoshishige

FIELD-12

昭和45年頃 アクリル絵具、カンヴァス

c. 1970 Acrylic on canvas

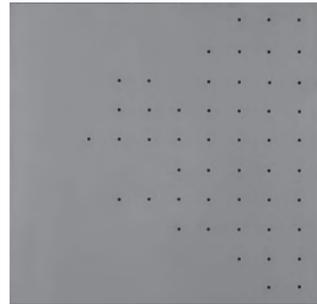
126.0 × 127.0 cm

カンヴァス裏面に署名「FURUKAWA」、

背面に貼付の段ボールにタイトル、サイン

平成27年度真島明子氏寄贈

O-632



29

古川吉重 1921 (大正10) - 2008 (平成20)

FURUKAWA Yoshishige

L8-4

平成2年 油彩、カンヴァス

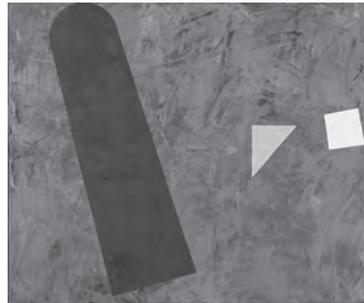
1990 Oil on canvas

178.0 × 208.0 cm

カンヴァス裏面にタイトル、年記、署名「L8-4 1990 FURUKAWA」

平成27年度真島明子氏寄贈

O-633



30

古川吉重 1921 (大正10) - 2008 (平成20)

FURUKAWA Yoshishige

L20-3 ホワイトイエロー

L20-3 White Yellow

平成18年 油彩、カンヴァス

2006 Oil on canvas

178.0 × 210.0 cm

カンヴァス裏面にタイトル、年記、署名「L20-3 ホワイトイエロー 2006 古川吉重」

平成27年度真島明子氏寄贈

O-634



31

清水晃 1936 (昭和11) -

SHIMIZU Akira

漆黒から

From the Darkness

平成2年 フロッターージュ、コンテ、トレーシングペーパーなど

1990 Frottage, conté, and other materials on tracing paper

84.0 × 59.5cm

右下に署名、年記「'90 Akira Shimizu 1」

平成27年度寄贈

D-601



32

清水晃 1936 (昭和11) -

SHIMIZU Akira

漆黒から

From the Darkness

平成2年 フロッターージュ、コンテ、トレーシングペーパーなど

1990 Frottage, conté, and other materials on tracing paper

84.0 × 59.5cm

右下に署名、年記「'90 Akira Shimizu 2」

平成27年度寄贈

D-602



33

清水晃 1936 (昭和11) -

SHIMIZU Akira

漆黒から

From the Darkness

平成2年 フロッターージュ、コンテ、トレーシングペーパーなど

1990 Frottage, conté, and other materials on tracing paper

84.0 × 59.5cm

右下に署名、年記「'90 Akira Shimizu 5」

平成27年度寄贈

D-603



34

清水晃 1936 (昭和11) -

SHIMIZU Akira

漆黒から

From the Darkness

平成2年 フロッターージュ、コンテ、ラッカー、トレーシングペーパーなど

1990 Frottage, conté, lacquer, and other materials on tracing paper

59.5 × 84.0cm

右下に署名、年記「'90 Akira Shimizu 7」

平成27年度寄贈

D-604



35

清水晃 1936 (昭和11) -

SHIMIZU Akira

漆黒から

From the Darkness

平成2年 フロッターージュ、コンテ、ラッカー、トレーシングペーパーなど

1990 Frottage, conté, lacquer, and other materials on tracing paper

59.5 × 84.0cm

右下に署名、年記「'90 Akira Shimizu 7」

平成27年度寄贈

D-605



36

清水晃 1936 (昭和 11) -

SHIMIZU Akira

漆黒から

From the Darkness

平成 2 年 フロッタージュ、コンテ、トレーシングペーパーなど

1990 Frottage, conté, and other materials on tracing paper

59.5 × 84.0cm

右下に署名、年記「'90 Akira Shimizu 3」

平成 27 年度寄贈

D-606



37

清水晃 1936 (昭和 11) -

SHIMIZU Akira

漆黒から

From the Darkness

平成 2 年 フロッタージュ、コンテ、ラッカー、トレーシングペーパーなど

1990 Frottage, conté, lacquer, and other materials on tracing paper

59.5 × 84.0cm

右下に署名、年記「'90 Akira Shimizu 2」

平成 27 年度寄贈

D-607



38

清水晃 1936 (昭和 11) -

SHIMIZU Akira

漆黒から

From the Darkness

平成 2 年 フロッタージュ、コンテ、トレーシングペーパーなど

1990 Frottage, conté, and other materials on tracing paper

84.0 × 59.5cm

右下に署名、年記「'90 Akira S 4」

平成 27 年度寄贈

D-608



39

清水晃 1936 (昭和 11) -

SHIMIZU Akira

漆黒から

From the Darkness

平成 2 年 フロッタージュ、コンテ、トレーシングペーパーなど

1990 Frottage, conté, and other materials on tracing paper

84.0 × 59.5cm

右下に署名、年記「'90 Akira Shimizu 5」

平成 27 年度寄贈

D-609



40

清水晃 1936 (昭和 11) -

SHIMIZU Akira

漆黒から

From the Darkness

平成 2 年 フロッタージュ、コンテ、ラッカー、トレーシングペーパーなど

1990 Frottage, conté, lacquer, and other materials on tracing paper

59.5 × 84.0cm

右下に署名、年記「'90 Akira Shimizu 5」

平成 27 年度寄贈

D-610



41

清水晃 1936 (昭和11) —  
SHIMIZU Akira

漆黒から

From the Darkness

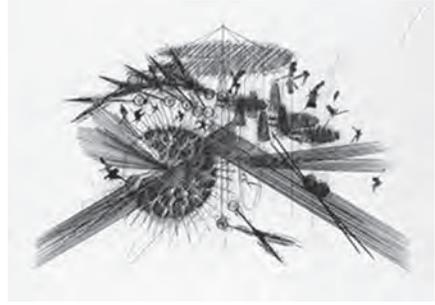
平成2年 フロッタージュ、コンテ、ラッカー、トレーシングペーパーなど  
1990 Frottage, conté, lacquer, and other materials on tracing paper

59.5 × 84.0cm

右下に署名、年記「'90 Akira Shimizu 5」

平成27年度寄贈

D-611



42

清水晃 1936 (昭和11) —  
SHIMIZU Akira

漆黒から

From the Darkness

平成2年 フロッタージュ、コンテ、ラッカー、トレーシングペーパーなど  
1990 Frottage, conté, lacquer, and other materials on tracing paper

59.5 × 84.0cm

右下に署名、年記「'90 Akira Shimizu 1」

平成27年度寄贈

D-612



43

清水晃 1936 (昭和11) —  
SHIMIZU Akira

漆黒から

From the Darkness

平成2年 フロッタージュ、コンテ、ラッカー、トレーシングペーパーなど  
1990 Frottage, conté, lacquer, and other materials on tracing paper

59.5 × 84.0cm

右下に署名、年記「'90 Akira Shimizu 3」

平成27年度寄贈

D-613



44

清水晃 1936 (昭和11) —  
SHIMIZU Akira

漆黒から

From the Darkness

平成4年 フロッタージュ、コンテ、ラッカー、トレーシングペーパーなど  
1992 Frottage, conté, lacquer, and other materials on tracing paper

59.5 × 84.0cm

右下に署名、年記「'92 Akira Shimizu 2」

平成27年度寄贈

D-614



45

清水晃 1936 (昭和11) —  
SHIMIZU Akira

漆黒から

From the Darkness

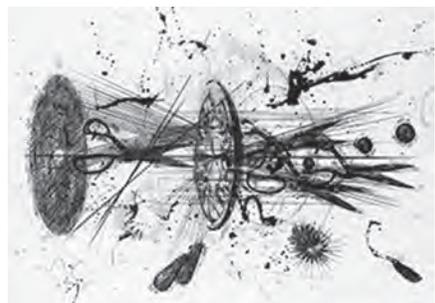
平成4年 フロッタージュ、コンテ、ラッカー、トレーシングペーパーなど  
1992 Frottage, conté, lacquer, and other materials on tracing paper

59.5 × 84.0cm

右下に署名、年記「'92 Akira Shimizu 3」

平成27年度寄贈

D-615



46

互井開一 1904(明治37) - 1967(昭和42)

TAGAI Kaichi

風景

Landscape

昭和20年代 水彩、紙

1945-1954 Watercolor on paper

21.5 × 51.0cm

右下に署名、「K. TAGAI」、額裏にラベル

平成27年度保管転換

D-616



47

清水晃 1936(昭和11) -

SHIMIZU Akira

焰・理髪店

Flame, Barbershop

昭和44年 焦げ跡、トレーシングペーパー

1969 Singe on tracing paper

83.3 × 60.8cm

右下に署名、年記「'69 Akira Shimizu」

平成27年度寄贈

B-14



48

清水晃 1936(昭和11) -

SHIMIZU Akira

焰・ホテル

Flame, Hotel

昭和44年 焦げ跡、トレーシングペーパー

1969 Singe on tracing paper

87.5 × 62.2cm

右下に署名、年記「'69 Akira Shimizu」

平成27年度寄贈

B-15



49

清水晃 1936(昭和11) -

SHIMIZU Akira

焰・胸

Flame, Chest

昭和45年 焦げ跡、トレーシングペーパー

1970 Singe on tracing paper

86.2 × 59.5cm

右下に署名、年記「'70 Akira Shimizu」

平成27年度寄贈

B-16



50

清水晃 1936(昭和11) -

SHIMIZU Akira

漆黒から

From the Darkness

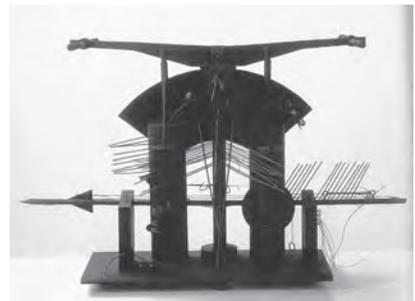
昭和58年 木、竹ひご、鈴、黒のラッカーほか

1983 Wood, bamboo stick, bell, black lacquer, and other materials

55.0 × 95.0 × 70.0cm

平成27年度寄贈

S-188



51

清水晃 1936 (昭和 11) -

SHIMIZU Akira

漆黒から

From the Darkness

平成 2 年 木、竹ひご、漁火の電球、釣針、黒のラッカーほか  
1990 Wood, bamboo stick, electric bulb for fishing, fishhook,  
black lacquer, and other materials

197.0 × 37.0 × 48.0cm

平成 27 年度寄贈

S-189



52

橋本真之 1947 (昭和 22) -

HASHIMOTO Masayuki

作品 115 運動膜 (内的な水辺)

Work 115 Membrane in Movement (Internal Waterside)

昭和 53-58 年 鍛金、銅

1978-83 Copper, forging

170.0 × 115.0 × 145.0cm

平成 27 年度株式会社ガロ 代表取締役 桑原繁氏寄贈

S-190



53

吉野辰海 1940 (昭和 15) -

YOSHINO Tatsumi

双頭犬

Twin Heads Dog

昭和 62 年 F.R.P.、ワックス

1987 F.R.P., wax

147.0 × 45.0 × 45.0cm

平成 27 年度東邦画廊寄贈

S-191



54

佐藤時啓 1957 (昭和 32) -

SATO Tokihiro

リキシャカメラ

Rickshaw Camera

平成 11 年 リキシャ (自転車式)、暗幕、レンズ、ホワイトボード

1999 Rickshaw, curtain, lens, whiteboard

211.0 × 111.0 × 235.0cm

平成 27 年度寄贈

T-11



55

立石大河亞 (タイガー立石) 1941 (昭和 16) - 1998 (平成 10)

TATEISHI Tiger

カレンダー『ダルミネ社 1977 年』の装画の下絵

Studies for the Illustrations of Calendar "Darminé, 1977"

昭和 51 年 色鉛筆、鉛筆、ペン、水彩、紙 (一部、画面に貼り付け)

1976 Color pencil, pencil, pen, watercolor on paper

2 点組 各 32.7 × 24.0cm

平成 27 年度立石富美子氏寄贈

RI-135



## ■美術資料貸出等一覧

### ■美術作品の館外貸出

館外貸出点数：13件（展覧会） 20点（点数）

作者名	作品名	展覧会名	会場	会期
林俊衛	西洋婦人	爆発するただ一瞬があればいいー林俊衛展	東御市梅野記念絵画館	4/11-6/28
林俊衛	K氏肖像	爆発するただ一瞬があればいいー林俊衛展	東御市梅野記念絵画館	4/11-6/28
林俊衛	積藁	爆発するただ一瞬があればいいー林俊衛展	東御市梅野記念絵画館	4/11-6/28
林俊衛	別所沼風景	爆発するただ一瞬があればいいー林俊衛展	東御市梅野記念絵画館	4/11-6/28
アルマン	レンチ	アメリカン・ポップ・アート展～アンディ・ウォーホルからリキエンスタインまで～	福井市美術館	5/30-7/12
			佐世保市博物館島瀬美術センター	7/17-8/31
澄川喜一	そりのあるかたち	澄川喜一シンプル・イズ・ビューティフル	島根県立石見美術館	7/11-8/31
キスリング	赤いテーブルの上の果実	アート・オブ・ライフー生きることの美学	群馬県立近代美術館	7/11-8/30
今野忠一	山湖浅春	生誕100年今野忠一展	天童市美術館	9/18-10/18
クロード・モネ	ジヴェルニーの積みわら、夕日	日本が愛した印象派ーモネからルノワールまでー	ドイツ連邦共和国美術展示館	10/18-2/21
ウジェーヌ・ブーダン	ノルマンディーの風景	丸沼芸術の森所蔵品によるフランス美術の魅力	朝霞市博物館	10/10-11/23
クロード・モネ	ルエルの眺め	丸沼芸術の森所蔵品によるフランス美術の魅力	朝霞市博物館	10/10-11/23
伊東深水	宵	伊東深水展一時を見つめた美人画家ー	名都美術館	10/16-12/13
橋本雅邦	長江晴楼図	橋本雅邦と幻の四天王ー西郷孤月、横山大観、下村観山、菱田春草ー	松本市美術館	10/31-11/29
橋本雅邦	花鳥図	橋本雅邦と幻の四天王ー西郷孤月、横山大観、下村観山、菱田春草ー	松本市美術館	10/31-11/29
今村紫紅	龍虎	宗達ー創造の波	アーサー・M・サックラー美術館	10/24-1/31
斎藤豊作	雨後の夕	伝説の洋画家たち二科100年展	石橋美術館	11/7-12/27
斎藤豊作	雪後の夕	伝説の洋画家たち二科100年展	石橋美術館	11/7-12/27
森田恒友	城址	伝説の洋画家たち二科100年展	石橋美術館	11/7-12/27
田中青坪	離宮歴史	田中青坪 永遠のモダンボーイ	アーツ前橋	3/19-5/17
カミュー・ピサロ	エラニーの牛を追う娘	生誕150年黒田清輝ー日本近代絵画の巨匠	東京国立博物館	3/23-5/15

### ■特別利用

写真原板貸出：21件 54点

作品熟覧：0件

作品撮影：2件 5点

作品模写：0件

### ◆収蔵作品の紹介

作家名	作品名	発行元等	媒体	
ジャコモ・マンズー	榎機卿	株式会社 ユニフォトプレスインターナショナル	『高等学校美術家教科書 新高校美術1』	1
山口敏男	赤松	深谷市	『広報ふかや』2015年6月号	1
山口敏男	雪景色がみえる室内	深谷市	同上	1
ポール・デルヴォー	森	株式会社 大月書店	『クレスコ』2015年8月号	1
クロード・モネ	ルエルの眺め ※寄託作品	株式会社 彩流社	『美術っておもしろい モネ』	1
横山大観	日本心神	株式会社 クオリアート	『日本藝術の創跡 Vol.20』	1
小茂田青樹	麦踏	株式会社 ネクサス	『開運！なんでも鑑定団』番組内VTR	1
小村雪岱	資料（肖像写真）	株式会社 NEXTEP	「宮崎美子のすずらん本屋堂」番組内VTR	1
ミース・ファン・デル・ローエ	バルセロナ・チェア	静岡市立登呂博物館	『登呂のいす展』図録、展示用パネル、広報印刷物	1
ミース・ファン・デル・ローエ	バルセロナ・スツール	静岡市立登呂博物館	同上	1
柳宗理	バタフライ・スツール	静岡市立登呂博物館	同上	1
小村雪岱	おせん	阿部出版株式会社	『小村雪岱作品集』新装版	1
木村直道	シンバルを叩く男（バックミラー楽団）	株式会社 浜島書店	『感じる 表す 美術資料』	1
クロード・モネ	ジヴェルニーの積みわら、夕日	光村図書出版株式会社	平成28年度版中学校用美術教科書 学習指導書『美術』1年付録鑑賞掛図	1
小茂田青樹	秋叢	鈴木木工所	商品開発	1
井上有一	夢	株式会社 平凡社	『別冊太陽 井上有一ー書の破壊と創造』	1
クロード・モネ	ジヴェルニーの積みわら、夕日	NHK エデュケーション	「日曜美術館 モネ名作10選」番組内VTR	1
小村雪岱	おせん	株式会社 ハースト婦人画報社	『美しいキモノ冬号』第254号	1
小村雪岱	武者絵貼り交ぜ屏風	個人	修士論文	2
小村雪岱	見立寒山拾得	個人	修士論文	1
小村雪岱	こおろぎ	個人	修士論文	1
小村雪岱	鳥辺山	個人	修士論文	1
小村雪岱	菊	個人	修士論文	1
小村雪岱	青柳	個人	修士論文	1

小村雪岱	落葉	個人	修士論文	1
小村雪岱	紅梅図帯	個人	修士論文	1
小村雪岱	源氏物語 葵の巻（舞台装置原画）	個人	修士論文	1
小村雪岱	鶴寿千歳（舞台装置原画）	個人	修士論文	1
小村雪岱	一本刀土俵入り（舞台装置原画）	個人	修士論文	1
木村直道	シンバルを叩く男（バックミラー楽団）	名古屋大学出版会	『接触造形論』	1
岸田劉生	路傍初夏	埼玉県	埼玉県特定非営利活動促進基金協力証	1
森田恒友	会津風景	埼玉県	埼玉県特定非営利活動促進基金協力証	1
小村雪岱	河岸	株式会社 さきたま出版会	『埼玉きもの散歩』	1
小村雪岱	雪の朝	株式会社 新潮社	『小村雪岱を知っていますか？』	1
小村雪岱	青柳	株式会社 新潮社	『小村雪岱を知っていますか？』	1
小村雪岱	落葉	株式会社 新潮社	『小村雪岱を知っていますか？』	1
小村雪岱	見立寒山拾得	株式会社 新潮社	『小村雪岱を知っていますか？』	1
小村雪岱	春告鳥 ※寄託作品	株式会社 新潮社	『小村雪岱を知っていますか？』	1
小村雪岱	お傳地獄挿絵原画（刺青）	株式会社 新潮社	『小村雪岱を知っていますか？』	1
小村雪岱	一本刀土俵入り（舞台装置原画）	株式会社 新潮社	『小村雪岱を知っていますか？』	1
小村雪岱	月夜の三馬（挿絵原画）	株式会社 新潮社	『小村雪岱を知っていますか？』	1
小村雪岱	西郷隆盛（挿絵原画） 第86回	株式会社 新潮社	『小村雪岱を知っていますか？』	1
小村雪岱	資料（『おせん』第31回紙面）	株式会社 新潮社	『小村雪岱を知っていますか？』	1
小村雪岱	資料（『西郷隆盛』紙面）	株式会社 新潮社	『小村雪岱を知っていますか？』	1
小村雪岱	資料（『西郷隆盛』紙面）	株式会社 新潮社	『小村雪岱を知っていますか？』	1
小村雪岱	資料（『鉄火江戸侍』第3回挿絵）※寄託資料	株式会社 新潮社	『小村雪岱を知っていますか？』	1
小村雪岱	資料（『渦心』紙面）※寄託資料	株式会社 新潮社	『小村雪岱を知っていますか？』	1
小村雪岱	十三歳の頼朝（舞台装置原画）	株式会社 新潮社	『小村雪岱を知っていますか？』	1
小村雪岱	雪兎	株式会社 新潮社	『小村雪岱を知っていますか？』	1
小村雪岱	菊	株式会社 新潮社	『小村雪岱を知っていますか？』	1
小村雪岱	資料（『おせん』宣伝ポスター）	株式会社 新潮社	『小村雪岱を知っていますか？』	1
小村雪岱	青柳	株式会社 山川出版社	『会いたかった画家』	1
小村雪岱	お傳地獄挿絵原画（刺青）	株式会社 山川出版社	『会いたかった画家』	1

#### ◆作品撮影

作家名	作品名	申請者		
黒川紀章	中銀カプセルタワービル・住宅カプセル	株式会社 青月社	『中銀カプセルタワービル 銀座の白い箱舟』	4
柳宗理	バタフライ・スツール	静岡市立登呂博物館	『登呂のいす展』図録、展示用パネル、広報印刷物	1

## ■教育・普及事業

### ■美術館講座

#### ■近・現代建築探検ツアー

##### ■開催趣旨

鑑賞の対象を建築領域にまで広げ、建築家と作品をよりよく知ろうとする講座である。建築鑑賞の面白さは、現地を実際に訪れ、その場所を知り、建物を見て、その機能を確認しながら建物の内部に入って、空間を体感することにある。この講座では、現地に建築を訪ね、作家のコンセプトを中心にその表現や方法を探ることとしている。

##### ■県内版（小川町）

2015年7月4日（土）

見学：吉田家住宅（重要文化財）／小川町和紙体験学習センター／今屋紙店／武蔵鶴酒蔵／伊藤家（設計：田中達次郎）／割烹旅館 福助／二葉楼（登録有形文化財）  
講師：伊豆井秀一（地域美産研究会副代表） 参加者28名。

##### ■担当後記

◆平成26年にユネスコの世界無形文化遺産に登録された細川和紙の産地として注目を浴びている小川町。物資の集散地として繁栄し、和紙や酒造といった地場産業も盛んだったことから、武蔵の小京都と称えられる賑わいをみせた歴史をもつ。今回は小川町商工観光課の協力を得て、イベントスペースとして活用されている享保年間の民家から、昭和モダンのたたずまいが残る和紙産業推進の拠点施設、明治・大正・昭和の屋敷が棟を連ねる実業家の邸宅などを巡った。あいにくの雨もよいであったが、講師に加え、郷土史家の新田さんや文化財に詳しい町役場の保田さんによるいねいな解説や、それぞれの建物を守り伝えている訪問先の方々のお話に耳を傾けながら、往時の風情をとどめる街並みをそぞろ歩いた。

◆個人では見学できない場所を訪問できるのが本ツアーの醍醐味のひとつだが、小川町出身の建築家・田中達次郎が設計した贅を凝らした邸宅の内部を拝見できたことは大きな喜びであった。またアンケートには、歴史と建造物のつながりがよく理解できた、小川町の魅力を発見することができたという声が多い一方、建造物を継承・整備・活用していくことや

地域資源のアピールの難しさなど、目前の課題に言及する意見も少なからずみられた。（大越久子）



今屋紙店

##### ■都内版（武蔵野エリア）

2016年3月15日（土）

見学：武蔵野美術大学美術館・図書館（図書館スタッフによる案内）／武蔵野プレイス（講師によるレクチャー）

講師：比嘉武彦（建築家/kwhg アーキテクト）参加者21名

##### ■担当後記

◆前年度の「劇場」に続き、近年人気の高まっている「図書館」をテーマに、武蔵野エリアの二つの建築を訪ねた。武蔵野美術大学の図書館は藤本壮介の設計。美大らしい大胆なコンセプトと、機能面へのきめ細かな配慮が両立している。丁寧なガイドを受けながらの充実した見学となった。

◆武蔵野プレイスは、武蔵野市の社会教育施設という大きな枠組みの建物のメインとして位置づけられた図書館である。図書館のイメージを大胆に刷新する施設として大きな注目を集める施設である。設計者の比嘉氏のレクチャーでは、ハード面のみならず、人々が交流する「公共性」に着目した設計コンセプトが注目を集めていた。

◆アンケートを参考に参加者の反応をみると、図書館に興味のある参加者と建築に興味のある参加者の双方に満足していただけるプログラムを組むことの難しさが浮かび上がる。しかし、その難しさは、図書館建築に取り組む設計者が切実に感じていたであろう課題と通底している気がする。（梅津元）



武蔵野プレイス

## ■子どものためのプログラム

### ■アートフル∞プログラム「MOMASの扉」

#### 0. 「MOMASの扉」とは

2010年4月から新しくスタートした教育普及プログラム。美術館という場所を舞台に、関わる人全て（参加者、美術館スタッフ、ボランティア）が一緒になって美術館での体験を共有することにより、ひとり一人の新しい次元の扉が開き、芸術文化を共に創造する機会が充実することを目的としている。

開催日は毎週土曜日。美術館での“できごと”を楽しむというコンセプトで運営し、平成27年度は8種類の内容を行った。参加者の年齢層は幼児（4才）からお年寄りまで幅広い。

#### 1. MOMASコレクションみる+つくる

MOMASコレクションや美術館の建物などを小グループでまわり、参加者同士の対話を楽しんで作品の鑑賞を行う。その後、鑑賞をもとにした簡単な制作を楽しむプログラムを実施した。対象枠：小・中学生

- ・「えっ？《ドッキン good》をつくろう！」4月18日／参加者：23名。
- ・「気分は彫刻家！彫刻作品をつくってみよう！」6月20日／参加者：30名。
- ・「わくわく☆額縁職人」7月18日／参加者：26名。
- ・「花束を作ってプレゼントしよう！」11月7日／参加者：11名。
- ・「《コラージュかるた》読めるかな？」2月13日／参加者：25名。

#### 2. MOMASコレクション親子クルーズ

MOMASコレクションや美術館の建物などを小グループでまわり、親子で鑑賞をする。その後、鑑賞をもとにした簡単な制作を親子で楽しむプログラムを実施した。対象枠：小・中学生+親

- ・「1枚の板から椅子ができた」6月27日／参加者：27名。
- ・「おしゃべりな掛け軸」9月26日／参加者：12名。
- ・「カゲのダンス」1月16日／参加者：18名。
- ・「お顔をトレース★肖像画！」2月27日／参加者：27名。

#### 3. 企画展物語みる+つくる

企画展会場で、展覧会の魅力や楽しむためのヒントをわかりやすく紹介するプログラム。鑑賞の後に簡単な制作を行うプログラムを実施した。対象枠：小・中学生。

・「瑛丸になろう！カリカリエッチン good！」5月16日／参加者：31名。

- ・「怪盗Yからの挑戦状！」10月3日／参加者：12名。
- ・「人類の《旅》の謎を探れ！」11月28日／参加者：23名。
- ・「自由なわたし・理想の世界」3月26日／参加者：25名。

#### 4. 企画展物語親子クルーズ

企画展を親子で楽しむプログラム。作品の魅力を紹介し、親子で鑑賞した後、簡単な制作を行うプログラムを実施した。対象枠：小・中学生+親。

- ・「写真を撮ってアートしよう！」4月25日／参加者：29名。
- ・「動く発光図面を作ろう！」7月11日／参加者：27名。
- ・「空をつくろう！」10月10日／参加者：24名。
- ・「妄想世界地図」1月23日／参加者：19名。
- ・「大事なことすごろく」2月20日／参加者：16名。

#### 5. み〜っけ！

美術館でのできごとを、体いっぱい楽しむプログラム。美術館や公園などの環境を生かし、発見をテーマに実施した。対象枠：幼児（4才〜6才）とその親

- ・「おしゃべりな枢機卿になろう」6月6日／参加者：28名。
- ・「MOMAS音楽隊」7月4日／参加者：37名。
- ・「風になって」9月19日／参加者：26名。
- ・「おおきいね！」12月5日／参加者：36名。
- ・「不思議な椅子の美術館」3月12日／参加者：33名。

#### 6. 工房

美術館ならではの制作を中心としたプログラム。じっくり制作に取り組んだりみんなで一緒に活動したりして、ワーク・ショップを展開した。対象枠：小学生〜一般。

- ・「マリオネットで踊ろう！」5月23日／参加者：32名。
- ・「思いを込めて“世界に一つだけの花”をつくろう」10月24日／参加者：25名。
- ・「ようこそ！宇宙センターMOMASへ」12月19日／参加者：27名。1月30日／参加者：29名。
- ・「昆虫を作ってアートしよう！」3月19日／参加者：31名。

#### 7. アート★ビンゴ

9つのクイズを解きながら、美術館を気軽に楽しむ鑑賞プログラム。参加者は1階ロビーでビンゴ・シートを受け取り、館内外を巡りながらクイズを解く。最後にスタッフと一緒に答えを確認し、正解が多ければスタンプがもらえる。リピーターも多く、子どもたちや家族に人

気のプログラムである。対象枠：どなたでも／5月9日、6月13日、7月25日、9月12日、10月17日、11月21日、12月12日、1月9日、2月6日、3月5日／参加者：計527名。

## 8. サマー・アドベンチャー

夏休み限定の特別企画。県民の方が美術館での活動に参加することによって美術の価値を見出す機会を提供する、スペシャル・プログラムである。

- ・「からだとボールでアートしよう！」8月1日／講師：球舞-CUBE（パフォーマー）／参加者：19名。
- ・「折り鶴お椀を池に浮かべよう」8月6日／講師：木村仁（美術家）／参加者：180名。
- ・「洗濯バサミで絵を描こう！」8月8日／参加者：116名。
- ・「座れる段ボールの椅子大集合！Ⅲ」8月22日／講師：高須賀昌志（デザイナー・埼玉大学教授）／参加者：104名。
- ・「ロボぐるみを作ろう！」8月29日／講師：石澤彰一（アーティスト・押忍！手芸部部長）／参加者：65名。



押忍！手芸部 in MOMAS 「ロボぐるみをつくろう！」

## 9. 他館との連携による出張 MOMAS の扉

通年開館になり、出張ワークショップは1回のみ実施。グッドデザインの椅子を紹介し、その後制作を行い楽しんだ。対象枠：小学生+親

- ・「一枚の板から椅子ができた！」1月17日蕨市旭町公民館（蕨市）／参加者26名



「一枚の板から椅子ができた」

## ■夏休みの特別プログラム

### 1. 夏休みMOMASステーション

夏休みに美術館を訪れる子どもたちの美術館体験が豊かなものになるようサポートするコーナーを設置した。相談員は教育普及サポート・スタッフが交代で行い、美術館の案内や資料の配布、美術館見学の宿題の相談に応じた。教育普及研究員が美術館の楽しみ方を紹介するジュニア・ガイドを作成したり、教員によるレポート例の特別掲示版を作成したりして、子どものサポートを充実させた。7月17（土）～8月23（日）の休館日以外の毎日／エントランス／対応数：計3491名。

### 2. 鑑賞ツアー

夏休み期間中に3日間限定で30分のミニ・ツアーを行った。館職員と教育普及サポート・スタッフの有志がファシリテーターとなり、ツアーの運営にあたった。美術に興味のある人と一緒に美術館を巡ることで、美術の楽しみ方を体験的に学ぶことができる機会を提供することができた。／7月24日、7月31日、8月7日の3日間／対応数：計163名。



サポート・スタッフによる鑑賞ツアーの様子。

## ■広報記録

<雑誌、ミニコミ誌等>

- ・「埼玉の芸術・文化の発信基地 この春リニューアルオープン」2015年6月5日
- ・「アートフル∞プログラム『MOMASの扉』」2016年3月1日

<テレビ、ラジオ>

- ・「座れる段ボールの椅子グランプリ」『テレ玉ニュース』2015年8月28日

## ■担当後記

- ◆「MOMASの扉」ではリピーターも定着し、各プログラムの内容が参加者に定着してきたと言える。また、

全県の学校への広報活動や、地域や沿線の小学校へのチラシの配布など積極的な広報活動を行い、新規申込者も増加、他市からの参加も増えている。また、美術館で行う利点を活かし、参加者のニーズに合わせた鑑賞と制作が一体となったプログラムを行うことで、多くの参加者から好評を得ることができた。申し込みが増えるとともに、抽選の結果お断りをする機会も増え、より多くのお客様に参加し楽しんでいただけるよう、新しくフリープログラムの開発にも力を入れている。プログラムの内容の見直しも毎年図り、充実させていきたい。

(笠原たまき)

## ■ミュージアム・コラボレーション

埼玉大学と埼玉県立近代美術館が共同で子どものための事業を行うもので、主として土曜日の教育普及プログラム「MOMASの扉」のスタッフとしてプログラムの企画・運営をしている。教員等を目指す学生が積極的に参画することで、学生は、子供への接し方や授業の進め方等、現場での実践力を身につけることができる。また美術館にとっては、毎週のプログラムを充実させることができ、より多くの子供、親子に作品にふれ、美術館に親んでもらうことができる。

### ■担当後記

- ◆平成27年度の学生の登録は11名（内1名はインターンシップ）。学生が企画、運営したプログラムは4回である。美術館・大学・学生が三位一体となって、連携を密にとりながらの協働が実現できた1年であった。
- ◆「ミュージアム・コラボレーション」受講した学生たちは、プログラムの補助や、演習を重ねることによって、計画の立て方や運営の仕方に関心を持ち、主体的に関わりながら実践力を高めることができた。作品鑑賞では、学生自身が作品について深く調べたりよさを感じ取ることの大切さを学び、子供にどう伝えるか試行錯誤する姿が見られた。企画では、学生ならではの発想を基にした導入や題材の工夫により、子供たちが楽しめる魅力的な内容となった。でき上がった作品のクオリティーも高く、参加者が大いに楽しみ満足することができた。来年度も学生が主となって活動する場面を増やし、実践力を高めることで、「MOMASの扉」がより充実したものとなると考えている。

(笠原たまき)



埼玉大学の学生が行った“対話による鑑賞”

## ■企画展ワークシートの作成

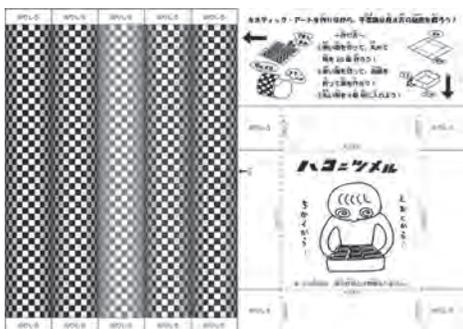
企画展の特徴をわかりやすく紹介するため、主にセルフガイド型のペーパー・アイテムを作成している。会場が無償配布するほか、学校団体や子どものためのプログラムなどでも幅広く活用している。県内全ての小・中学校、また必要に応じて高校、図書館、公民館にも配布する広報資料であり、また学校では、鑑賞学習の指導者側のツールとしても用いられ、来館前の事前学習に大いに役立つこともある。

平成27年度は次の5種を作成した。

### ①「キネティック・アート展」／作成：矢花俊樹



表面



裏面

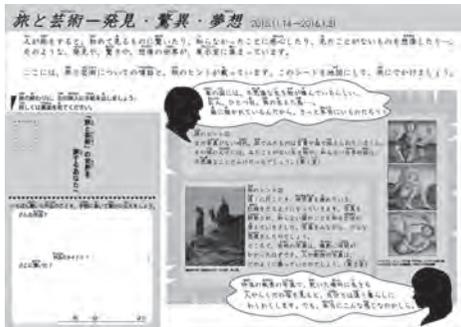
### ②「すごいで、これは！展」／作成：笠原たまき



表面

裏面

### ③「旅と芸術—発見・驚異・夢想展」／作成：菫浦澤侑



表面



裏面

### ④「原田直次郎 展」／作成：菫浦澤 侑



表面

裏面

### ⑤「ジャック=アンリ=ラルティエグ 展」／作成：笠原 たまき



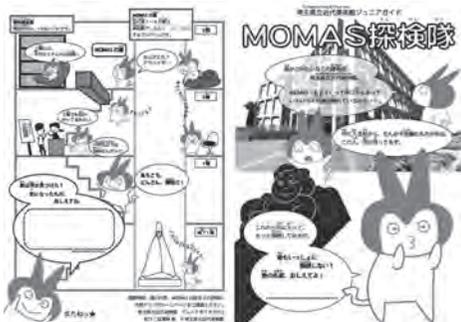
表面

裏面

## ■ジュニア・ガイドの作成

子供達が美術館を自分たちで楽しく巡ることができるように、「ビギナーズ・ガイド」をリニューアルし、館内の案内や作品について掲載した「ジュニア・ガイド」を作成した。

①「ジュニア・ガイド」／作成：菖蒲澤 侑



表面



裏面

## ■学校との連携

### ■教員美術講座

- ・第1回教員美術講座「座れる段ボールの椅子を作るにはⅢ」／6月13日(土)／講師：高須賀昌志氏(埼玉大学教授・デザイナー)／参加者：42名。
- ・第2回教員美術講座「日本画 墨の世界」/8月18日(火)／講師：関口浩氏(日本美術院研究会員・埼玉県美術家協会会員・県立芸術総合高等学校教諭) /27名

### ■担当後記

<第1回「座れる段ボールの椅子をつくるにはⅢ」>



第1回教員美術講座 講評会の様子

◆今年度、小・中学校、高等学校、特別支援学校の児童生徒を対象に、「第3回 座れる段ボールの椅子グランプリ」を開催した。それに先立ち、当グランプリの審査委員を務める埼玉大学教授 高須賀昌志氏を講師にお招きして、本講座を開催した。グランプリ参加校の教員・生徒が参加し、ケント紙を使った椅子の立体デザインをしたり、段ボールの特性や加工方法について学んだ後、実際にアイデアを形にしていくプロセスを、段ボールを使った創作体験を通して学ぶ時間となった。

(矢花俊樹)

### ◆参加者の感想(抜粋)

- ・実際に座れるようにするためにはどんな構造にしたら良いのが、実際に作ってみて分かった。(中学校教諭)
- ・生徒と一緒に参加できる講座なので、とても助かりました。ありがとうございました。(中学校教諭)
- ・椅子のアイデアスケッチを、紙を使って作るのが面白かった。(中学校生徒)

## <第2回「日本画 墨の世界」>



第2回教員美術講座活動の様子

- ◆日本画家として活躍されている 関口浩 氏（日本美術院研究会員・埼玉県美術家協会会員・県立芸術総合高等学校教諭）を講師に迎え、墨を使った題材の指導に活かせるヒントとレシピを紹介してもらう講座を開催した。当館収蔵作品の日本画を鑑賞したり、実際に墨絵を描く体験をすることで、先生方の授業の実践力を高める内容となった。

（矢花俊樹）

### ◆参加者の感想（抜粋）

- ・6年生で「墨のうた」、4年生で「木々をみつめて」で墨を使う授業があるので役立てたいです。（小学校教諭）
- ・思ったより本格的でびっくりしました。墨の濃淡だけで作品ができ、難しかったけど体験できてよかったです。（小学校教諭）
- ・授業であり取り組めていない題材なので、興味がありました。墨を使った表現の可能性を知り、授業に生かしたいと思います。（中学校教諭）

### ■先生のための鑑賞授業ヒント講座

- ・第1回先生のための鑑賞授業ヒント講座「みることは作ること・作ることはみること」/5月10日（日）/講師：矢花俊樹（教育・広報担当課長）/参加者：9名。
- ・第2回先生のための鑑賞授業ヒント講座「対話による鑑賞をやってみよう」/10月11日（日）/講師：矢花俊樹（教育・広報担当課長）/4名

### ■担当後記

平成26年度まで実施していた「企画展ガイド・ツアー」（教員向け鑑賞会）に変えて、平成27年度より本講座をスタートさせた。図工・美術の授業で、美術

作品を用いた鑑賞授業のやり方が分からないという声に応えたものである。参加者からは、授業に活かせる内容で勉強になったと好評であったが、参加人数が非常に少なかった。今後、実施時期や広報の仕方を検討するひつようがある。

## <第1回「みることは作ること・作ることはみること」>



制作体験の様子

- ◆野外彫刻作品を“対話による鑑賞”で巡りながら、制作題材との結びつきを考えた後、橋本真之氏の《果实の中の木もれ陽》に関連した制作体験を行った。丸みのある立体を紙で表現するための展開図の描き方や組み立て方を体験しながらランプシェードを制作した。最後に暗室で明かりを灯して鑑賞会を行いながら、鑑賞の視点についての講義も行った。

（矢花俊樹）

### ◆参加者の感想（抜粋）

- ・授業で制作する前に、どんな鑑賞をするかによって子どもの表現が変わってくるのが分かり、勉強になりました。

（小学校教諭）

- ・今回は紙を使って制作したが、薄い金属板でもできそうなので、中学校でやってみたいと思った。

（中学校教諭）

## <第2回「対話による鑑賞をやってみよう」>

- ◆児童・生徒になりきって“対話による鑑賞”に参加することで、鑑賞の流れやポイントを体験的に学んだ。その後、鑑賞の授業で扱いたい作品を選び、発問と予想される回答を考えた。最後に参加者が教員役と児童・生徒役になり、模擬授業を行った。

（矢花俊樹）

#### ◆参加者の感想（抜粋）

- ・対話による鑑賞というものをこれまでやったことがなかったので参考になった。特に人の意見を聞いて自分の意見を深めたり広げたりしていく感じを実感できたのが嬉しかった。

（中学校教諭）

- ・今日の研修を生かして、特別支援でも、生徒と対話をしながら作品鑑賞をしてみたいと思います。

（特別支援学校高等部教諭）

#### ■ミュージアム・キャラバン事業

学校連携を深めるとともに、当館収蔵作家を学校に派遣し、美術家としての生き方や考え方はじめとして、美術の世界について鑑賞や創作体験を通して小中学生に伝えることを目的に本事業を実施した。昨年度に引き続き、当館収蔵作家の高田洋一氏を講師に迎え、氏の作品の鑑賞も交えながら空気を材料にしたアート体験プログラム「私の不思議タネを作ろうー空気のアート制作体験ー」を提供した。

- ・7月10日（金）熊谷市立星宮小学校 全校児童 /71名



高田洋一氏のパフォーマンス



熊谷市立星宮小学校での活動の様子

#### ◆参加者の感想（抜粋）

（教員）

- ・芸術家の作品を見たり、くす玉が割れて手作りの種が降ってくる感動体験は、子ども達の一生の思い出になります。

- ・図工だけでなく、空気の存在を感じる理科的な視点が盛り込まれており、中味の濃い学習となっていた。

（児童）

- ・失敗は無いと言われたので安心して作れたし、図工は面白いと思いました。

- ・先生が「私たちは空気の海の中にいる」と言っていたのが心に残りました。自分が作った種がゆっくり落ちてくるのを見て、よく分かりました。

- ・かんたんにいろんな形ができておもしろかった。

#### ■担当後記

- ◆実施校の熊谷市立星宮小学校では、全校児童71名の小規模校という特徴を生かし、全校児童縦割りの活動が数多く行われている。上級生が下級生の面倒をよく見ることから、本事業も縦割りグループで行った。上級生と関わることで、低学年児童の制作活動もスムーズに行われており、アットホームな授業となった。

- ◆今年で3年目を迎えた事業である。美術館改修工事も終わり通年開館となったことで、本事業の実施回数は1回のみとなった。しかし、美術館を利用しづらい遠隔地との連携を進める上で、次年度は2回の実施を検討したい。

- ◆高田氏のプログラム「私の不思議タネを作ろうー空気のアート制作体験ー」は小学校を中心に継続して取り組んでいくが、中学校を対象としたプログラムを実践する講師の開拓も進めたい。

（矢花俊樹）

#### ■美術館利用研究会

学校における美術館の利用を率先して考える研究会として教員12名を委嘱し、年間12回の研究活動を行った。

委嘱研究員：鈴木 裕美 教諭（三芳町立三芳小学校）、高柳 由美 教諭（埼玉市立宗岡第二小学校）後藤 保紀 教諭（東京都小平市立小平第十小学校図工専科）、浅沼 夏菜 教諭（新座市立第三中学校）、井上 暢之 教諭（深谷市立深谷中学校）、大内 彩記子 教諭（三郷市立北中学校）、高田 悠希子 教諭（和光市立和光第二中学校）、井上 愛美 教諭（埼玉県立

大宮光稜高等学校)、近江 綾香 教諭 (埼玉県立芸術総合高等学校)、宇沼 美香 教諭 (埼玉県立越谷西特別支援学校)、野沢 博子 教諭 (埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園)、宮地 和加奈 教諭 (埼玉県立さいたま桜高等学園)。

## ■研究活動報告

前年度に引き続き、当館の所蔵作品《二つの花束》／マルク・シャガールの鑑賞授業プログラムの作成を行った。また、当館所蔵のグッドデザインの椅子を用いた中学校向けプログラムとして、公共施設と結びつけた利用やデザインを考えるプログラムの検討を始めた。

## ■担当後記

- ◆美術館利用研究会で開発したプログラムをもとに、3校でシャガールの鑑賞授業を行うことができた。授業実践を重ねながら内容を再検討し、より良いプログラムに改善することができた。
- ◆研究会への参加率が低迷していることが課題である。(矢花俊樹)

## ■その他の学校連携事業

学校との連携を図る活動として、以下の対応も行った。

### ＜学校団体の受け入れ＞

美術作品の鑑賞を目的として来館した学校等の園児・児童・生徒・学生を対象に、対話による鑑賞をしながら展示室や屋外彫刻を案内した。さらに、別室にてグッドデザインの椅子の鑑賞体験学習をしたり、造形遊びワークショップ「洗濯バサミで絵を描こう！」なども実施した。美術館の作品を鑑賞するだけでなく、椅子の座り心地を体感したり、ワークショップで創作体験することで、美術への関心を高めることができた。様々な体験を提供できることが、当館の魅力ともいえる。改修工事後の通年開館の年度であったが、多くの団体が利用してくれた。利用団体に行ったアンケートの結果も良好である。／学校団体対応数：96 団体、3048 名



高等学校美術部の生徒との対話による鑑賞の様子

### ＜授業協力＞

今年度も、改修工事による休館期間があるため、学校との連携強化と当館広報活動として、より積極的に実施した。依頼を受けた学校に赴き、収蔵作品の複製画や鑑賞キットを使って鑑賞の授業を行った。授業を通して、美術館や作品、作家への興味をもたせるきっかけとなった。／授業協力数：47 校、122 学級、4615 名



春日部市立正善小学校 4年生ピカソの鑑賞授業の様子

## ■広報記録

### <新聞>

- ・毎日新聞朝刊紙面：埼玉「県近代美術館の作品使って授業」2015年3月5日

### <複製画等の貸し出し>

教師が授業で活用できるよう、美術館にある複製画や鑑賞キット、アートカードなどを貸し出した。H27年度は、パブロ・ピカソ《静物》、小茂田青樹《春の夜》、クロード・モネ《ジヴェルニーの積みわら 夕日》、マルク・シャガール《二つの花束》、岸田劉生《路傍初夏》、アート・カードが活用された。毎年、継続して利用している先生の実践を聞き、新規で利用する先生も増えている。／貸出数：43件。

### <第3回 座れる段ボールの椅子グランプリ>

学校との連携強化と、創造力と創意工夫する力の育成を目的に、県内小・中学校、高等学校、特別支援学校の児童、生徒を対象に本事業を開催した。段ボールのみを素材に、大人が座ることができる椅子を3人以上のグループで制作して応募するコンクール形式で実施した。今年度は第3回目ということもあり、作品の完成度が全体的に高く、段ボールの素材を生かした新たな表現方法もみられた。

20校、52グループ、254名が参加した。



鑑賞会の様子

### <職場体験の受け入れ> / 対応数：6校 17名

## ■博物館実習

「埼玉県博物館等の博物館実習生受入要項」に基づき、下記の14大学20名の実習生を受け入れ、全7日間の日程で実施した（青山学院大学、学習院大学、埼玉大学、実践女子大学、昭和女子大学、女子美術大学、成城大学、清泉女子大学、大東文化大学、多摩美術大学、東京大学、日本大学、武蔵野大学、武蔵野美術大学）。

学芸員および担当職員による講義中心の合同実習を4日間、担当学芸員のもとテーマに応じた実務を行う個別実習を3日間行った。

### ■合同実習

講義、実技、講話などを中心に職員、学芸員が講師として指導した。

- ・7月21日（火） 開講式、オリエンテーション、館内外施設見学、学芸部の仕事について、管理の仕事について、美術資料の収集と保存について、彫刻のメンテナンスについて、MOMASコレクションについて
- ・7月22日（水） 彫刻の取り扱い・メンテナンス、図書の取り扱い、油彩画とその取り扱いについて。
- ・7月23日（木） 企画展の概要について、企画展の実務について、新採用の学芸員から、教育普及担当スタッフから、日本画とその取り扱いについて、MOMASの扉・大学連携について、広報と刊行物について
- ・7月24日（金） SMFについて、企画展「キネティック・アート」見学、これからの美術館について、美術館サポーター／教育普及サポートスタッフの活動について・学校連携について、版画・写真とその取り扱いについて

### ■個別実習

例年通り、各実習生の研究テーマや関心領域に応じて学芸員が1～2名の実習生を担当し、実務の実習を行った。実習日は担当学芸員と実習生の相談により決定し、展示作業、発送、資料整理、ワークショップ運営、ワークシート作成などに実際に参加してもらった。原則として8月中に3日間の実習を行った。

## ■美術館ボランティア

### ■美術館サポーター

美術館サポーター（ガイド・ボランティア）は、毎日14時から30分程度（展示替え後は除く）、常設展示室で解説ガイドを行っている。その活動は美術館を代表するひとつの顔となりつつあり、各方面からの取材や関心も高く、来館者もリピーターが増え、美術館を身近なものにしてくれている。27年度の登録人数：30名（男性5名、女性25名）。

### ■研修日程

- 4月25日（土）学芸員と話すシリーズ①：梅津元学芸員「装置としての瑛九」
- 5月23日（土）学芸員と話すシリーズ②：渋谷拓学芸員「モネ、ブーダン、ドラクロワの絵の裏側を見る！」
- 6月27日（土）実技研修：「リキシヤカメラ体験と箱カメラ制作」講師教育・広報担当課長 矢花俊樹
- 7月25日（土）館外研修：東京都庭園美術館「アール・デコの邸宅美術館」
- 8月22日（土）学芸員と話すシリーズ③：嶋原悠学芸員「私の研究：愛媛県美術館での実践報告」
- 9月26日（土）クロストーク：進行梅津元学芸員「作品選定、ガイドの内容、お客様の様子など」
- 10月24日（土）ギャラリー・トーク：講師市川美幸氏（写真家）
- 11月28日（土）館外研修：東京国立近代美術館「MOMATコレクション特集藤田嗣治、全所蔵作品展示」
- 12月19日（土）情報交換会、懇親会
- 1月23日（土）研修：「絵の具について」講師株式会社クサカベ技術開発部岩崎氏
- 2月27日（土）研修：「金属工芸について」講師教育・広報担当課長矢花俊樹
- 3月26日（土）年間総括、H28MOMAS コレクション展示計画について



ファミリー鑑賞会の様子

### ■担当後記

- ◆改修工事も終わり通年開館となり、解説ガイドを284回、ファミリー鑑賞会を2回、武蔵野美術大学の研修会でもサポーターのよる解説ガイドを行った。積極的に活動していただいたおかげで、全て開催することができ、好評を得ることができた。
- ◆今年度も、美術館サポーターからの要望をもとに研修会を実施した。MOMAS コレクション展に合わせた学芸員からのレクチャーや出品作家を招いてのギャラリー・トークを行うことで、収蔵作家作品に対する見識を広めることができた。株式会社クサカベによる絵具についての研修では、絵具の材料や性質について学ぶことができた。
- ◆館外研修では、東京国立近代美術館のサポーターによる対話型鑑賞を体験し、交流することで、ガイド方法の幅を広げる上での参考となった。
- ◆運営面では、月例会の参加率を上げるよう、より魅力的な研修を企画していきたい。

（矢花俊樹）

## ■教育普及サポート・スタッフ

当館の教育普及事業をサポートするボランティア・バンクとして、学生や教員、一般まで幅広く募集している。美術館への関心の高さとともに、バンク登録者にとっては社会貢献への位置づけとなっている。1年更新で、平成27年度の登録人数は72名。

### ■研修日程

- ・第1回「美術館の概要と子どもの鑑賞活動について」／6月19日(金)、6月21日(日)。
- ・第2回「美術館の目的と収蔵作品、平成26年度の活動内容と運営計画について」／6月26日(金)、6月28日(日)。
- ・ガイドスタッフ特別研修「ガイドスタッフの役割と対話型鑑賞について」／7月3日(金)、7月5日(日)。

### ■担当後記

- ◆6年前からスタートさせた夏休みの鑑賞ガイドツアーは、中学校の美術部を中心に多くの参加者を募ることができた。鑑賞ガイドツアーのファシリテーターを希望するスタッフも、経験豊富なスタッフに交じり、意欲のある新規スタッフが加わり、充実したガイドを行うことができた。来年度も継続し、多くの参加者を楽しませたい。
- ◆昨年度よりスタッフが減ったものの、教育や美術に関わる各大学と連携し、埼玉大学や埼玉学園大学、東京家政大学などでガイダンスを行った。意欲のある大学生スタッフを獲得でき、積極的な参加や熱心な取り組みがみられた。継続のスタッフにも研修を行い、充実した活動になった。さらに各大学との連携も深めていきたい。

(笠原たまき)



鑑賞ガイドツアー

## ■MOMAS彫刻ボランティア

埼玉県立近代美術館(MOMAS)彫刻ボランティアは、発足から12年を経過した。春から秋にかけて北浦和公園内に設置された当館所蔵の彫刻作品の洗浄・ワックス掛けを行い、冬期には研修会を開催して、彫刻という美術ジャンルを通じて芸術に関するさまざまな啓発・発信活動を自立的に行う人材の育成を目指している。

今年度も例年どおりに野外彫刻の洗浄を中心に活動した。

昨年来、さいたま市立善前小学校の「土曜チャレンジスクール」事業に協力しているが、7月に洗浄ワークショップを行うことで、ボランティア主催による「彫刻あらいぐま」ワークショップの実施に替えた。これは、大規模改修工事のあおりと天候不良により、洗浄作業を優先したためである。登録者数14名。

### ■活動概要

- ・7月26日(日)／ワークショップ『土曜チャレンジスクール「善前っ子ひろば」@MOMAS』参加小学生：19名
- ・8月9日(日)／特別研修会「さいたま市大宮盆栽美術館：『染付鉢の草もの盆栽展』見学会」／講師：田口文哉(さいたま市大宮盆栽美術館学芸員)
- ・2月21日(日)／特別研修会「府中市美術館：『若林奮展』見学会」／講師：神山亮子(府中市美術館学芸員)

### ■担当後記

- ◆今年度も善前小学校からの協力打診があり、夏休み中の子供向けにワークショップを開催した。平成26年度で3か所の洗浄を行ったところ大変あわただしかったので、今年度は2か所の洗浄とし、やはり午前中の2時間で、説明・洗浄・まとめを行った。昨年度も参加した子供もおり、内容的に変化をつけていけるかが今後の課題となった。
- ◆8月の研修会では、「生きている屋外彫刻」をコンセプトに、大宮盆栽美術館の展覧会「染付鉢の草もの盆栽展」の見学を行った。外国人の人気も高い同館だが、まだ訪ねたことのないボランティア・メンバーもおり、美術に関する知見を広げる良い機会となった。同館学芸員・田口文哉氏のご厚意で、懇切丁寧な説明を受けることができ、美術館という施設で盆栽という「生き物」を扱うことに伴う気遣いや難しさについて思いを巡らすこととなった。

---

◆ 2月の研修会では、府中市美術館に遠征し、日本の近代彫刻に大きな足跡を残した若林奮の展覧会を見学をした。展覧会担当の学芸員・神山亮子氏から丁寧なギャラリー・トークを行ってもらい、理解がより深まった。本展は、巡回展としてうらわ美術館でも開催されるものであり、会場が異なると巡回展がどのように変わるかを体験できる貴重な機会であるので、同館での展示も併せて見てみることにしたい。  
(渋谷拓)



ワークショップ『土曜チャレンジスクール「善前っ子ひろば」@ MOMA S』での洗浄風景。屋外展示場にて《NEGATIVE BALL》を洗う。

## ■広聴・広報・刊行物

### ■広聴

#### 1. アンケート調査

企画展、MOMAS コレクションともに、毎回会場出口でアンケート調査を実施し、来場者の声を聴いた。

- ・企画展調査：「private, private—わたしをひらくコレクション」4月28日～5月24日の24日間。回答数：207 / 「動く、光る、目がまわる！キネティック・アート」7月11日～8月1日の20日間。回答数：256 / 「すごいぞ、これは！」10月1日～11月1日の29日間。回答数：331 / 「旅と芸術—発見・驚異・夢想」11月28日～1月31日の47日間。回答数：226 / 「原田直次郎展—西洋画は益々奨励すべし」2月13日～3月17日の29日間。回答数：153
- ・MOMAS コレクション調査：「Ⅰ」4月11日から5月3日の20日間。回答数：333 / 「Ⅱ」7月22日から8月19日の25日間。回答数：333 / 「Ⅲ」11月25日から1月16日の37日間。回答数325 / 「Ⅳ」1月23日から2月13日の19日間。回答数292。
- ・「美術館にひとこえを！」と名づけたアンケート用紙を1階ロビーに常備し、来館者の声を聴いた。質問や要望の内容によっては回答をさしあげている。また、美術館講座やMOMASの扉、ミュージアム・コンサートなどでもアンケートを実施した。

#### 2. その他

- ・当館への問い合わせ等はインターネットでも受け付けており、随時回答している。
- ・近隣町内会や商店会の代表者の方たちと定期的に催しの情報交換をし、美術館に対する要望をうかがったり広報協力をお願いしたりする機会としている。

### ■広報

#### 1. 印刷物の作成・配布

- ・企画展毎に、それぞれのイメージに即したデザインによるB2ポスター、ちらし、ワークシート等を作成した。MOMAS コレクションでは昨年に引き続き、イメージを統一したB1・B2ポスターを会期ごとに作成し、北浦和公園や館内各所に掲出した。こうしたポスター類や道案内は、JR東日本大宮支社のご協力を得て、最寄りのJR北浦和駅構内にも設置している。その他、美術館講座や学校向けの利用案内、ファミリー鑑賞

会などは手づくりのちらしを作成した。

- ・以上の印刷物や広報紙ソカロ、ミュージアム・カレンダーを、関連機関、協力ポイント、県内の情報拠点や小・中・高・特別支援学校、全国美術館等に配布した。

#### 2. パブリシティ

- ・展覧会やイベント、教育・普及事業等について記者発表し、新聞・テレビ、雑誌、WEB等の各種メディアに掲載されるよう努めた。
- ・企画展「動く、光る、目がまわる！キネティック・アート」、「旅と芸術—発見・驚異・夢想」では、会期初日に報道関係者や雑誌社、美術プロガラー等を招いた内覧会を開催した。

#### 3. ホームページ

彩の国県立学校間ネットワークシステムのサーバ上でホームページを運用し、各種情報を発信した。

URL : <http://www.pref.spec.ed.jp/momas/>

情報項目：お知らせ（ニュース、ソカロ、スタッフ募集、プレスリリース）、利用案内（美術館概要、利用案内／交通案内、フロアガイド、一般展示室／講堂）、展覧会（企画展、MOMAS コレクション、年間スケジュール、一般展示室）、イベント（企画展開連イベント、MOMAS コレクション関連イベント、MOMASの扉・カレンダー、イベント・カレンダー）、教育・普及事業（MOMASの扉、学校と美術館、彫刻あらいぐま、近現代建築探検ツアー）、もっと楽しもう（収蔵品紹介、今日座れる椅子、資料閲覧室、北浦和公園・野外彫刻、ファムス、ミュージアム・ショップ、レストラン・ペペロネ）、リンク、サイトマップ、English、過去の展覧会図録の販売など。  
年間ページビュー数：817,918

#### 4. ソーシャル・ネットワーキング・サービス

- ・ツイッター公式アカウント（2011年7月～）では、美術館や北浦和公園の情報を1日1回程度ツイートしている。また、ツイッター上のイベント「ミュージアムウィーク」や「文化遺産ウィーク」に参加し、美術館の認知度の向上を図った。

URL : [https://twitter.com/momas\\_kouhou](https://twitter.com/momas_kouhou)

ツイート数：2,654、フォロワー数：10,579（3月末現在）

- ・YouTube公式アカウント（2014年1月～）では、展覧会の告知映像や展示風景、対談イベント、学芸員のギャラリー・トークの様子などを配信している。

URL : <https://www.youtube.com/user/momasjp>

年間視聴回数：26,429

- フェイスブック公式ページ(2014年7月～)では、展覧会や各種イベント、ワークショップの様子、北浦和公園の情報など、幅広い情報発信を随時行っている。

URL：<https://www.facebook.com/momaspr>

いいね！数：1,089(3月末現在)

## 5. その他

- 美術館リニューアルオープンに合わせて、記念イベント「もますまつり」を4月11日、12日、5月2日、5日、6日の5日間開催し、計7,509名の方にご来館いただいた。



ちらし

- ・県展開催期間限定で、MOMAS コレクション観覧料を半額にする割引サービスを実施した。
- ・与野本町ショッピングセンターのデジタルサイネージで、企画展やMOMAS コレクション等の情報を配信した。
- ・2015年11月より、埼玉りそな銀行北浦和西口支店の協力により、店内デジタルサイネージによる企画展告知映像の配信および企画展ちらしの配架を行った。
- ・2016年1月より、グーグル社が提供する「Google カルチュラルインスティテュート」に参加した。3月末現在、主要な収蔵作品の高精細画像98点および館内・北浦和公園のストリートビューをWEB上で閲覧できる。
- ・2016年2月より、近隣のディスクユニオン北浦和店と連携し、展覧会半券による割引サービスを行った。

## ■担当後記

- ◆美術館の存在を知ってもらい、関心を持ってもらうために、どのような広報展開が可能かを模索した。その結果、広報紙ソカロ12・1月号で実現した「紙

面開放計画」は、美術館ならではの印刷物の展開の可能性を示したと思う。(梅津元)

- ◆2年ぶりの通年開館ということで、より積極的なパブリシティにより新聞等の記事化につながるよう努めた。また、広報紙ソカロのレイアウトの自由度を上げ、担当としても楽しみながら編集することができた。(落合範崇)

## ■広報記録

### <埼玉県立近代美術館>

- ・「近代美術館がリニューアルオープン」『たまログ』2015年4月1日
- ・「県立近代美術館が11日改装オープン」『読売新聞』2015年4月9日
- ・「11、12日にリニューアルオープン記念のイベント」『ショッパーさいたま大宮・上尾』2015年4月9日
- ・「改修終え11日にオープン」『ショッパーさいたま浦和・川口』2015年4月9日
- ・「さきたま抄(リニューアルオープン)」『埼玉新聞』2015年4月10日
- ・「建築家と美術館にドラマ 近美と黒川氏のエピソードも」『埼玉新聞』2015年4月11日
- ・「県立近代美術館リニューアルオープン」『テレ玉彩の国ニュースほっと』2015年4月18日放送
- ・「GWは新しくなった県立近代美術館へ！」『ショッパーさいたま浦和・川口』2015年4月23日
- ・「GWは新しくなった県立近代美術館へ！」『ショッパーさいたま大宮・上尾』2015年4月30日
- ・「小さな子どもを連れて美術鑑賞」『NHK首都圏ニュース』2015年5月13日放送
- ・「県立近代美術館「ファミリー鑑賞会」」『テレ玉ニュース』2015年5月13日放送
- ・「子連れでじっくり作品鑑賞 県立近代美術館」『産経新聞』2015年5月14日
- ・「子育て中に美術鑑賞を」『NHKひるまえほっと』2015年5月18日放送
- ・「浦和の芸術・文化の発信基地がリニューアル」『リビングさいたま』2015年5月23日
- ・「収蔵品データベースを公開」『テレ玉ニュース』2015年6月9日放送
- ・「収蔵全作品 HPで検索可能に」『読売新聞』2015年6月12日
- ・「名作インテリアと暮らす新居にほしい座れる芸術」『HOUSING』2015年8月号
- ・「移ろう光の色を追い求め クロードモネ(カジュア

- ル美術館)『東京新聞』2015年6月28日
- ・「昭和の名建築を歩く 中銀カプセルタワービル」『産経新聞』2015年7月12日
- ・「名画に会おう ポール・デルヴォー「森」」『クレスコ』2015年8月号
- ・「埼玉のアート発信拠点 埼玉県立近代美術館」『埼玉たてものトラベル』2015年8月5日
- ・「ジム・美術館でポイントカード」『読売新聞』2015年9月15日
- ・「県民の日、催しどこ行く?」『日経新聞』2015年11月7日
- ・「「祝祭」に人々は集う 市民・作家交流 街づくり刺激」『朝日新聞』2015年11月14日
- ・「塗師さんの「埼玉の風景」20点寄贈」『埼玉新聞』2015年11月14日
- ・「ベビーカーで美術館 ファミリー鑑賞会」『テレ玉ニュース』2015年11月26日放送
- ・「埼玉県 体動かし健康寿命伸ばそう 共通ポイント制で利用促進」『公明新聞』2015年12月3日
- ・「浦和のイチョウ 黄金色の見頃に」『読売新聞』2015年12月10日
- ・「ぶらぶらミュージアム 埼玉県立近代美術館の巻」『散歩の達人』2016年1月号
- ・「色彩豊かな埼玉描きたい 県内の風景画20枚 近代美術館に」『埼玉新聞』2016年1月8日
- ・「自分の絵の原点語る 洋画家の塗師さん」『埼玉新聞』2016年1月13日
- ・「心にうるおいを与える開かれた美術館」『美術屋百兵衛36号』2016年1月15日
- ・「気になる一品! 埼玉県立近代美術館」『朝日新聞夕刊』2016年3月9日

## ■刊行物

平成26年度版年報、平成27年度版要覧、平成27年度版ミュージアム・カレンダー、広報紙ソカロ、美術館概要パンフレットを刊行した。年報、要覧、ソカロはホームページでも閲覧できる。

## ■広報紙ソカロ

広報紙ソカロ(A3版2面、カラー印刷)を、2か月毎(年6回、各15,000部)に編集・発行・配布した。

### ◆2015年6-7月号(#72 5月31日発行)

- ・あなたが主演 企画展「動く、光る、目がまわる! キ

ネティック・アート」(平野到)

- ・さくねんのたまもの 平成26年度新収蔵作品のご紹介(渋谷拓)
- ・どうぞよろしく!(鳴原悠)
- ・ミュージアム・ショップおすすめ商品「埼玉県障害者アートグッズ」(外山晶子)
- ・MUSEUM NEWS 6-7



### ◆2015年8-9月号(#73 7月31日発行)

- ・企画展「すごいぞ、これは!」(前山裕司)
- ・報告「もますまつり」&「private, private—わたしをひらくコレクション」関連イベント(落合範崇、梅津元)
- ・SMF「あなたとどこでもアート/着がわりプロジェクト」はじまりました(中村誠)
- ・ミュージアム・ショップおすすめ商品「ひびのこづえデザイングッズ」(川上佳代)
- ・MUSEUM NEWS 8-9



### ◆2015年10-11月号(#74 9月30日発行)

- ・旅—素晴らしき多様性にめぐりあうために 企画展「旅と芸術—発見・驚異・夢想」(平野到)

- ・辰野登恵子—まだ見ぬかたちを MOMAS コレクション III (大浦周)
- ・原田直次郎のミュンヘン留学—その足跡をたどって (吉岡知子)
- ・ミュージアム・ショップおすすめ商品「KARA-KARA(coon)」(外山晶子)
- ・MUSEUM NEWS 10-11



◆ 2015年12月-2016年1月号(#75 11月30日発行)

- ・タイガー立石 虎の巻【『ソカロ』開放計画】
- ・芸術のための芸術か、社会のための芸術か 中ザワヒデキ【『ソカロ』開放計画】
- ・【『ソカロ』開放計画】—「印刷物の美術」を実践せよ！ (梅津元)
- ・ミュージアム・ショップおすすめ商品「マグカップ」(曾根久美子)
- ・MUSEUM NEWS 12-1



◆ 2016年2-3月号(#76 1月31日発行)

- ・100年ぶりの回顧展に寄せて 企画展「原田直次郎展—西洋画は益々奨励すべし」(吉岡知子)
- ・アーティスト・プロジェクト「島州—世界の変換と再構築」オープン MOMAS コレクションIV (中村誠)

- ・ミュージアム・キャラバン報告 (矢花俊樹)
- ・ミュージアム・ショップおすすめ商品「ブラシペン」(米澤摩子)
- ・MUSEUM NEWS 2-3



◆ 2016年4-5月号(#77 3月31日発行)

- ・写真は魔法だ！ 企画展「ジャック＝アンリ・ラルティエグ幸せの瞬間をつかまえて」(鳴原悠)
- ・MICALO 引用の織物 re-presentation イメージの継承と創造 MOMAS コレクション I
- ・【MICALO】＝【『ソカロ』縮小計画】(五味良子、梅津元)
- ・ミュージアム・ショップおすすめ商品「ウッドマグ」(信山恵理子)
- ・MUSEUM NEWS 4-5



## ■美術館概要パンフレット

美術館関係者等に配布するため、美術館の事業や施設・設備情報などを掲載した概要パンフレットを作成した。



パンフレット

## ■図書資料の収集と公開

美術館活動を進める上で、必要な基礎的及び専門的資料を収集し、併せてこれを一般に公開することにより、県民が美術に親しみ、理解と鑑賞を深める機会を提供している。

### ■蔵書冊数一覧

・一般書

分 類		平成 26 年度まで	平成 27 年度	計
購 入	A 美術総記	2,427	7	2,434
	B 日本美術	2,607	19	2,626
	C 西洋美術	3,115	11	3,126
	D 東洋 その他の美術	183	0	183
	E 図録	861	2	863
	F 埼玉資料	240	0	240
	G 関係諸学	775	2	777
小 計		10,209	41	10,241
受 贈 (一般図書・他館図録)		30,153	438	30,591
合 計		40,362	479	40,841

・美術雑誌（バックナンバーを除く）

購入 23 タイトル（うち洋雑誌 4 タイトル）

受贈 11 タイトル

計 34 タイトル

開室日数 289 日

利用者数 2,568 人

レファレンス受付件数 174 件

## ■書架の増設

資料の増加に伴い、閲覧室に低書架を 2 台増設した。

## ■椅子の美術館

約 70 種類所蔵しているグッドデザインの椅子を、入館者に自由に座って楽しんでもらった。これらの椅子は、企画展や MOMAS コレクションの展示替えに合わせて定期的に入れ替え、常時 30～40 脚程度を館内各所に配置しており、ホームページの「今日座れる椅子」で紹介している。

また、授業協力では、グッドデザインの椅子を学校に運び、椅子の鑑賞体験学習で活用している。授業を受けた児童生徒が後日、親子で美術館に椅子を見に来るなど、教育普及に大きく役立っている。



《シェルチェア》柳宗理 1999 年

改修工事後のリニューアル・オープンに合わせて、株式会社天童木工より、《シェルチェア》を購入した。

## ■ハイビジョン・コーナー

1 階エントランス・ホールの休憩コーナーでは、65 インチの大画面により、開催中の企画展・MOMAS コレクションの紹介映像や収蔵作品・椅子等の紹介映像を上映した。

## ■トピックス

### ■トピックス[1]

#### 第3回 座れる段ボールの椅子グランプリ

学校との連携強化と、創造力と創意工夫する力の育成を目的に、県内小・中学校、高等学校、特別支援学校の児童、生徒を対象に本事業を開催した。段ボールのみを素材に、大人が座ることができる椅子を3人以上のグループで制作して応募するコンクール形式で実施し、20校、52グループ、254人が参加した。

8月7日（金）当館講堂において建畠哲館長、埼玉大学教授・高須賀昌志氏、大越学芸主幹、梅津主任学芸員が審査を行い、以下の入賞作品と入選作品を決定した。

#### ① 総合グランプリ

チーム とんぷく

《UMOUMA》

(埼玉県立大宮光陵高等学校)

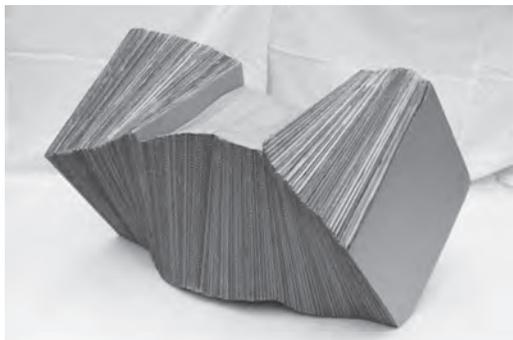


#### ② 総合準グランプリ

腰ヒカリ

《かっこいいっす》

(埼玉県立芸術総合高等学校)



#### ③ 高等学校グランプリ

県立越谷東高等学校 美術部

《Sweet Chair》

(埼玉県立越谷東高等学校)



#### ④ 中学校グランプリ

ゆるゆるパンダ2

《ブロック》

(川口市立芝西中学校)



#### ⑤ 特別支援学校グランプリ

ありのままの中3R

《アイ ラヴ パン》

(埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園)



⑥ 高等学校準グランプリ

芸総芸術：r e

《風》

(埼玉県立芸術総合高等学校)



⑦ 中学校準グランプリ

領家中美術部 2年

《Politeegg》

(川口市立領家中学校)



⑧ 特別支援学校準グランプリ

夜空のミルキーウェイ☆

《リラックスチェア》

(埼玉県立特別支援学校さいたま桜高等学園)



8月22日(土)～8月30日(日)の期間、受賞作品、入選作品を館内に展示し、来館者に紹介するほか、8月22日(土)に受賞式を行うとともに作者によるプレゼンテーションを中心とした鑑賞会を行い、広くアピールした。



8月22日(土) サマー・アドベンチャー  
“座れる段ボールの椅子大集合Ⅲ” 鑑賞会風景。

■広報記録

<テレビ>

- ・テレ玉ニュース「座れる段ボールの椅子グランプリ」  
2015年8月28日

■担当後記

今年で3回目の開催となった「座れる段ボールの椅子グランプリ」では、創意工夫あふれる作品が多数出品された。段ボールの素材を生かした多様な作品は、素材や表現の可能性を広げるもので、その獨創性に驚かされた。本グランプリが美術教育の充実に寄与していることが伺える。

参加校の児童、生徒、教員からは、来年も是非、出品したいといった声や、子ども達の絆が深まる取り組みである。といった評価があった。

次年度は全国公募に拡大することで、当館を広くアピールし、学校連携を推し進める予定である。

(矢花俊樹)

## ■トピックス〔2〕

### あなたと どこでも アート／着がわりプロジェクト

平成 27 年度 文化庁 地域の核となる美術館・歴史博物館創造活動支援事業

■事業名：あなたと どこでも アート／着がわりプロジェクト

■主催：あなたと どこでも アート実行委員会

■事業期間：2015 年 4 月 1 日～ 2016 年 3 月 31 日

文化庁のモデル事業・補助事業として、地域と共働したさまざまなアートプログラムやアウトリーチ活動を展開する事業である。本事業も通算で 7 年目となった。本事業での協働をもとにさまざまなアートの分野で活動している方々が集う SMF (Saitama Muse Forum)<sup>\*1</sup> が誕生し、この事業の企画運営を担う重要なエンジンとなっている。

事業名や枠組みは少しずつ変わってきたが、各回とも、入間市博物館、うらわ美術館、川口市立アートギャラリー、川越市立美術館、埼玉県立近代美術館という県内の公立ミュージアム 5 館がゆるやかに連携して実行委員会をつくり、文化庁の支援を得て実施してきた。この事業は、各ミュージアム館内での展示やワークショップ、シンポジウムなどにとどまらず、館庭や公園、街路や商店街など、暮らしに身近な場所でさまざまなアートプログラムを展開し、ミュージアムと地域を結び役割を果たしてきた。「あなたと どこでも アート 実行委員会」という名称もアウトリーチプログラムとしての本事業の性格を端的に示すものだ。

平成 26 年度の「小さな家プロジェクト」に続き、平成 27 年度は「着がわりプロジェクト」と題し「着る」をメインテーマに、「衣と体のせめぎあい」コスチューム制作ワークショップ（ひびのこづえ監修）や「時間のきもの」プロジェクト、廃工場を舞台とした「〈き〉がわりを〈き〉がえる」などを中心に、計 25 の多彩なアートプログラムを実施した。<sup>\*2</sup>

また、平成 27 年 3 月、ネット上に誕生した「SMF アート長屋」に井戸端（だんわしつ）、掲示板（管理人からのお知らせ）、物置（保管庫兼パビリオン）を開設し、長屋の機能の拡充・展開を図った。物置＝蔵では、プロジェクトアートの自由な提案などを募るインターネット上の展覧会「宝船展 on the net」を開催するとともに、そのリアル空間での展開版「宝船展@ MOMAS」を埼玉県立近代美術館で開催し、アート関係者の交



衣と体のせめぎあいより、「キノコのレシピ」

流連携を促進するとともに今後の企画の糧とした。<sup>\*3</sup>

これまでの事業を通じてたくさんのお出会いと交流が生まれ、その周辺でさまざまな協働がはじまっている。ミュージアムをキーステーションとしながらミュージアムに限定されない活動や、さまざまなジャンルを超えた協働が SMF を母胎として生まれている。それらを機動的に繋ぎどのように組織化して、美術館と地域連携の新たなモデルを構築するかが今後の課題と言える。

ミュージアムと地域の協働のモデルとなるような開かれたプラットフォームの形成に向けて、引き続きあたたかいご理解、ご支援をお願いしたい。

（中村 誠）

\*1 SMF の趣旨・これまでの活動等については、SMF ホームページ <http://www.artplatform.jp> 参照。

\*2 H27 年度事業の詳細は、記録集『着がわりプロジェクト』（A4 判 24P）参照、上記ホームページでも閲覧可能

\*3 「SMF アート長屋」「宝船展」については、アート長屋ホームページ <http://www.artnagaya.jp> 参照

## ■事業実施状況

### （1）着がわりプロジェクトM

「衣」をテーマに各ミュージアムを中心に展開される多彩なプログラム。

- ① 7 月 18・19 日／25・26 日（土・日）トリップクロス・ワークショップ「巨大織り機でみんなでまちを織ろう」三番町ギャラリー／川越市立美術館（4 日間計ワークショップ参加者：28 名、来場者：85 名）
- ② 8 月 28 日（金）講座「学校になぜ美術があるのでしょ」＋実践ワークショップ「チャブクロコレクション 2015 夏」入間市博物館アリット、東野高校（計 50 名）
- ③ 8 月 29 日（土）「押忍！手芸部 in MOMAS ロボぐるみを作ろう」埼玉県立近代美術館（2 回 計 65 名）
- ④ 9 月 6 日（日）体感講座「アシの裏 クツの裏一足と靴からまちについて考える」川口市立アートギャ

ラリー・アトリア (26名)

- ⑤ 9月12日(土)「トントンくるくる オシャレにへんしん」うらわ美術館(2回 計41名)
- ⑥ 9月27日(日)「創造ラボ アリットで何が起こるか?!」入間市博物館アリット(80名)
- ⑦ 10月04日(日)アート寺子屋Ⅰ「同心円の空間モデルと住・衣・食」埼玉県立近代美術館(35名)
- ⑧ 11月15日(日)CAF・N共催「美術館が寄席になる! 三遊亭鬼丸師匠による落語とトーク」埼玉県立近代美術館(150名)
- ⑨ 11月22日(日)創作ダンス公演:蒼浩人「天衣無縫」埼玉県立近代美術館(68名)



通崎睦美講演会&木琴演奏会

- ⑩ 11月28日(土)「通崎睦美講演会&木琴演奏会」埼玉県立近代美術館(128名)
- ⑪ 1月9日(土)企画展「縫いと造形」関連ワークショップ「和紙で着物の雛形を作ろう」うらわ美術館(19名)
- ⑫ 1月23日(土)～4月11日(日)アーティスト・プロジェクト「島州一 Tracing-Shirtsを中心に」埼玉県立近代美術館(69日間 計10,259名)

## (2) 着がわりプロジェクトO

昨年度の中核となったアートプログラム。「衣」をテーマにミュージアムを出て、公園や商店街、廃工場など、まちなかで自在に展開した。

- ① 6月～11月「衣と体のせめぎあい」埼玉県立近代美術館ほか: パフォーマーとともに創りあげるコスチューム制作ワークショップ(ひびのこづえ監修)。公募・書類審査によって、実制作可能なコスチューム作品を選び、監修者のアドバイスやパフォーマーの意向を取り入れながら、制作をすすめた。完成したコスチュームをつけたパフォーマーが、埼玉県立近代美術館のほか県内各地でお披露目パフォーマンスを行った。

7月14日(火)～24日(金) 応募受付期間(応募: 計19作品)

7月14日(火)～24日(金)「ひびのこづえリズムプリズム Rhythm & Prism」展 埼玉県立近代美術館(来場者: 11日間 計1,520名)

7月18日(土)噴水パフォーマンス「水辺のふたり」北浦和公園(120名)

9月05日(土) 途中経過公開講評会

### ・お披露目パフォーマンス

9月27日(日)「創造ラボ」入間市博物館アリット(80名)

10月12日(月・祝)「〈き〉がわりを〈き〉がえる」Kawaguchi Art Factory(58名)

10月25日(日)「ハロウィン・フェスタ」北浦和西口銀座商店街(60名)

11月08日(日)「ヒアシンズハウス夢まつり」連携プログラム別所沼公園(46名)

### ・ファイナルイベント

11月21日(土)「ファイナル・イベント」北浦和公園(約300名)

- ② 4月～11月「See Sew 時間のきものプロジェクト」See Sew(写真家・浅見俊哉さんと衣裳家・田村香織さんのユニット)によるプロジェクト。感光剤を塗布した反物に季節のシルエットを定着させ、この反物を仕立てて移ろいゆく季節のきものを制作。この着物をまとったダンサーが「時間」をテーマに創作したダンスを踊り、積層する時間を楽しんだ。

7月12日(日)「時間のきもの 夏の公開制作&フォトグラムワークショップ」北浦和公園(参加者・来場者: 計22名)

8月16日(日)「時間のきもの 夏 創作ダンスパフォーマンス」北浦和公園(77名)

11月08日(日)「時間のきもの 秋 創作ダンスパフォーマンス」別所沼公園(46名)

- ③ 10月10日(土)～12日(月・祝)「〈き〉がわりを〈き〉がえる」Kawaguchi Art Factory(3日間計120名)

- ④ 9月26日(土)「きたうらワンがまちをジャック!」



きたうらワンがまちをジャック、ロボぐるみ大運動会

北浦和西口銀座商店街（参加者 215 名、ロボぐるみ大運動会 来場 50 名）

- ⑤ 10 月 25 日（日）「北浦和ハロウィン・フェスタ」北浦和西口銀座商店街（旅する服屋さんイベント来場 50 名）

### (3) SMF アート長屋の整備・強化

平成 27 年 3 月にネット上に誕生した SMF アート長屋を整備拡張し、サイバーとリアルを往還しながら、機能するアートプラットフォームの形成をめざした。

- ① 6 月～9 月 SMF アート長屋の整備・拡充  
② 12 月 31 日（木）～「宝船展 on the net」SMF アート長屋 物置＝蔵  
③ 11 月 1 日（日）アート寺子屋Ⅱ「アートプラットフォーム形成のためのメタデザイン」埼玉県立近代美術館（参加 38 名）  
④ 1 月 13 日（水）～17 日（日）「宝船展@ MOMAS」埼玉県立近代美術館（5 日間計 660 名）



宝船展@ MOMAS

### (4) 食と現代アート（次年度企画調査準備）、旅する小さな家（前年度継続展開）関連プログラム

- ① 8 月 11 日（火）～23 日（日）「アート日和 旅する小さな家がやってきた@ MOMAS」埼玉県立近代美術館（体験参加 12 日間 計 1,104 名）  
② 11 月 12 日（木）～24 日（火）「アート日和 旅する小さな家がやってきた@楽風前庭」楽風庭園（12 日間 計 500 名）  
③ 9 月中～下旬「北浦和食堂」プロジェクト・プレ調査  
④ 12 月 6 日（日）アート寺子屋Ⅲ「北浦和食堂 事前調査報告会&ワークショップ」埼玉県立近代美術館（参加者 31 名）

## ■ 広報・報道記事

### □ 新聞・雑誌

- ・「SMF って何？埼玉県のミュージアム連携事業に参加しています」川口市立アートギャラリー『アトリア・ニュース』2015 年 7・8 月号
- ・「SMF〈あなたと どこでも アート／着がわりプロジェクト〉はじまりました」（中村誠）埼玉県立近代美術館ニュース『ソカロ』2015 年 8・9 月号
- ・「第 10 回〈ヒアシンスハウス夢まつり in 別所沼〉活動報告」（津村泰範）、「ヒアシンスハウスと旅する小さな家」（佐野哲史）ヒアシンスハウス会報『風の詩』p.2～3、p.6 2015 年 10 月 1 日
- ・「北浦和ハロウィンジャック 2015」リビングさいたま 2015 年 10 月 24 日号
- ・「〈衣と体のせめぎあい〉ファイナルイベント」たまログ（さいたま PR センター）2015 年 11 月 1 日号
- ・「アート日和〈旅する小さな家がやってきた@楽風〉」ショッパー 2015 年 11 月 6 日号
- ・「アート日和 旅する小さな家がやってきた@楽風」埼玉新聞 2015 年 11 月 11 日
- ・「コスチューム制作ワークショップ〈衣と体のせめぎあい〉完成作品披露」埼玉新聞 2015 年 11 月 18 日
- ・「仲間つないでアート発信 公立 5 ミュージアム連携 知恵出し合い楽しめる場に」（増田愛子）朝日新聞 2015 年 11 月 18 日
- ・「刺激いっぱいアートパーク」『散歩の達人』2016 年 1 月号 p.15（2015 年 12 月 21 日）

### □ 放送

- ジェイコムさいたま 2015 年 8 月 16 日～31 日 ひびのこづえ作品展、北浦和公園噴水パフォーマンス  
ジェイコムさいたま 2015 年 9 月 16 日～30 日 ロボぐるみ制作ワークショップ  
ジェイコムさいたま 2015 年 10 月 16 日～31 日 きたうらワンがまちをジャック  
ジェイコムさいたま 2015 年 11 月 16 日～30 日 北浦和ハロウィンジャック 2015  
ジェイコムさいたま 2015 年 12 月 1 日～15 日 〈衣と体のせめぎあい〉ファイナルイベント

### □ SMF PRESS（本事業ニュース紙）

- 22 号（2015 年 9 月）「あなたとどこでもアート／着がわりプロジェクト」（中村誠）／「衣と体のせめぎあい、始まる！」（山尾聖子）／「SMF アート長屋に物置！？」（柴山拓郎）／連携美術館情報（小野寺茜）  
23 号（2015 年 9 月）「“き”がわりを“き”がえる」（三

浦清史) / 「きたうらワンがまちをジャック！」(石上城行) / 「時間のきものプロジェクト」(浅見俊哉) / 「〈衣と体のせめぎあい〉お披露目パフォーマンス」(山尾聖子) / 「アート日和 旅する小さな家がやってきた @楽風」(佐野哲史) / 連携美術館情報 (小野寺茜) 24号 (2016年1月) 「幸福な日 衣と体のせめぎあい ファイナルイベント」(ひびのこづえ) / 「通崎睦美講演会&木琴演奏会」(渡辺恭伸) / 「北浦和食堂プロジェクト事前調査報告会&ワークショップ」(石上城行) / 連携美術館情報 (小野寺茜) 25号 (2016年3月) 「一年間を振り返って」(三浦清史) / 「衣と体、プロとアマの〈せめぎあい〉」(山尾聖子) / 「〈時間のきものプロジェクト2015〉を終えて」(浅見俊哉) / 「アート長屋と宝船展の船出」(中村誠) / 連携美術館情報 (小野寺茜)

## ■ 委員等名簿

### □ 実行委員会

委員長：建島哲 (埼玉県立近代美術館館長)  
委員：青木穂 (ジェイコムさいたま南局局長)、稲葉康久 (うらわ美術館館長)、今宮照久 (テレビ埼玉ミュージック社長)、芋川修 (埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課長)、上野正 (川崎市立美術館館長)、佐藤定夫 (東京電機大学理工学部教授・情報システムデザイン学系長)、佐藤達哉 (埼玉新聞社文化くらし部部长)、高橋幸次 (日本大学藝術学部教授)、高橋弘行 (NHKさいたま放送局放送部長、自 2015.6.12)、鶴谷真治 (NHKさいたま放送局放送部長、至 2015/6/11)、西勝啓祐 (入間市博物館 ALIT 館長)、本田貴侶 (埼玉大学教育学部名誉教授、学校法人峯徳学園理事)、福田哲也 (埼玉県県民生活部文化振興課長)、三浦清史 (Saitama Muse Forum 代表、建築家)、山下浩文 (川口市立アートギャラリー ATLIA 館長)

### □ 運営委員

青山恭之 (建築家/うらわ建築塾代表)、石上城行 (埼玉大学教育学部芸術講座〔美術分野〕准教授)、梅津あづさ (入間市博物館アリット学芸員)、奥野由利 (CAF. N 事務局/画家・造形教室主宰)、小野寺茜 (川口市立アートギャラリー・アトリア美術専門スタッフ)、北原立木 (ヒアシンスハウスの会代表/文芸誌『孤帆』主宰)、柴山拓郎 (作曲家/東京電機大学理工学部准教授)、高橋博夫 (文芸誌『孤帆』『梓』『第3次同時代』同人)、谷平絵美子 (川崎市立美術館主幹)、藤井香 (埼玉県舞踊協会理事/彩のくに創作舞踊団)、矢花俊樹 (埼玉県

立近代美術館担当課長)、山尾聖子 (杉野服飾大学フランス語講師)、脇元重彰 (うらわ美術館指導主事)、渡辺恭伸 (須田刻太研究会理事)

### □ 協力委員

浅見俊哉 (アーティスト/KAPL 代表)、大澤加寿彦 (ミュージシャン/KAPL 会員)、菊澤伸悦 (有限会社ファインズ代表)、木村昭司 (デザイナー/デザイン工房きら代表)、草野律子 (建築家/アルテクトル事務局長/東洋大学ライフデザイン学部講師)、小宮幸子 (埼玉県立近代美術館フレンド広報委員)、齋藤はるか (アートサポーター/会社員)、佐野哲史 (建築家/ヒアシンスハウスの会事務局)、長沢晋 (美術家/CAF. N 会員)、中村元 (写真家)、中村隆 (デザイナー/有限会社アームズ代表)、野本翔平 (bug-depayse /パフォーマンス)、柳原敬 (会社員/KAPL 会員)

### □ 事務局 埼玉県立近代美術館内

事務局長：高柳正行 (埼玉県立近代美術館副館長)  
事務局員：三井康浩 (同 総務担当部長)、平岡孝善 (同 総務担当主任)、山田恵 (同 総務担当主 事)、大越久子 (同 学芸主幹)、五味良子 (同 学芸員)、中村誠 (同 主任専門員兼学芸員)、笠原たまき (同主任)、菖蒲澤侑 (同 非常勤職員)

## ■埼玉県立近代美術館フレンド

埼玉県立近代美術館フレンドは、会員が美術館の情報を直接受け取ることで美術館活動に積極的に参加し、また会員相互の交流を深め、美術館活動を支援することを目的としている。略称：ファミス (fam.s = friendsofartmuseum, saitama)

### ■会員数

609 件 (人) (平成 28 年 3 月 31 日現在)

内訳：一般会員 381 人、ペア会員 73 人、学生会 10 人、家族会員 87 家族 (256 人)、賛助会員 (個人) 17 人、賛助会員 (法人) 19 団体、特別賛助会員 22 団体

### ■活動内容

#### 1. 企画委員会

##### ①ファミス日帰り見学会

「アートと花を巡る旅」 / 5 月 26 日 (火)

見学地：柳澤紀子氏アトリエ (版画家)、ベルナーレ・ビュフェ美術館、資生堂アートハウス / 参加者：35 名 (うち会員 32 名)

##### ②ファミス海外美術館見学会

「中欧の美術を巡る旅」 / 11 月 17 日 (火) ~ 11 月 24 日 (火)

見学地：国立マイセン磁器製作所、ミュシャ美術館、アルテマイスター美術館、プラハ城、美術史美術館、他

参加者：14 名 (全員会員)

##### ③ファミスコンサート

「谷川俊太郎×谷川賢作 詩とピアノの調べ」

開催日：2 月 20 日 (土)

開催場所：埼玉県立近代美術館講堂

参加者：88 名 (全員会員)

#### 2. 広報委員会

①『ファミス通信』第 33 号の発行 (5 月)

②『ファミス通信』第 34 号の発行 (11 月)

#### 3. ミュージアム・ショップ委員会

①美術館リニューアルオープン記念フェアの実施

②サマーセールの開催 / 8 月 1 日 (土) ~ 8 月 31 日 (月)

③他美術館ミュージアム・ショップの視察

#### 4. 事務局

①『平成 26 年度フレンド年報』の発行 (7 月)

## ②会員募集キャンペーンの実施

### ■担当後記

◆今年度は 4 月より美術館がリニューアルオープンし、ファミスも新しく、ペア会員の増設と入会金を無料にする制度をとりいれました。美術館見学会や会報誌の発行等により美術館活動に貢献することができました。(事務局・野口恵子)

### ■埼玉県立近代美術館フレンド役員名簿

平成 28 年 3 月 31 日現在

氏名	現職等	備考
清水 武司	秩父地域利用者 写真家	会長
内田 和子	秩父地域利用者	副会長
増野 武夫	県北地域利用者	顧問
丸山 晃	県西地域利用者 埼玉新聞社相談役	
小林 真	秩父地域利用者 デザイナー (株)コア代表	広報委員
滝沢 布沙	県北地域利用者 染色家	
石川 信子	県南地域利用者	ミュージアム・ ショップ運営委員
大久保敏三	県西地域利用者 (株)丸広百貨店 代表取締役会長	
水野 晶子	県南地域利用者	ミュージアム・ ショップ運営委員
金川 京子	県南地域利用者	広報委員長
遠藤 俊明	県東地域利用者	ミュージアム・ショッ プ運営委員長
依田 衣恵	県南地域利用者	企画委員
荒井 康博	県南地域利用者 (株)テレビ埼玉 常務取締役	
小口 良三	県南地域利用者	監事
田沼 利将	県南地域利用者 (財)長島記念財団 常務理事	監事

## ■貸館事業

当館地階には県内の美術団体や美術家の作品発表の場として、一般展示室1～4が設けられている。この一般展示室が、美術館の目的や運営方針にふさわしい利用に供されるよう利用申込みについて審査するため、埼玉県立近代美術館利用審査会が設置されている。また、講演会や集会などの会場として講堂を貸し出している。平成27年度の一般展示室の利用状況は次表のとおりで、団体展、グループ展、個展などの形態で、日本画、洋画、彫塑、現代美術、書、写真などさまざまな分野の作品が展示された。

### 一般展示室

- ・利用単位：1週間（月曜日の午後1時→翌週月曜日正午）。連続の場合は最長3週間。
- ・使用料（1週間につき）：  
一般展示室1—234,360円、2—90,720円、  
3—52,920円、4—30,240円

### 講堂

- ・利用単位：1時間
- ・使用料：1時間あたり2,160円

## ■一般展示室利用状況

No.	展覧会名	開催期間 H27年度		開催 日数 (日)	利用室	分野	展示 点数 (点)	観覧 者数 (人)	一日平均 観覧者数 (人)
		自	至						
1	大槻綾子染色画展	4月11日	4月19日	8	3	書、染	50	883	110
2	女流画家 石田雪雅展	4月11日	4月12日	2	4	油彩・陶作ほか	35	282	141
3	第43回主体美術武蔵野作家展	4月14日	4月19日	6	1	水彩・油彩・ドローイング	65	895	149
4	浦和写真クラブ作品展「自然と風土」	4月14日	4月19日	6	2	写真	73	1,025	170
5	彩の国写真倶楽部第11回展	4月14日	4月19日	6	4	写真	77	1,013	168
6	第20回記念彩の国さいたまきりえ展	4月21日	4月26日	6	2・3	きりえ	93	1,890	315
7	加藤修絵画展	4月21日	4月26日	6	4	水彩、油彩	33	980	163
8	第39回埼玉女流工芸展	4月23日	4月26日	4	1	工芸	174	1,994	498
9	第19回埼玉二科展	4月28日	5月3日	6	1～4	油彩、彫刻、デザイン	175	2,514	419
10	第7回キルトリーダーズ埼玉作品展	5月5日	5月10日	6	1	パッチワークキルト	100	1,748	291
11	フォト・トルトゥーガ展2015	5月5日	5月10日	6	2	写真	85	1,283	213
12	米沢俊明絵画展	5月5日	5月10日	6	3	水彩、油彩、ドローイング	42	623	103
13	彩美会展	5月5日	5月10日	6	4	日本画、水彩、油彩、工芸	52	1,165	194
14	第65回埼玉県美術展覧会（県展）	6月2日	6月24日	20	1～4	日本画、洋画、彫刻、工芸、書、写真	2,101	28,287	1,414
15	第34回埼玉県高等学校写真連盟写真展	7月1日	7月5日	5	1	写真	1,012	1,375	275
16	NO.4 小林満風展	7月1日	7月5日	5	2	油彩	45	608	121
17	第3回蒼の会油彩画展	7月1日	7月5日	5	3	油彩	44	591	118
18	白黒散歩	7月1日	7月5日	5	4	写真	60	711	142
19	第14回埼玉独立展	7月7日	7月12日	6	1	水彩、油彩	69	727	121
20	第9回埼玉モダンアート展	7月7日	7月12日	6	2・3	水彩、版画、彫刻ほか	25	637	106
21	第32回自然写真の会「彩」写真展	7月7日	7月12日	6	4	写真	33	660	110
22	第53回新構造埼玉展	7月14日	7月19日	6	1	水彩、油彩、ドローイングほか	107	830	138
23	第5回風を描く展	7月14日	7月19日	6	2	日本画、水彩、油彩	49	668	111
24	第27回白の会洋画展	7月14日	7月19日	6	3	油彩、パステル	25	736	122
25	奄美大島紬糸であんだ「エイ子の編衣」展	7月14日	7月19日	6	4	創作ニット	39	433	72
26	第42回埼玉二紀展	7月21日	7月26日	6	1～4	油彩、彫刻	125	1,220	203
27	17th BANSEI EXHIBITION	7月28日	8月2日	6	4	インスタレーション	102	629	104
28	第29回墨芳展	7月29日	8月2日	5	1～3	書	146	1,043	208
29	第11回水彩連盟埼玉支部展	8月4日	8月9日	6	1	水彩	56	1,056	176
30	第22回基の会展	8月4日	8月9日	6	2	水彩、油彩、アクリル	20	1,001	166
31	第25回旺玄会埼玉支部展	8月4日	8月9日	6	3・4	水彩、油彩、日本画ほか	57	857	142
32	第49回平和美術展	8月11日	8月16日	6	1～4	絵画、彫刻、工芸ほか	318	2,474	412
33	「日本の鍔金—いもの形」展'15	8月18日	8月30日	12	1	鍔金	72	1,933	161
34	第3回展覧会書展	8月18日	8月23日	6	2・3	書	147	1,107	184
35	ボスケッチ・第17回「保倉勝美の世界展」	8月18日	8月23日	6	4	ボスケッチ	100	893	148
36	第6回埼玉植物画の会作品展	8月25日	8月30日	6	2	水彩	116	1,587	264
37	第3回ポローニア絵画展	8月25日	8月30日	6	3	油彩、ドローイング、アクリルほか	28	946	157
38	祈りのかたち 仏像彫刻展	8月25日	8月30日	6	4	彫刻	52	1,415	235
39	第32回埼玉県写真サロン	9月1日	9月6日	6	1	写真	595	1,244	207
40	第5回華耀会展	9月1日	9月6日	6	2	日本画	70	595	99
41	田中いく子・田中美沙姉妹展2015	9月1日	9月6日	6	3	油彩	22	484	80
42	個展。ひととひと伊藤浩	9月1日	9月6日	6	4	油彩	45	648	108
43	第59回埼玉書道展	9月10日	9月13日	4	1～4	書	712	1,301	325
44	第29回（公募）埼玉創元展	9月15日	9月20日	6	1	日本画、水彩、油彩ほか	100	1,091	181
45	橋本和明作品展 自然・社会・街・人々	9月15日	9月20日	6	2	水彩、油彩、ドローイングほか	210	670	111

No.	展覧会名	開催期間 H27年度		開催 日数 (日)	利用室	分野	展示 点数 (点)	観覧 者数 (人)	一日平均 観覧者数 (人)
		自	至						
46	永井肇・都築邦春二人展	9月15日	9月20日	6	3	油彩、工芸	21	677	112
47	第6回「自写自賛」写真展(小中四平個展)	9月15日	9月20日	6	4	写真	59	526	87
48	第25回全国平成水墨画展	9月23日	9月27日	5	1	水墨画	100	1,103	220
49	第24回工芸新樹会公募展	9月22日	9月27日	6	2	工芸	52	723	120
50	第29回フォトグループフェーズ写真展	9月22日	9月27日	6	3	写真	82	671	111
51	ヨシズミトシオ展-モルドバ国立国際美術館開館記念-	9月22日	9月27日	6	4	油彩、ドローイング、版画	26	817	136
52	(国際公募) 並細並現代美術展埼玉選抜展	9月29日	10月4日	6	1	絵画、彫刻、工芸	131	1,012	168
53	西遊会美術展	9月29日	10月4日	6	2	水彩、油彩、版画	60	680	113
54	第7回フォトサークル・オプト写真展	9月29日	10月4日	6	3	写真	145	623	103
55	第10回彩ボタンカルアート展	9月29日	10月4日	6	4	水彩	43	582	97
56	第30回埼玉県版画家協会展	10月6日	10月11日	6	1	版画	54	693	115
57	第15回美術協会純展・埼玉支部展	10月6日	10月11日	6	2	水彩、油彩、ペン画、パステル画	43	644	107
58	第15回彩絵展	10月6日	10月11日	6	3	水彩、油彩	24	551	91
59	第22回漢水会展	10月6日	10月11日	6	4	日本画、水彩、油彩、書ほか	59	653	108
60	第48回第一美術協会埼玉支部展	10月13日	10月18日	6	1	絵画、彫塑、工芸	159	1,271	211
61	第10回悠友展	10月13日	10月18日	6	2・3	水彩、油彩	52	811	135
62	西尾路子展	10月13日	10月18日	6	4	現代美術、インスタレーション	20	703	117
63	第16回地平展	10月20日	10月25日	6	1	絵画、彫刻、インスタレーション	100	698	116
64	第36回太平洋埼玉展	10月20日	10月25日	6	2・3	水彩、油彩、版画	76	888	148
65	黒木正美油彩個展	10月20日	10月25日	6	4	油彩	38	591	98
66	第49回埼玉三軌展	10月27日	11月1日	6	1	日本画、水彩、油彩	47	974	162
67	第31回アート現字展	10月27日	11月1日	6	2	油彩、アクリル、コラージュ	31	634	105
68	第3回私の自然展	10月27日	11月1日	6	3	写真	55	695	115
69	小笠原明代展	10月27日	11月1日	6	4	日本画	40	561	93
70	第23回全日中展・日中書画芸術大展	11月3日	11月8日	6	1~3	水彩、水墨画、書、日本画ほか	400	887	147
71	全日写連浦和支部写真展	11月3日	11月8日	6	4	写真	38	614	102
72	2015 C A F ネビュラ展	11月11日	11月22日	11	1~4	絵画、彫刻、インスタレーションほか	107	1,844	167
73	第58回埼玉県高校美術展	11月25日	11月29日	5	1~4	絵画、彫刻、工芸ほか	970	3,206	641
74	第54回埼玉県高等学校書道展覧会	12月1日	12月6日	6	1~4	書	767	2,081	346
75	第49回全日本書道芸術展	12月8日	12月13日	6	1・2	書	200	433	72
76	絵画グループあじ彩と県立桶川高校美術部ジョイント絵画展	12月8日	12月13日	6	4	水彩、油彩、版画	47	495	82
77	佳羊会グループ展	12月10日	12月13日	4	3	油彩	41	305	76
78	美術工芸家 渋谷龍大個展	12月15日	12月20日	6	3	油彩、工芸、書	30	439	73
79	第6回彩友会ボタンカルアート展	12月15日	12月20日	6	4	水彩	80	922	153
80	障害者アート企画展「Discover あなたも見つけに」	12月16日	12月20日	5	1	絵画、彫刻、工芸、写真、書ほか	289	1,674	334
81	凜の会展	1月5日	1月10日	6	1~4	油彩	238	1,246	207
82	第9回ラルゲット展	1月12日	1月17日	6	2	日本画、油彩	23	574	95
83	樹は巡る	1月12日	1月17日	6	4	写真	40	487	81
84	宝船展@MOMAS	1月13日	1月17日	5	1	美術、音楽ほか	25	660	132
85	第28回漢山会書作展	1月15日	1月17日	3	3	書	44	366	122
86	第42回埼玉書連役員新春展・併催「大作展」	1月19日	1月24日	6	1~4	書	275	998	166
87	文教大学美術専修卒業制作展	1月26日	1月31日	6	1	絵画、彫刻、工芸、写真、映像ほか	12	654	109
88	椿会 創作人形展	1月26日	1月31日	6	4	工芸	61	766	127
89	第39回埼玉国展	2月2日	2月7日	6	1	油彩、写真	87	1,023	170
90	第20回大潮会埼玉支部展	2月2日	2月7日	6	2・3	水彩、油彩、パステル	45	1,044	174
91	第15回埼玉県弘済会会員文化創作展	2月2日	2月7日	6	4	絵画、彫刻、工芸、写真、書ほか	130	1,115	185
92	女子美術大学同窓会埼玉支部作品展「第11回彩の会」	2月9日	2月14日	6	2~4	絵画、彫刻、工芸、写真	94	1,044	174
93	埼玉県小・中学校児童生徒美術展 第8回中央展覧会	2月12日	2月14日	3	1	水彩、版画、彫刻、工芸	200	1,229	409
94	埼玉大学教育学部美術専修2015年度卒業制作展、有志展 彩展	2月16日	2月21日	6	1・2	絵画、彫刻、工芸、写真、デザインほか	29	885	147
95	第12回埼玉県ネージュアールフォト支部展	2月16日	2月21日	6	3	写真	72	794	132
96	平成27年度埼玉大学大学院美術教育専修修了制作展	2月16日	2月21日	6	4	絵画、彫刻、工芸、インスタレーションほか	15	675	112
97	第41回埼玉書道三十人展	2月23日	2月28日	6	1	書	41	2,207	367
98	第37回野美展	2月23日	2月28日	6	2	絵画、彫刻、工芸	68	978	163
99	第20回さきたま書展	2月23日	2月28日	6	3	書	62	770	128
100	ヨシズミトシオ展・Mi hai Chiuaru展	2月23日	3月6日	12	4	油彩、ドローイング、版画、水墨画	42	1,411	117
101	東日本大震災の記録展	3月1日	3月6日	6	1	油彩、写真ほか	171	915	152
102	澤田石貴子展	3月1日	3月6日	6	3	ドローイング、版画、ミクソドメディア	35	398	66
103	日本経済産業省情報政策推進課 情報政策推進課 情報政策推進課 情報政策推進課 情報政策推進課 情報政策推進課 情報政策推進課 情報政策推進課 情報政策推進課 情報政策推進課	3月4日	3月6日	3	2	ソフトウェアアート、工業・情報デザインほか	21	233	77
104	第40回「U展」	3月8日	3月13日	6	1~3	絵画、彫刻ほか	181	1,280	213
105	第10回グループ彩炎 陶展	3月8日	3月13日	6	4	工芸	93	742	123
106	平成27年度埼玉県立美術系高等学校 作品展・卒業制作展	3月16日	3月20日	5	1~4	美術、工芸、デザイン	1,000	2,361	472
107	第21回彩の国さいたま きりえ展	3月22日	3月27日	6	2	きりえ	102	1,391	169
108	第39回埼玉現展	3月22日	3月27日	6	3・4	油彩、工芸、写真	75	1,017	231
109	第44回主体美術武蔵野作家展	3月29日	4月3日	6	1	水彩、油彩、ドローイング	58	908	151
110	彩の国写真倶楽部第12回展	3月29日	4月3日	6	3	写真	54	729	121
111	第46回ありあるクリエーションズ芸術企画 恒星個展	3月29日	4月3日	6	3	絵画、写真、パフォーマンスほか	53	299	49
112	第55回浦和書道春季展	3月31日	4月3日	4	3	書	93	422	105

## ■入館状況

### ■平成 27 年度入館者数一覧

平成 28 年 3 月 31 日現在

	入館者数	展 示 事 業							
		MOMAS コレクション	企 画 展 示					原田直次郎展	企画展計
			private, private わたしをひらく コレクション	動く、光る 目がまわる！ キネティック・アート	すごいぞ、 これは！	(旅)と芸術 発見・驚異・夢 想			
開催期間	4/11(土) ～ 3/31(日)	4/11(土) ～ 3/31(日)	4/11(土) ～ 5/24(日)	7/4(土) ～ 9/6(日)	9/19(土) ～ 11/3(火・祝)	11/14(土) ～ 1/31(日)	2/11(木・祝) ～ 3/27(日)		
(日) 日数	297	285	39	57	41	60	41	238	
(人) 観覧者数 利用者数	230,603	43,768	5,893	13,447	6,542	8,646	12,595	47,123	
(人) 1日当 り平均	776	153	151	235	159	144	307	197	
有 料	一般個人	21,550	2,598	5,009	3,011	3,922	7,921	22,461	
	一般団体	2,260	216	69	294	210	90	879	
	大高個人	1,312	132	376	147	303	237	1,195	
	大高団体	8	55	3	2	5	0	65	
	(人) 合計	25,130	3,001	5,457	3,454	4,440	8,248	24,600	
(人) 無料	-	18,638	2,892	7,990	3,088	4,206	4,347	22,523	

	普 及 事 業					貸館事業	
	企画展 関連	MOMAS コレクション 関連	教育・普及 関連	SMFアート 関連	資料閲覧室	一 般 展示室	埼玉県美術展 覧会
開催期間	5/10(日) ほか	4/19(日) ほか	4/11(土) ほか	7/12(日) ～ 3/31(木)	4/11(土) ～ 3/25(金)	4/11(土) ～ 3/31(木)	6/2(火) ～ 6/24(水)
(日) 日数	29	17	54	-	289	245	20
(人) 観覧者数 利用者数	1,923	721	4,288	15,524	2,568	105,384	28,287
(人) 1日当 り平均	61	42	79	-	8	428	1,414
有 料	一般個人	-	-	-	-	-	-
	一般団体	-	-	-	-	-	-
	大高個人	-	-	-	-	-	-
	大高団体	-	-	-	-	-	-
(人) 合計	-	-	-	-	-	-	-
(人) 無料	-	-	-	-	-	-	-

月別入館者数	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
(人) 入館者数	16,065	21,148	30,971	17,357	21,546	17,131	17,868	18,474	11,700	15,510	18,174	24,659	230,603

## ■名簿

### ■埼玉県立近代美術館協議会委員

平成 28 年 3 月 31 日現在

選出区分	氏名	現職
学校教育関係者	岸田 昌久	埼玉県市町村教育委員会連合会会長 行田市教育委員会委員
	矢嶋 廣明	埼玉県美術教育連盟連盟長 熊谷市立星宮小学校長
社会教育関係者	塗師 祥一郎	埼玉県美術家協会会長 洋画家
	布施 智範	(一財)地域創造プログラムディレクター
家庭教育関係者	志村 洋子	埼玉県家庭教育振興協議会理事
学識経験者	井原 實	株与野フードセンター代表取締役社長
	岩瀬 千潮	タウン誌編集者 (一社)「アコレおのみや」編集室代表
	加藤 典子	加藤こどもの造形教室主宰
	栗岡 辰弥	NHKさいたま放送局副局長
	野口 真理	陶芸家 (一社)日本建築美術工芸協会総務委員会会報編集部会部会長
	野中 味恵子	浦和区区民会議会長
	帆足 亜紀	横浜トリエンナーレ組織委員会プロジェクトマネージャー

### ■埼玉県立近代美術館資料選考評価委員会委員

平成 28 年 3 月 31 日現在

氏名	現職	任期
滝沢 恭司	町田市立国際版画美術館学芸担当係長	27. 5. 1 ~ 29. 4. 30
酒井 忠康	世田谷美術館長	27. 5. 1 ~ 29. 4. 30
野地 耕一郎	泉屋博古館分館長兼学芸課長	27. 5. 1 ~ 29. 4. 30
山梨 俊夫	国立国際美術館長	27. 5. 1 ~ 29. 4. 30
金子 賢治	茨城県陶芸美術館長	27. 5. 1 ~ 29. 4. 30

### ■埼玉県立近代美術館利用審査会委員

平成 28 年 3 月 31 日現在

氏名	現職	任期
飯野 一朗	彫金作家 東京芸術大学教授	27. 1. 15 ~ 29. 1. 14
栗崎 浩一路	書家 熊谷市美術家協会顧問	27. 1. 15 ~ 29. 1. 14
小澤 基弘	洋画家 埼玉大学教育学部教授	27. 1. 15 ~ 29. 1. 14
齋藤 研	洋画家 独立美術協会会員	27. 1. 15 ~ 29. 1. 14
内藤 五瑠	日本画家 日本美術院特待	27. 1. 15 ~ 29. 1. 14
増田 明弘	写真家 全日本写真連盟埼玉県本部顧問	27. 1. 15 ~ 29. 1. 14
芋川 修	県教育局 生涯学習文化財課長	27. 1. 15 ~ 29. 1. 14

### ■埼玉県立近代美術館職員

平成 28 年 3 月 31 日現在

担当	職名	氏名	
総務担当	館長(非常勤)	建島 哲	
	副館長	高柳 正行	
	担当部長	三井 康浩	
	主任	平岡 孝善	
	主事	山田 恵	
	主任専門員	飯田 容崇	
	管理担当	担当課長	仲宗根克子
		主任	神部 哲也
		主任	結城 孝
		主事	小久保 俊也
企画展・教育・広報・常設展・収蔵品担当	学芸主幹	大越 久子	
	主任学芸員	平野 到	
企画展担当	学芸員	吉岡 知子	
	学芸員	五味 良子	
教育・広報担当	主任専門員兼学芸員	前山 裕司	
	主任学芸員	梅津 元	
常設展・収蔵品担当	担当課長	矢花 俊樹	
	主任	笠原 たまき	
	主任	落合 範崇	
	主任専門員兼学芸員	中村 誠	
	嘱託(非常勤)	葛蒲澤 侑	
	主任学芸員	渋谷 拓	
	学芸員	大浦 周	
	学芸員	鳴原 悠	
	嘱託(非常勤)	菱村 宏子	



埼玉県立近代美術館年報〔平成 27 年度〕

発行：埼玉県立近代美術館

〒 330-0061 さいたま市浦和区常盤 9-30-1

電話：048-824-0111(代)

平成 29 年 3 月 30 日